

表 彰

岸村歩一藤川徳吉(七)
留萌支廳
留萌町歩一伊藤喜三吉(七) 同歩一上杉周吉(七) 同歩一松岡重吉 同歩一原藤原正(七) 同歩一増毛町歩軍金留喜曾次(七) 同歩一小平藥村歩一米山富太郎(七) 同歩一上祖父吉(七) 同歩一石川豊太郎(七) 同歩一山口角之助(七) 同歩一丸鹿村歩上津田喜九郎(七) 同歩一吉前村歩一高橋克徳(七) 同歩一岡大川與三吉(七) 同歩一遠別村歩一小松頼助(七) 同歩一高橋繁吉(七) 同歩一堤竹蔵(七) 同歩一上土生久三郎(七) 同歩一梨澤環(七) 同歩一玉屋直義(七) 同歩一幌延村歩一玉井吉之助(七) 同歩一初山別村歩二伊藤忠次(七) 同歩一幌延村歩上石原格(七)

釧路國支廳 (五八名)

釧路村歩二鈴木彌一(七) 同歩一島取村歩一高橋巳之助(七) 同歩一梅里金五郎(七) 同歩一津川玉三(七) 同歩一濱中村歩上黒木達也(七) 同歩一西湯友次郎(七) 同歩一上宮部剛太郎(七) 同歩一西野嘉太郎(七) 同歩一市川里治(七) 同歩一矢柄主吉(七) 同歩一友田武太郎(七) 同歩一河村安太郎(七) 同歩一上田竹松(七) 同歩一松本末吉(七) 同歩一高田重晴(七) 同歩一相馬房太郎(七) 同歩一上土崎安太郎(七) 同歩一須崎源太郎(七) 同歩一藤田進三郎(七) 同歩一富田廣徳(七) 同歩一犬野氏秀(七) 同歩一佐

十勝支廳 (三八名)

上士幌村歩上柴子之助(七) 同歩一清水町歩一白井平植(七) 同歩一草浦岩吉(七) 同歩一玉田剛八(七) 同歩一越前谷三三郎(七) 同歩一丹後乙松(七) 同歩一眞屋台造(七) 同歩一正村駒一三船謙壯(七) 同歩一尾村歩一瀧谷新三郎(七) 同歩一東尾六(七) 同歩一川西村歩一手島榮太郎(七) 同歩一

根室支廳 (二八名)

根室町歩一窪田駒太郎(七) 同歩一山下誠藏(七) 同歩一澤喜代三郎(七) 同歩一一大森嘉一(七) 同歩一鈴見乙次郎(七) 同歩一小原虎次郎(七) 同歩一青地爲男(七) 同歩一上湯川四太(七) 同歩一森本久造(七) 同歩一岡宮忠司(七) 同歩一境十次郎(七) 同歩一佐藤辰次郎(七) 同歩一青山廣吉(七) 同歩一岩佐龍太郎(七) 同歩一西村千代吉(七) 同歩一和田村歩一渡部房之助(七) 同歩一阿部龍太郎(七) 同歩一三谷松太郎(七) 同歩一福田與吉郎(七) 同歩一中村芳次郎(七) 同歩一鳥福太郎(七) 同歩一羅白村歩

釧路市 (一三名)

歩軍五月女徳太郎(七) 同歩一森田元造(七) 同歩一青柳三喜彦(七) 同歩一武藤貞次郎(七) 同歩一上村田三郎(七) 同歩一畑田源五(七) 同歩一上筒井實作(七) 同歩一奥野要(七) 同歩一岡本下梅太郎(七) 同歩一上野田國造(七) 同歩一岩室清一(七) 同歩一歩軍横地吉次郎(七) 同歩一大隈仁三郎(七)

帯廣市 (五名)

歩一寺西茂三郎(七) 同歩一藤野茂次郎(七) 同歩一野野真一(七) 同歩一岡本關次(七) 同歩一橋本源吉(七)

統計功勞者

昭和十三年二月十一日、紀元節當日、北海道廳長官より表彰された統計事務功勞者は左の如く市町村吏員八名、統計調査吏員百十九名であつた。

市町村吏員(北相村)金山辰五郎(美瑛村)池田宗美(磯谷村)松澤市太郎(森町)福澤弘毅(白老村)牧正直(廣尾村)真

五七〇

岩榮松(調子府村)品田米雄(釧路市)田中善治
△統計調査員【石狩】(札幌村)佐藤福太郎(藻路村)横田秀春(翠似村)温井定七(手稲村)川上作二(豊平町)石丸米一(白石村)山口徳一(廣島村)吉本幸太(江別町)山之内常次(石狩町)戎屋清高(富岡村)吉野外次良(厚田村)横村淺之丞(恵庭村)橋本徳藏(千歳村)木村藤三郎(空知) (美瑛町)吉田茂、前田敏雄(長沼村)増田孝市、杉本勝太郎(幌加内村)今野千秋、向田作次郎、加藤賢三【上川】(東藻路村)長谷川重次郎(東旭川村)松田正義(神楽村)堤虎一(水山村)高橋安之(富岡村)佐藤功藏(美瑛村)高橋頼造(上富良野村)吉河喜治(富良野町)高島五作(占冠村)伊藤喜久治(和寒村)阿部龍平(網走村)矢萩吉太郎(士別町)淺井譽興(風連村)尾家文作(留文村)小沢方徳次郎(後志) (朝里村)熊谷九之七(高島町)三好謙造(釧路村)五十嵐清次郎、石原五郎松、中村賢一(大江村)寒河江四郎(赤井川村)井上利三郎、吉橋一二三、笠本繁造(神恵内村)佐佐木吉藏(前田村)福谷水八、長谷川繁(登足村)曾我熊太郎(倶知安町)高橋三之助、福盛龍七(東倶知安村)村上里美、丸子徳治(留壽都村)粕谷清夫(狩太村)高橋由次郎(南尻別村)今村榮吉、中里興一、佐々木富藏(東島牧村)川内兼太郎(檜山) (利別村)服部圓太郎(渡島) (木古内村)淺田捨吉(大野村)福田清太郎(湯川町)小宮

表 彰

駒太郎(戸井村)三島信太郎(白尻村)熊谷喜久太郎(森町)遠藤正吉(八雲町)高地俊彌(鷹揚) (壯志村)香川壽男、岩倉菊五郎、野村勝平(白老村)大浦市次郎(日高) (三石村)上田幸吉(茨木村)村下茂太郎、西賢一(浦河町)辻志平(樺似村)源井伊作【十勝】(大正村)廣瀬榮(芽室村)三田村豊、松久秀雄(新得町)湯淺貞(浦幌村)佐藤泉、岡崎重太郎(廣尾村)今井兵一【釧路】(濱中村)須佐和助、村上徳三(太田村)河合小一郎(音別村)橋本基三郎(羅別村)依田定七、久田康四郎(根室) (別海村)立澤利三郎、千田一志、渡邊英男、青笹重次郎【網走】(網走町)富岡勝平(斜里村)奈良豊(小清水村)千葉徳之進(野付牛町)土谷勉(調子府村)中村金松(常呂村)川谷信雄(生田原村)菊地源吉(遠軽町)佐藤幸七(下湧別村)石塚義雄(紋別町)石川福次(上湧別村)池浦重【宗谷】(稚内町)加藤清之丞(網走村)田島孟(中頓別村)中村密理(枝幸村)佐藤定次(香深村)西友吉(鶯泊村)小笠原勝藏(鶯泊村)藥谷政秀(香形村)菊地元助(仙法志村)柴田市郎【留萌】(増毛町)橋本廣治、松浦東三郎(羽幌町)須田銀次郎(遠別村)堀川潜朗、大木文吉【小樽市】三上市太郎、吉田和吉

農林統計従事員 昭和十三年(第三次)農林大臣選奨の市町村農林統計従事員中、北海道から

左の町村吏員二名、統計調査員三名が選ばれ、紀元節當日、道廳長官室で選奨状に選奨杯の傳達式が行はれた。
△書記 野村郡別海村伊藤松太郎、札幌郡札幌村三浦直雄
△農林統計調査員 釧路市進藤松藏、河西郡大正村鈴木勝彌、浦河郡浦河町山本傳吉
陸軍軍功勞者 昭和十二年陸軍軍功勞者(地方官民三十五名、在郷軍人六十四名)の表彰は昭和十三年二月十一日附を以て行はれ三月十日第三十三回の陸軍記念日を期し全國一齊に傳達されたが第七師團關係左の通である。
△感謝状銀章功勞章 小樽市石山町島彰△表彰状銀章功勞章 紋別郡下湧別村退役陸軍歩兵少尉飯野豊吾、沙流郡門別村退役陸軍歩兵少尉山本謙平、旭川市宮下通退役陸軍歩兵中尉水野良一
成績優良の青年團 昭和十二年度における青年運動青年團共勵の成績優良の廉により昭和十三年四月二十九日北海道廳長官より表彰せられた青年團は左の

五七一



表彰

市(天野正雄(喜茂別村)片石岩吉(上ノ國村)寺田勲次郎(大野村)高坂千代松(小樽市)紀伊國典四郎(奥尻村)...

消防功勞者

北海道廳では昭和十三年五月三日の消防記念日を卜し火災現場における功勞者二名、消防組及び組員を表彰した。

△火災現場における功勞者 上士幌消防組小頭富田清、森町消防組第一消防手池田三太...

時の功勞者表彰

生活改善中央會では昭和十三年六月十日第十九回「時の記念日」に際して時の功勞者、生活改善功勞者百九十三件の表彰式を日比谷公園市政會館に於て挙行了。

事例(特別優良第一席) 兩龍郡妹背牛村新千代第三農事實行組合(優良) 天鹽郡遠別村第十區農事實行組合(農家經濟自給化優良事例)...

農實組事務共勵會 北海道農會主催の第四回(昭和十二年度)農事實行組合事務共勵會の結果は左の通。

表彰

合、一己村出雲組合、同村殖産組合(後志)喜茂別村元水養農場組合、同村フルボツケ組合、熱帯村養蠶組合、黒松内上歌才組合(檜山)...

社會事業功勞者

北海道社會事業團體聯合會總會は昭和十三年九月十四、十五日の兩日札幌市において開催、社會事業功勞者として左の兩氏が表彰され

小樽協會病院書記武石千春△函館市官廳學院教諭菊地周助

臨を仰ぎ舉行された。北海道余市救難所は 殿下より輝く救難所旗を拜受の光榮に浴した。同救難所は大正八年九月二十一日の創立にかゝり爾來今日に至るまでの成績は左の通である。

△自治功勞者(表彰) 佐久間勲吉、兩角嘉平、中川平蔵、村井謙次郎、田代末喜、藤澤太次郎、淺野吉太郎、伊藤政次郎、加藤徳太郎、西野米作、有江忠五郎、種田貴、加藤寅之助、江端實松、西村幸治、古澤篤太郎、笹原國治、聖鶴吉、小西太一郎、岡村龜吉、松田常吉、伊藤賢蔵、五十嵐興三郎、永沼長之丞、富田登吉、澤本善太郎、水沢次郎、鈴木佐五郎、千葉保治、釣井外次郎、駒木隆助、今泉彌一郎、平賀雅、吉岡直彦、菅原新助、戸田三郎、坂下作治、坂下順子、萩原一郎、市川四郎、豊田由太郎、三島通孝、中村良吉、長尾定義、鈴木謙、石井彦市、佐藤權次郎、白土義雄、澤澤木松、長沼勇治、渡邊清治、坂本初蔵、佐藤長八(感謝状)...

坂市太郎、宇野鶴太、高城規一郎、直原位平 △篤行者(表彰) 渡邊市太郎 △軍事功勞者(感謝状) 故山田勝男 △教育功勞者(感謝状) 故高間源蔵 檜山支廳では昭和十三年四月二十七日自治制發布五十周年記念式及び表彰式を支廳樓上において舉行したが、當日町村吏員及び町村會議員にして自治功勞者として支廳長前田豊次郎氏より表彰状を授與せられたものは左の通。



表彰

たほか、功勞者に謝狀、記念品を贈呈した。  
中尾幸太郎、大久保外次郎、大久保助次郎、武田武、佐藤左右吉、新保慶次郎、豊岡真八

**長沼土功組合創立記念** 夕張郡長沼村土功組合創立三十周年記念式は昭和十二年十月六日同村中央小學校において舉行、左記諸氏に感謝狀及び表彰狀を贈呈した。

△感謝狀 故牧野善之助、故河井淺次郎、故實土賀光丞、故泉藤太郎、故泉重朝、故福井正之、故高木悌次郎、杉武一郎、故沼田喜三郎、故伊藤廣幾、故男爵高木兼寛、故男爵池田謙齊、故子爵實吉安純、河東田經清、子爵安部信明、故山本竹松、植村貞一郎、金崎和吉、福山米吉、故阪由平、故廣田廣吉、故田中平次郎、故佃忠太郎、越路市平、桃野久藏、古川龜太郎、道井宗次郎、龜宿彌二郎、山田貞藏、西村種三郎、高橋傳吉、故山口正長、故稻見貞藏、増田彰、馬場茂也、田中修、頼綱彌三、甲斐正正顯、今井延太郎、近藤喜寛、中井正路、村上壬平、故守屋葵清、東郷喜代治、服部八十次、阪正太郎、酒井市太郎、松村茂樹、牧野善一、吉田一義、市原伊平

治郎

**幕別村自治功勞者** 十勝支廳管内幕別村では自治制發布五十年を記念して昭和十三年四月二十九日聖旨奉體奉告祭同じく記念式、表彰式、慰靈祭等を舉行したが左記諸氏に對し表彰狀感謝狀を贈呈した。

△表彰狀(村會議員、各公職者にして十五年以上勤続者) 高山徳藏、吉田太吉、加藤唯藏、松田徳吉、山田才次郎、久保房吉、橋本彌一郎、高島松次郎、伊藤有信、原齋一  
△感謝狀(村會議員、各公職者にして十年以上勤続者) 小野氏平、小川角次郎、高山與作、金澤空齋、横山平右衛門、高山信治、小野九平、廣瀬長三郎、清水藤次郎、漆原長五郎、松田幸四郎、大塚平費、野村左一郎  
**眞狩別村記念祭** 虻田郡眞狩別村開村四十二年竝に留壽郡村より分村十五年記念祭は昭和十二年四月一日舉行、左記功勞者を表彰した。  
故矢野盛之、山口宗作、藤川勝藏、西岡善太郎、前田松太郎、藤川治平、大西佐源太、横内伸太、村中乙松、大西清吉、北山兵太郎、打田得三、岡田直次郎

**譽れの栗澤村** 空知郡栗澤村は昭和十三年四月十七日全國六十九箇町村の一に加へられ内務大臣より旌賞されたので、これが奉告祭、披露式竝に自治制發布記念式及び開村記念祭を同年四月二十五日舉行したが左記功勞者及び優良團體に表彰狀を贈呈したほか、各種功勞者に感謝狀を贈った。

△優良團體 必成社住民組合、茂世五三三農事實行組合、第三區第二農行組合、私立瀧波消防組、栗澤村婦人會清眞布支部、栗澤村青年團茂世五支部、栗澤村處女會東支部  
△公職功勞者 板東松雄、房川喜代太郎  
△産業功勞者 中島多七、中井清五郎、片山菊藏  
△褒賞條例による賞勳局總裁表彰 河野重平  
△納税表彰規程による北海道廳長官表彰 耕成納税組合、最上納税組合  
**釧路の嵯峨氏表彰** 日本産業協會では昭和十三年五月六日總裁伏見元帥宮殿下の台端を仰ぎ東京市華族會館に産業貿易功勞者表彰式を舉行、北海道からは釧路市嵯峨久氏(漁業)が表彰された。

五七四

銃後の篤行者表彰

國民精神總動員銃後後援強化週間の昭和十三年十月八日、道廳長官より左の表彰者が發表された。

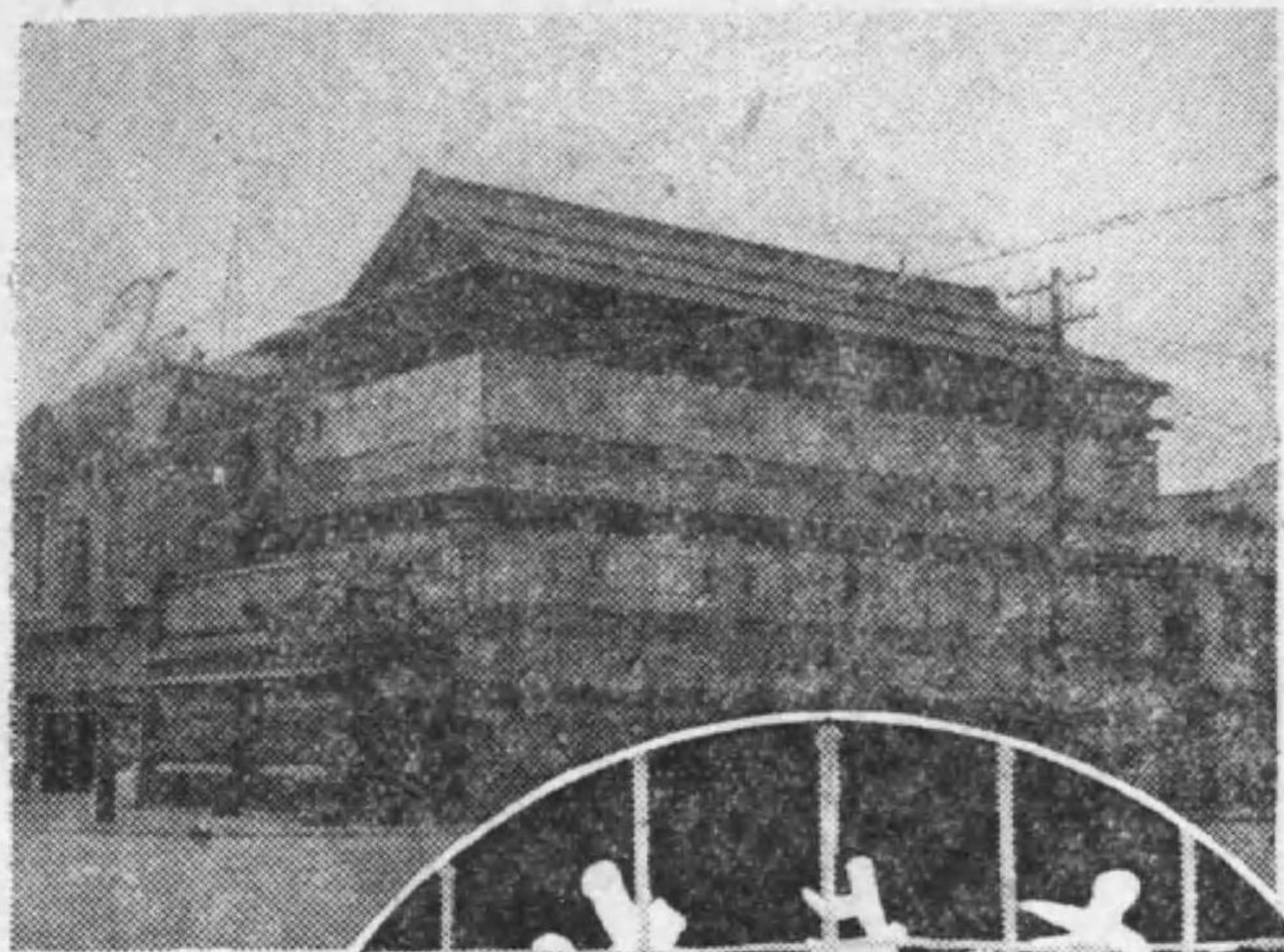
銃後後援及び出征軍人 戦歿軍人遺家族善行者

弟子屈村鈴木義光(三) 厚岸町 鹿野壽子(二) 爲取村吉田ナカ(三) 小樽村金子リサ(三) 旭川市加藤ウメ(三) 同三浦しづ(三) 帯廣市福田サキ(三) 同別村水上長吉(三) 千歳村山口はつよ(三) 同別村福木キクエ(三) 同渡部ミツ(三) 同別村高山ミヨ(三) 同内村袋忠三郎(不詳) 常呂村 生田精次(三) 池田町大坂マツ(三) 同村瀬ハル(三) 上富良野村長谷トヨ(三) 小樽村藤村多藏(三) 同湯島町清水さ、み(三) 同別村加納ハナ子(三) 富樫村水井いさを(三) 風連村 寺川みさ(三) 野太村千葉きよ子(三) 同水産川村キミ(三) 札幌市山田秋子(三) 同水産キミ(三) 湯島町川上サ、オ(三) 野太村第十八區(團體) 同別村愛國婦人會、大日本國防婦人會門別分會厚賀班(團體)  
**傷痍軍人善行者**  
(札幌市) 森佐久間、頭師由太郎、中江安藏(旭川市) 坂島三治、山田彌左(釧路市) 佐藤助次郎(函館市) 今井豊之丞、田村三之助(札幌市) 馬場慶太郎(爲取村) 中西幸次郎(倶知安町) 石田祐四郎(東倶知安町) 鎌田春吉(滝上村) 石立芳太郎(女満別村) 中村興三郎(上富良野村) 鹿間助五郎(江差町) 新出幸平



焼鳥 身正  
神戸牛 ちよつぽ  
寿司 中寿司  
名酒を 福本店  
天ぷら 蛙天





妻々焼傳門  
小と女と永

札幌大通西三  
電八〇三番

趣味・娯楽

本道の俚諺と民謡

札幌中央放送局では昭和十二年北海道における俚諺、民謡を調査したが、その結果は主要次の如くである。

一、アイヌ関係

アイヌ土人の間には言葉があつて文字がない。目よりするよりも耳に訴ふる記憶の鋭敏さのみ頼つてゐる關係上口傳者の誤もあり、又和人の想像も多分に含まれてゐることはまぬかれない。彼等の唄には音符も音階もなく、全くその時の氣持をもつて即興的に、出任せに悲哀なる口調をもつて自由に唄ふにすぎない。従つてその唄には感奮も起らず、また豪壯な氣分もな

趣味・娯楽

い。それはそれとして、幾百年の永きにわたり蝦夷ヶ島の主人として北海の山野に悠々自適してゐた彼等、一つの文明をもつて産み得ずして衰滅しようとしてゐる土人唯一の慰安であつたこれ等の唄は、單調なりとはいへ推賞すべき價值あるを認められる。

◇ユカラ(詞曲) ユカラはアイヌが理想的英雄として尊敬したある神が、實際としてアイヌに口授した長大の叙情詩として總對に信じてゐるもので、昔諺の所傳と稱せられ、古來の文獻に蝦夷淨瑠璃とか、長唄とかいはれたものがこのユカラであり、又別に口説とも呼ばれてゐる。

ユカラの一種(内容の筋)  
氷の上にとあるものがおちた世に氷ほどえらいものはあるまいな氷より太陽はもつとえらい氷は解けるではないか  
いな雪こそは太陽よりえらい

太陽をかくすではないか  
雲は一番えらい  
いな雲より風がえらい  
風は雲を拂ふではないか  
風こそ一番えらいものだよ  
いな風より樹がえらい  
樹は風を遮るではないか  
さればこそ樹が一番えらい  
いな樹より人がえらい  
人は樹を伐り倒すではないか  
さればこそ人は樹よりえらい  
さてこそ人は萬物の靈長なれ

このユカラの歌詞は数多くあるが、この種のもは往々子守唄(イフイ)として誦されたものである。  
◇アイヌ俗諺 「お正月のイヨハイチシ」イヨハイチシはアイヌの正月の唄である。アイヌは特に酒を好む。正月の目出度さを祝ふために神前に酒と餅を供し、一家近隣の若ども集りてこの唄を誦ふことを非常な楽しみとする。

歌 詞(意譯)  
今日はお正月で 空も晴れて  
樽前の煙も静かに東に流れてゐる  
今朝神意に雀が来て  
お婆さんく、と呼んだ  
そして 今年はお祭がよく 實子から澤山のお神酒をつくつて 神様に上げなさいと云つた  
鳥が祭壇に来て  
お婆さんく、と呼んだ

今年はお祭が澤山をつて 山でお婆さんの来るのを待つてゐるから 早くお山へおいでと云つた  
酒の丸木舟の上を飛びながら  
嗚が お父さんく、と呼んだ  
今年はお鮭もシリカツプも鯛も みなあるだけの仲間を誘つて 白老村に遊びに来る、と云うた  
こんな嬉しいことを知らせてくれた  
雀と鳥と嗚に何んとお禮したらよいか  
會所からいたゞいたおいしいお酒と  
大きなお餅を上げませう  
そして みんなで祝ひませう

◇熊祭

熊祭はアイヌはこれを熊送りといふ。アイヌの一大行事であつて多くの老若男女が数々の唄を唄つて囃す。この行事は熊の魂を天に送り返すといふ精神が根本をなしてゐる。アイヌの考では熊は神であるから肉體は何回殺しても更に生きかへつて地上に降り下り、更に獵に供することが出来るといふ或迷信から、これを一つの祭事としたと稱せられてゐる。この祭の儀式は普通十、十一月のころに行はれる。先づ大地に窟をしき、いろ／＼な寶物をかざり一つの神座を作る。この日を晴れと著飾つた男女は二歳を最期とする熊の周囲を「ホーホー」と恰度鳥の羽搏きするときのやうな格好で、手拍子面白く數回まはる。一方當日の主人役は來客に一體して酒を盛る。更に主客ともに熊の前で踊り狂ふ。

五七七







東郷修一(同)湯木好清(札幌市)戸澤春治(室蘭市)土肥金次郎(札幌市)富森利雄(室蘭市)沼田基三郎(空知郡)落藤藤吉(札幌市)大井孝石(東知安村)岡村新一郎(函館市)奥井直吉(下川村)恩賀徳之助(函館市)勝部正吉(札幌市)柿澤政雄(岩見澤町)葛西耕芳(函館市)渡治茂八(札幌市)多田久(野付牛町)田中祐治(函館市)田澤平五郎(旭川市)田尻稻登(小樽市)竹下高之助(札幌市)土屋恵司(帯廣市)辻好(久遠村)塚田治三郎(函館市)南部朝蔵(同)中西徳太郎(真岡町)中西利治(帯廣市)向山桃郎(小樽市)室本吉太郎(函館市)黒田辰五郎(豊原町)黒瀬金之助(小樽市)葛岡計策(落合町)久保田正一(岩見澤町)天野一二(落合町)山下説二(大泊町)的場仙太郎(函館市)眞木下喜一(同)牧野作助(小樽市)藤井平次郎(同)阿部合三(函館市)在田佐一(釧路市)秋元水造(落合町)安藤保美(釧路市)佐々木寛次(札幌市)木内幹(函館市)日良泰治(豊原市)三宅於鬼松(帯廣市)宮川庄太郎(真岡町)宮本金次郎(大泊町)平石淨信(香江村)瀧尾芳三郎(札幌市)世田三三(小樽市)勢渡逸男(帯廣市)鈴木千代壽(小樽市)菅原秋夫(豊原市)戸澤孝(函館市)

勝者左の如し。(参加資格者三級以上、決勝譜紙上掲載順)  
眞岡三級米山雄次郎、札幌二級工藤富藏、岩見澤三級高野黒二、帯廣初段勢渡逸男、函館二級大久保武陽、小樽三級山本文吉、旭川三級栗林猪太郎、室蘭三級岩崎庸夫、大泊三級京徳幸雄、釧路二級格高橋藤次郎、豊原一級一柳直一  
札幌有段者勝抜戦 本社主催札幌有段者勝抜戦を昭和十三年二月六日より澤田四段宅に於て開始、参加戦士十二氏、十八回戦の結果左の成績を以て三月十五日終了した。  
優勝土肥金次郎初段、二等木村重次初段格、三等向山桃郎初段  
▼鳥村利博五段 昭和十二年八月日本棋院五段鳥村利博氏來道、本社依願により室蘭西島二段と對局後東北海道棋界の視察をなされ札と同時に應召急返歸京。

道樺有段者一覽

- △六段 福井資明(札幌市)
△五段 白土誠太郎、内田金次郎(以上函館市) 田子晃三(札幌市)
△四段 栗柄弘藏(札幌市) 小原幸一郎

将棋

長谷川一朗、中上國三郎(以上函館市)稻吉忠三郎(小樽市)山崎松四郎(釧路市)
△三段 松本魚眼洞、高谷茂、草野芳男、岩城剛助、高橋豊吉(以上札幌市)外山平吉、松浦義雄、近藤留次郎、林誠一郎、高麗三郎、本山重太郎、一戸象三(以上函館市)大平正敏(釧路市)工藤彦藏(小樽市)森忠好(芽室村)今越定雄(帯廣市)龜田金次(大泊町)近藤一郎(旭川市)小野登吉(室蘭市)
△二段 鳥居温次郎、阿部爲吉、金井熊治、田所直一、伊藤好道、土田出來藏、池上吉藏、奥田耕村、長谷川久太郎、池野養瑛、田中爲藏(以上札幌市)向井盛之助、鳥井與三郎、加藤健、岡部直次郎、沖田西雄、高野金之助、宇内義江、山形才次郎、山本嘉七、藤山友郎、大瀧芳藏、佐藤源平、田島力雄(以上函館市)土屋與一、淺原寅男、富樫徳太郎、中川儀三、瀧戸辰藏、峰尾隆、宮村健治、黒田長太郎、柳澤善之助、藤井守一(以上小樽市)坂井照明、中尾恒雄、梅田孫一、谷川俊二、明石寅太郎(以上帯廣市)遠山太郎(池田町)堀澤清、楠本久次郎、松橋喜代治、中島勇、中村清三郎、田中清一、高橋愛次郎(以上釧路市)佐藤興助(苫小牧町)遠藤龍雄(由仁村)利國實(栗山村)加納字平(増毛町)笹沼愛造、小野三三(以上野付牛町)鈴木彌三郎(滝ノ上村)蟹瀬幸一、鈴木時助(以上豊原市)酒井安兵衛(旭川市)竹内孝四郎、池田勝郎(以上

大野村)川端善次郎(角田村)
△初段 木田茂晴、岡田信、岩田彦三郎、納谷信造、村田二三、中村一俊、氏家孝、太黒兼、志賀亮、中村清治、玉川清吉、田所謙次郎、片山政治、岡頭三武郎、岡島盛三、山口泰文、吉田政雄、川村武五郎、山田彦市、村井木治、水野銀治郎、井上節男、林勇次郎、林茂、佐野良造、千葉五郎、金島徳志、小南留次、伊藤常吉、淺野朝吉、原常市、湯淺秀郎、伊藤孝一、伊藤貞吉、加島節、中村勝治、松尾廣次、北川佐太郎、山下秀之助、杉本是正、山口喜一、前田潔、鷹部厚福平、土肥金次郎、佐藤水、辻小三郎、三浦榮一、西塚儀平、桑原修、宮島貞、山高清市、荒川作正、小村光二(以上札幌市)吉田吾三郎、伊藤勝太郎、廣瀬儀一、永山久藏、水野忠作、大瀧長松、村上大三郎、甲州谷福藏、湯藤銀太郎、木村喜太郎、細野清太郎、赤岩一郎、清水孫三郎、佐々木喜太郎、松浦捨次、坂谷爲吉、増田悦、古川榮八、木村多吉、喜多村峰吉(以上函館市)稻田繁三(森町)小杉安太郎、富山芳郎、水野賢造、武田由太郎、平野清嗣、富樫武夫(以上小樽市)針間金藏、小川正治郎、干場仁八郎、池野千代松、三上朝雄、小原精造、堀籠平治、岩倉民治、佐藤健一、三股清次郎(以上釧路市)千葉約翰、大窪善太郎、岡崎興之助、加賀谷正直、高井俊夫、谷川利三、澤川春松、福久留雄、近藤福男、宮谷清太郎、

大崎一郎(以上帯廣市)高野潤平(豊原市)堀田太助、安宅義次郎、大塚泰三(以上岩内町)藤島四郎、伊藤芳太郎、柴田長五郎(以上倶知安町)坂本繁治(岩見澤町)清水利信(峰延村)池田忠信(角田村)今井平治郎(栗山村)下出長義(追分村)栗林徳一(西坂福次郎、上林重雄、伊部連一、青柳富士彦、田村晴太郎、石川貞吉、伊藤三次、瀧野多喜好(以上室蘭市)伊藤利孝、島田利吉、七條裕藏、石原源四郎(以上旭川市)澤本浩嗣(野付牛町)

道内主要将棋團體

北海道将棋聯盟(會長木田茂晴初段) △札幌將棋所(師範 福井資明六段) △札幌國將棋會(會長村田二三初段) △函館將棋所(師範白土誠太郎五段) △小樽將棋研究會(師範稻吉忠三郎四段) △釧路將棋研究會(師範山崎松四郎三段) △十勝將棋研究會(會長梅田孫一二段) △室蘭市將棋研究會(會長栗林徳一初段)

第二回全道選手権大會

昭和十三年三月十三日豫選會二十一、二十二、二十三の三日間決勝會を開催高谷茂三段(札幌)が優勝した。

中央棋士消息

關根金次郎名人昭和十三年八月五日上野野發來道、七日室蘭に於ける大會に臨み、札幌、釧路、旭川、函館等に於ける歡迎會に臨席すると共に登別温泉、定山溪温泉、阿寒国立公園、層雲峽、湯ノ川温泉等に遊んだ。

▼秋原淳八段 昭和十三年八月上旬來道、登別に遊ぶ。
▼坂口九彦七段 昭和十三年八月上旬來道、日高にある合兒を訪ねた後本道棋界を視察した。

映畫界

昭和十二年下半期より翌十三年上半期にかけての映畫界は例年になく幾多の事件のあつた年である。洋畫の輸入禁止、三時開演行制の實施、又戦時特別税として入場料税の徴收、日活の根岸所長誠首問題、又それが導火線となつた日活の負傷事件その他、これは今期に限つた譯ではないが、東寶對松竹プロックの抗争等がある。

主なる優秀映畫

今期の映畫界は劃期的の一大變動があつたにもかゝらず、傑作、佳作を多數に生み出した。大體に於てめばしい作品をあげて見る。

邦畫

邦畫では十二年九月に封切つた愛恋映(新興)を筆頭に人情紙風船(PC)廣原の魂(日活)流轉(松竹)人肌(新進)江戸の花和尚(日活)若い人(東寶)新進組東寶淺草の灯(松竹)限りなき前進(日活)風の中の子供(松竹)地獄(東寶)阿部一族(同)泣島小僧(同)出發(松竹)太陽の子(東寶)遠慮の辻(同)愛より愛(松竹)應援歌(新興)叫ぶ野武士(同)出世太閤記(日活)人生劇場殘俠篇(同)巨人傳(東寶)田園交響樂(同)等々、又相當問題になつた輸出映畫として國光の「國民の聲」などが、別な意味で東寶の「藤十郎の戀」も評判になつた。日活が社運を賭けて製作したといはれる「忠臣蔵」も亦書き流らす事の出来ない映

洋畫

港の掠奪者(東和商事提供)シエヴアリエの流行兒(同)失はれた地平線(コロムビア)暗黒街の彈痕(ユニオン)夕陽特急(メトロ)罪と罰(コロムビア)マドリッド最終列車(パ社)海の魂(同)歴史は夜作られる(ユニオン)巨人ゴレム(佛パテ・ナタン)眞夏の夜の夢(ワーナー)ブラーグの大學生(獨トビス)ドム底(東和商事提供)奴隸船(フォックス)スパイ戦線を衝く(獨ウファ)大地(メトロ)モダンタイムス(ユニオン)激怒(メトロ)我は海の子(同)開業聖(コロムビア)ひめごと(獨トビス)スター誕生(ユニオン)戦友(メトロ)今期の挿尾を飾つたものに有科試寫會として八月に封切られた「舞踏會の手帖」(佛ウオグ)がある。又洋畫中近年稀な興行成績を挙げたものにユニヴァーサル「オーケストラの少女」がある。



名畫の豊富な各映畫配給社のストックによるもので、その後に来る洋畫飢饉は漸次現れて来つゝあり、裏書するものに十三年度上半期の末には新版ものが出て来た。

本道主要封切映畫

(自昭和十二年九月至同十三年八月)

(題名下の括弧内は製作會社、1は監督、2は主演者)

邦畫

【九月】北支の空を行く(PCL) 1渡邊邦男2岡譲二▲東海道は日本晴(同)1瀧澤英輔2藤原釜足、岸井明▲夜の鳩(JO)1不明2竹久千恵子▲エノケンのちやつき金太(PCL)1山本嘉次郎2榎本健一▲お嬢さん(同)1山本嘉次郎2露立のぼる▲白薔薇は咲けど(同)1伏見修2入江たか子、佐伯秀男▲若旦那三國(東映)1重宗務2藤井貞▲男の債(松竹)1野村浩将2田中絹代、佐分利信▲鈴ヶ森(同)1井上金太郎2長二郎、好太郎、浩吉▲神祕な男(同)1佐々木康2上原謙▲さらば戦線へ(同)1宗本英男2オールスター▲正義日本(モリモト)▲實業▲若葉の夢(松竹)1佐々木康2川崎、高杉、佐野▲流轉1前篇(同)1二川文太郎2坂東好太郎▲男

の債(同)1後篇(同)1野村浩将2田中、佐分利▲傳平追討(同)1古野英治2本郷秀雄▲悦ちゃんの涙(日活)1伊賀山正徳2悦ちゃん、井染▲薫風一騎(同)1菅沼完二2尾上菊太郎▲牡丹燈籠(同)1衣笠十四三2澤村國太郎▲お父さんの歌時計(同)1吉村廉2山本嘉次郎、星玲子、橋公子▲戀山彦(同)1マキノ正博2阪東妻三郎▲怪盜山嶽隊(同)1辻吉朗2澤村國太郎▲報國義進(同)1伊賀山正徳2伊澤一郎▲愛恋帆(新興)1溝口健二2山路ふみ子、河津清三郎▲鞍馬天狗 千兩小判(同)1西原孝2嵐寛寿郎▲女性の勝利(同)1曾根千晴2山路ふみ子▲人生の初旅(同)1島津保次郎2大内弘▲宇都宮約天井(大都)1石山裕2阿部九州男▲エンコの顔役(同)1土方雄2大河百々代▲學生街の花形(同)1吉村操2水島、琴糸路▲おもちゃの天使(同)1土方雄2佐久間妙子▲肉弾隊(同)1石原英吉2水島、琴糸路▲河童祭(同)1吉村操2水島、琴糸路▲人情紙風船(PCL)1山中貞雄2前進座▲波止場やくざ(東映)1重宗務2三井、逢初、中野英治▲美しき謎(PCL)1不明2露立のぼる▲戦ひの曲(同)1渡邊邦男2岡譲二▲裸武士道(同)1久保菜穂2黒川彌太郎、花井蘭子▲怒濤を蹴つて(東映)▲足柄▲渡辺記録▲風流演歌隊(PCL)1伏見修2藤原、岸井▲江戸つ子三太(同)1山本嘉次郎2榎本健一▲福福1前篇(東寶)1成瀬巳喜男

2入江、逢初、竹久、高田裕▲朝の並木路(PCL)1成瀬巳喜男2千葉早智子▲次郎吉唄さん(松竹)1大曾根辰夫2高田裕吉▲湖上の豪傑(同)1宗本英男2桑野通子▲流轉1後篇(同)1二川文太郎2坂東好太郎▲戀も忘れて(同)1清水宏2桑野通子▲花形選手(同)1清水宏2佐野周二▲幽霊花嫁(同)1大曾根辰夫2光川京子▲背廣の王(日活)1清瀬英次郎2江川、横田▲八丁清太郎(同)1益田晴夫2澤村國太郎▲そんなの嫌(同)1水ヶ江龍一2杉狂児▲美しき謎(同)1渡邊五郎2轟夕起子▲夢の魔兜(同)1清瀬英次郎2伊澤一郎▲國境の風雲(同)1玉川映二2笠原恒産▲街の旋風(同)1清瀬英次郎2小杉勇▲祐大吉松(新興)1森一生2市川右太衛門▲結婚への道(同)1田中重雄2山田五十鈴▲元祿からくり帖(大都)1大伴龍三2杉山昌三郎▲嵐れ道場(同)1白井戦太郎2阿部九州男▲江戸の蝙蝠(同)1石山裕2阿部九州男▲ハツタリ天國(同)1八代綾2ハヤブサヒデト▲琵琶歌(同)1吉村操2琴糸路

【十一月】軍國子守唄(松竹)1原研吉2坪内美子、大塚君代▲敵國降伏(同)1秋山耕作2坂東好太郎、林長二郎、高田裕吉▲男の街(同)1竹久新2夏川大二郎▲雨の夜の抱擁(同)1深田修造2三宅邦子▲佐分利信▲からくり女唄(同)1岩田英二2坂東好太郎、久松三津枝▲暁は遠けれど(同)1佐々木康2田中絹代、佐分利

(同)1石田民三2原節子、黒川彌太郎▲若い人(同)1豊田四郎2市川春代、大日方傳▲新選組(同)1木村莊十二2前進座▲母の曲1前篇(同)1山本嘉次郎2原入江、岡▲番町皿屋敷(松竹)1冬島泰三2田中絹代、林長二郎▲浅草の灯(同)1島津保次郎2上原、高峰▲連軍の歌(同)1佐々木康2川崎、桑野▲唄えろ銀ちやん(同)1藤原次郎2坂本武、飯田蝶子▲歌(歡呼の春(同)1野村浩将2佐野、高峰▲人肌觀音(同)1衣笠貞之助2伏見信子、坂東好太郎、高田浩吉▲戀愛ハッピー航路(日活)1渡邊孝2杉狂児▲國民皆兵令(同)1益田晴夫2河部五郎▲戦士の道(同)1首藤壽久2大城龍太郎▲水戸黄門漫遊記(同)1池田富保2山本嘉一▲あたし幸福よ(同)1千葉泰樹2杉狂児▲盗人船(新興)1仁科紀彦2嵐寛寿郎▲美しき謎(同)1田中重雄2志賀美子▲旗本五人男(大都)1中島實三2杉山昌三九▲人語島大砲記1前篇(同)1石山裕2阿部九州男、大乗寺八郎▲同1後篇(同)1石山裕2阿部九州男、大乗寺八郎▲出世加賀屋(同)1中島實三2杉山昌三九▲當世箱入娘(同)1吉村操2大河百々代▲深夜の熱風(同)1八代綾2ハヤブサヒデト▲魔人幽霊塔1第一篇(同)1八代綾2ハヤブサヒデト

佐助(同)1山本嘉次郎2榎本健一▲愛國六人娘(同)1松井稔2神田千鶴子、露立のぼる▲娘よ何故かからふか(松竹)1野村浩将2佐野、高峰▲御神樂半次(同)1犬塚稔2高田浩吉▲鼻唄お嬢さん(同)1渡谷實2田中絹代▲鼠小僧初草鞋(同)1古野英治2坂東好太郎▲唄みつけた花嫁(同)1島津保次郎2上原、高峰▲風流大名(同)1冬島泰三2坂東好太郎▲新家庭園(同)1清水宏2高峰、桑野▲お静三(同)1大曾根辰夫2坂東好太郎、岡田嘉子▲限りなき前進(日活)1内田吐夢2小杉勇▲國定忠治(同)1マキノ正博2阪東妻三郎▲時代の霧(同)1清瀬英次郎2星玲子▲飛龍の剣(同)1稲垣浩2阪東妻三郎▲軍國の花嫁(同)1首藤壽久2北田二▲江戸の荒鷲(同)1マキノ正博2片岡千恵藏▲大金剛山の謎(同)1水ヶ江龍一2轟喜▲旗本傳法(新興)1牛原虚彦2市川右太衛門▲母よ安らかに(同)1田中重雄2山路ふみ子、高野由美▲呼子島1前篇(同)1曾根千晴2河津、淡島みどり▲八幡船隊(同)1押本七之輔2大友柳太郎、岡友和歌子▲有馬猫(同)1木藤茂2鈴木澄子▲輝く新天地(同)1勝浦仙太郎2高津、毛利▲静前(同)1野淵純2山田五十鈴▲呼子島 後篇(同)1曾根千晴2河津、淡島▲猿飛旅日記(同)1堀田正彦2市川男女▲軍國母の手紙(同)1久松靜児2築地、大内、毛利▲強者の戀(同)1曾根千晴2河津、毛利▲血闘兩

國橋(同)1竹久新2大谷、轟▲魔人幽霊塔1第二篇(大都)1八代綾2ハヤブサヒデト▲同1第三篇(同)1八代綾2ハヤブサヒデト▲男子の本懐(同)1土方雄2大塚弘▲肉弾兄弟(同)1和田敏三2水島道太郎▲藤間林太郎▲三巴白浪(同)1吉村操2琴、佐久間、木下▲若狭旗之助一家(同)1大伴龍三2松山昌三郎

【二月】たそがれの湖(東寶)1伏見修2江戸川蘭子、岸井明▲十字砲火(同)1阿部豊2大日方傳▲でかんしよ侍(同)1大谷俊夫2大河内傳次郎▲嵐の中の子供(松竹)1清水宏2爆弾小僧▲母の勝利(同)1藤原次郎2坪内美子▲銀色の道(同)1佐々木康2桑野通子▲突貫彌次喜多(同)1古野英治2阿部正三▲君に捧ぐ花束(同)1深田修造2川崎弘子▲自雷也(日活)1マキノ正博2片岡千恵藏▲悦ちゃん(同)1千原しのぶ▲倉田文二悦ちゃん▲響名三味線(同)1衣笠十四三2尾上菊太郎▲五人の斥候兵(同)1田阪具隆2小杉勇▲まごころ萬歳(同)1千葉泰樹2杉狂児▲血煙高田の馬場(同)1マキノ正博2阪東妻三郎▲警官挺身隊(同)1伊賀山正徳2大城龍太郎▲奴の小萬(新興)1木藤茂2山田五十鈴▲花びらく(同)1小石一榮、曾根千晴2高野由美▲現代の英雄(同)1田中重雄2立松、古川志賀▲元祿十六年(同)1森一生2市川男女▲之助▲柳生二葉堂(同)1仁科紀彦2市川右太衛門▲鐵拳涙あり(同)1伊奈精一



趣味・娯楽

村藤 2 江川宇禮雄 ▲松平外記(同) 1 尾崎純 2 澤田清 ▲血祭り三代目(同) 1 藤田潤一 2 月形記之介 ▲露筋道中(同) 1 マキノ新(同) 1 押木七之輔 2 大谷市川、大友鈴木 ▲花嫁勢ぞろひ(同) 1 曾根千晴 2 立松見、山路ふみ子 ▲小国民(同) 1 鈴木重吉 2 金澤コンチヤン、渡邊はま子 ▲二人は若い(同) 1 久松静児 2 河津清三郎、古川登美 ▲忍術太平記(同) 1 堀田正彦 2 月田一郎 ▲女は嘆かず(同) 1 曾根千晴 2 河津清三郎、眞山くみ子 ▲子育て仁義(同) 1 西原孝 2 尾上登五郎 ▲せつなき心(同) 1 伊奈精一 2 大内弘、高野由美 ▲荒木又右衛門(同) 1 伊藤大輔 2 市川右太衛門 ▲熱血手榴弾(大都) 1 土方雄 2 琴糸路、大塚弘 ▲母の陣(同) 1 吉村操 2 ハヤサヒデト ▲武者雄男性(同) 1 八代綾 2 ハヤサヒデト ▲忍術百々地三太夫(同) 1 大伴龍三 2 松山三郎 ▲辨天小町奴(同) 1 中島實三 2 杉山昌三九、三城輝子 ▲血戦坂東太郎(同) 1 石山裕 2 阿部九州男 ▲源之丞変化(同) 1 石山裕 2 阿部九州男

【四月】母ぞよく知る(松竹) 1 原研吉 2 三宅邦子、飯田蝶子 ▲沈黙の愛情(同) 1 宮本英雄 2 坪内美子 ▲神牡丹傳奇(同) 1 近藤勝彦 2 高田浩吉 ▲螢の光(同) 1 佐々木啓祐 2 高杉、高峰、桑野 ▲隠れ都市東寶 1 渡邊邦男 2 岡譲二 ▲ドレミハ大學生(同) 1 矢倉茂雄 2 藤原釜足、岸井明 ▲南京(同文化映畫部)記録映畫 ▲泣蟲小僧(同) 1 豊田四郎 2 林文夫、藤井貞、栗島すみ子 ▲エノケンの風来坊(同) 1 山本嘉次郎 2 榎本健一 ▲噫友田任長(日活) 1 伊賀山正徳 2 北詔二 ▲小町成(同) 1 久見田喬二 2 澤田清 ▲加賀百萬石(同) 1 辻吉朗 2 月形記之介 ▲人は若者(同) 1 千葉泰樹 2 杉狂児 ▲江戸の花和尙(同) 1 マキノ正博 2 片岡千恵蔵 ▲結婚の御注文(同) 1 富岡捷之伊澤一郎 ▲忠臣蔵(同) 1 マキノ正博 2 日活オールスター ▲仇討彦山権現(新興) 1 渡邊新太郎 2 大谷日出夫 ▲露骨の歌(同) 1 溝口健二 2 山路ふみ子 ▲男なりやこそ(同) 1 伊奈精一 2 立松見、古川登美 ▲岡野金右衛門(同) 1 森一生 2 南條新太郎、岡友和歌子 ▲懐かしの我が子(同) 1 勝浦仙太郎 2 大内弘、築地まゆみ、浦邊幸子 ▲大岡政談後編(同) 1 木村恵吾 2 大友柳太朗、岡友和歌子 ▲青春オリムピック(同) 1 久松静児 2 立松見、美鳩まり ▲女郎蜘蛛(同) 1 木藤茂 2 市川男女之助 ▲泣くな嘆くな若人よ(同) 1 青山三郎 2 立松見 ▲伊那節やくざ(大都) 1 大伴龍三 2 三城輝子 ▲赤尾の林蔵(同) 1 白井戦太郎 2 杉山昌三九 ▲寛水開闢往來(同) 1 中島實三 2 阿部九州男 ▲曉の陸戦隊(同) 1 永富映次郎 2 水島道太郎、藤間林太郎 ▲吾が子(同) 1 永富映次郎 2 琴糸路 ▲あしたの花嫁(同) 1 和田敏三 2 琴糸路 ▲俺は歌々子(同) 1 八代綾 2 ハヤサヒデト

【五月】ロッパのガラムサビ(東寶) 1 大塚弘、松風千枝子 ▲燃ゆる湯巻(同) 1 中島實三 2 松山三郎、三城輝子

【六月】巨人傳(東寶) 1 伊丹萬作 2 大河内傳次郎 ▲世紀の合戦(同) 1 伏見修 2 瀧岡田敏 2 古川敏波 ▲藤十郎の戀(同) 1 山本嘉次郎 2 長谷川一夫 ▲出發(松竹) 1 清水宏 2 田中絹代、上原謙 ▲關の彌太ツペ(同) 1 古野聖作 2 高田浩吉 ▲半處女(同) 1 佐々木啓祐 2 三宅邦子 ▲緋新の歌(同) 1 大塚弘 2 坂東好太郎 ▲一心太助(日活) 1 菅沼完二 2 尾上菊太郎 ▲東京要案(同) 1 清瀬英次郎 2 江川宇禮雄 ▲指環のワルツ(同) 1 吉村操 2 杉狂児 ▲旅の風来坊(同) 1 尾崎純 2 澤村國太郎 ▲海の護り(同) 1 清瀬英次郎 2 江川宇禮雄 ▲槍の權三(同) 1 菅沼完二 2 澤田清 ▲刺客商賣(同) 1 衣笠十四三 2 澤村國太郎 ▲右門捕物帖謎の人影(新興) 1 押木七之輔 2 淺香新八郎 ▲春の逃げ水(同) 1 勝浦仙太郎 2 新田實 ▲忍術江戸荒し(同) 1 堀田正彦 2 大谷日出夫 ▲ピストルと舞(同) 1 西原平 2 大内弘、古川登美 ▲怪談霧流帖(同) 1 木藤茂 2 鈴木澄子 ▲肥後の駒下駄(同) 1 仁科紀彦 2 大友柳太朗 ▲娘天晴れ(同) 1 青山三郎 2 夏目初太郎 ▲威風の青春(大都) 1 和田敏三 2 水島道太郎、大河百々代 ▲死の大陸(同) 1 白井戦太郎 2 杉山昌三九 ▲涙しなき愛情(同) 1 山内俊英 2 松風千枝子、大岡健策 ▲まほろし唐人船(同) 1 石山裕 2 三城輝子 ▲宮本武蔵(同) 1 大伴龍三 2 松山三郎 ▲銀平追分嵐(同) 1 白井戦太郎 2 杉山昌三九 ▲出世高虎(同) 1 中島實三 2 松山三郎

五八四

村土喜劇(同) 1 中島實三 2 杉山昌三九 ▲五郎正宗(同) 1 大伴龍三 2 大乗寺八郎 ▲三家三勇士(同) 1 石山裕 2 大都時代劇オールスター ▲女房三羽鳥(同) 1 和田敏三 2 水島道太郎 ▲スバイ戦線に臨む(同) 1 八代綾 2 ハヤサヒデト

【七月】田園交響(東寶) 1 山本薩夫 2 原節子、高田裕 ▲風車(同) 1 岸松雄 2 明日待子 ▲娘の母(同) 1 近藤勝彦 2 長谷川一夫 ▲純情夫人(松竹) 1 佐々木啓祐 2 上原、川崎、桑野 ▲名月給御門(同) 1 伊藤大輔 2 高田浩吉 ▲黒田誠忠録(同) 1 衣笠貞之助 2 加茂オールスター ▲母と子(同) 1 渡谷實 2 田中絹代 ▲国民の誓い、光 1 野村浩将 2 ゼツパ、リスト、佐野、廣瀬 ▲お菊ちゃん(日活) 1 森永健次郎 2 瀧口新太郎、橘公子 ▲巨編傳(同) 1 菅沼完二 2 澤田清 ▲少年突撃兵(同) 1 伊賀山正徳 2 片山明彦 ▲忠治子守唄(同) 1 マキノ正博 2 坂東三郎 ▲上海より(同) 1 水ヶ江龍一 2 井染四郎、瀧花久子 ▲出世大関(同) 1 稻垣浩 2 嵐寛寿郎 ▲男の魂(新興) 1 曾根千晴 2 廣澤虎造、河津清三郎 ▲母の魂(同) 1 田中重雄 2 オールスター ▲歌吉行燈(同) 1 仁科紀彦 2 山田五十鈴 ▲記の屋敷左衛門(同) 1 野瀬純 2 市川右太衛門 ▲トチカ娘行状記(同) 1 久松静児 2 美鳩まり、大内弘、古川登美 ▲妖魔白濁姫(同) 1 木村恵吾 2 鈴木澄子 ▲たのしき今宵(同) 1 伊奈精一 2 立松見、清水将夫 ▲美人貸問あり(大都) 1 吉村操

【八月】エノケンの法界坊(東寶) 1 倉藤寅次郎 2 榎本健一 ▲伊太八緒(同) 1 中川信次 2 黒川彌太郎、川上恰子 ▲愛情一路(同) 1 渡邊邦男 2 岡譲二、露立のぼる ▲航行遊園(同文化映畫部)記録映畫 ▲悦ちやん部隊(日活) 1 伊賀山正徳 2 悦ちやん ▲夢の長次(同) 1 尾崎純 2 澤田清 ▲次郎長一家(同) 1 不明 2 月形記之介、澤村國太郎 ▲人生劇場殘俠篇(同) 1 千葉泰樹 2 片岡千恵蔵、小杉勇、山本薩夫 ▲姉ごころ(同) 1 田口哲 2 瀧口新太郎、村田知子 ▲橋公子 ▲慶元吉彌組(同) 1 菅沼完二 2 澤田清、大倉千代子 ▲新選組(同) 1 マキノ正博 2 月形記之介 ▲茶房の花々(同) 1 春原政久 2 多摩川若手全女優 ▲彼女は何を覚えたか(松竹) 1 野村浩将 2 佐野周二、高杉早苗 ▲尊王祇園會(同) 1 冬島泰三 2 坂東好太郎 ▲菩薩の肩(同) 1 大曾根辰夫 2 川浪良太郎 ▲按摩と女(同) 1 清水宏 2 高峰三枝子 ▲炎の詩(同) 1 佐々木康 2 上原謙、桑野通子 ▲からゆき軍歌(新興) 1 三枝信太郎 2 志賀美子 ▲戀愛劍法(同) 1 寺門靜吉 2 大谷日出夫、市川男女之助 ▲人妻真珠(同) 1 伊奈精一 2 逢初夢子 ▲叫ぶ野武士(同) 1 牛原虚彦 2 大友柳太朗 ▲牡丹くづる、時(同) 1 沼波巧雄 2 淡島ひどり ▲右門捕物帖張子の虎(同) 1 押木七之輔 2 淺香新八郎 ▲妖魔地獄(大都) 1 大伴龍三 2 杉山昌三九 ▲喧嘩囃子

【九月】スキング(パラマウント) 1 ミツチエルライゼン 2 キヤロル・ロムバード、フレッド・マクマレー ▲一億年の歴史(ラスビン) 1 エドウィン・ケリウ ▲海の巨人(R.K.O.) 2 ヴィクター・マクラグレン ▲港の掠奪者(東和商事提供) 1 モーリス・トウルヌーエル ▲謎の殺人事件(同) 1 後藤昌信 2 水島道太郎 ▲極楽三人組(同) 1 北賢二 2 大岡健策

洋畫

日本銀次(同) 1 佐伯幸三 2 阿部九州男 ▲密林の怪人(同) 1 和田敏三 2 大岡健策 ▲直搦(同) 1 吉村操 2 琴糸路 ▲閻魔寺の怪猫(同) 1 石山裕 2 杉山昌三九、三城輝子 ▲忍術巴合戦(同) 1 大伴龍三 2 松山三郎 ▲謎の殺人事件(同) 1 後藤昌信 2 水島道太郎 ▲極楽三人組(同) 1 北賢二 2 大岡健策

趣味・娯楽

【九月】スキング(パラマウント) 1 ミツチエルライゼン 2 キヤロル・ロムバード、フレッド・マクマレー ▲一億年の歴史(ラスビン) 1 エドウィン・ケリウ ▲海の巨人(R.K.O.) 2 ヴィクター・マクラグレン ▲港の掠奪者(東和商事提供) 1 モーリス・トウルヌーエル ▲謎の殺人事件(同) 1 後藤昌信 2 水島道太郎 ▲極楽三人組(同) 1 北賢二 2 大岡健策

五八五



ヨシ・クロフォード、ウイリアム・ボウエル、フランシス・トーン△海の魂(パラマウント)...

リヴァー・ハーデー△微笑む人生(佛マルキ)...

た彼(パラマウント)1ウエズレイ・ラツクルス...

△開業(コロムビア)1ロバート・リス...

道徳出身映畫關係者

高野實業(東京京都撮影所男優)
【本名】能登谷新一(明治三十三年生)...

町二一
【本名】山口英雄、旭川市出身【現住所】...

【本名】小池政江、小樽市出身【現住所】...

演藝家來道一覽
(自昭和十二年九月、至同十三年八月)
【九月】野口洋々(浪曲家)...



友(同)雲井式奴(同)廣澤虎伯(同)本原亭辰奴(同)京山虎若丸(同)天中軒雲月(同)桃中軒雲右衛門(同)片岡松之助(同)市川團四郎一行(芝居)【六月】石井久子(同)舞踏家(松平吳(コロムビア歌手)渡邊順、奥平秋也、メリー(監演)コロムビア専屬)大城龍太郎(自活俳優)悦ちやん(同)石井美笑子(同)其の他、チエリ(ジヤズバンド)一行、松原千加士、柳伸一、九頭龍清三、藤井吉備男、井伊壽(コロムビア専屬)音楽家(京山小圓(演曲家)東家浦太郎(同)木村重成(同)東家梨園(同)三竹秋彌、服部伸、加藤淡尔一行(帝都名流演藝會)松風軒琴葉(演曲家)宮川左近坊(同)吉田奈良千代(同)宮川左近(同)桂小波一行(落語)湯才(演曲家)桂枝輔一行(湯才)雲井式部(演曲家)【七月】東海林太郎(求ドール歌手)結城通子(同)山中みゆき(同)西村小葉天(漫談家)篠田實(演曲家)相模太郎(同)市川牡丹一行(歌舞伎)【八月】大倉千代子(日活俳優)市川正二郎(同)京町ふみ子(同)市村羽左衛門(歌舞伎俳優)阪東三津五郎(同)市村家福(同)河原崎楠十郎(同)大谷友右衛門(同)片岡仁左衛門(同)瀧門博(演曲家)播磨屋一門中村吉之丞(歌舞伎俳優)中村吉之進(同)阪東竹若(同)中村吉六(同)市川門三郎(同)岩井松之助(同)中村吉兵衛(同)宮川右近(演曲家)東京少女歌劇團一行、藤山一郎(テイテウ歌手)松島詩子(キングレコード歌手)

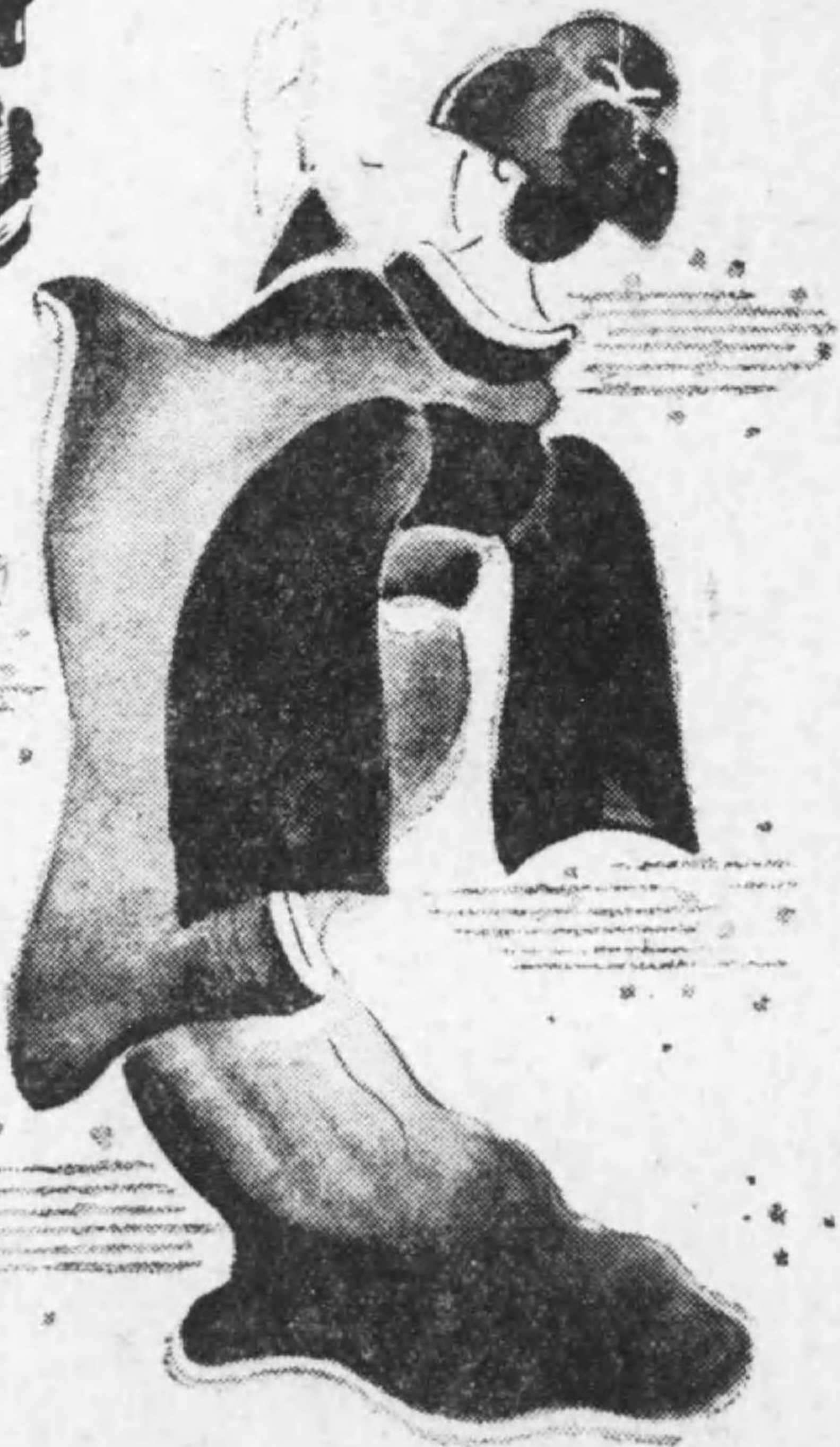
映畫會社本道配給所及支社

松竹北海道支社(札幌)支社長前川彌輔△東寶映畫北海道配給所(札幌)所長平原森男△日活北海道配給所(札幌)社長添田武源△新興キネマ北海道出張所(札幌)所長小笹正人△大都映畫北海道支社(札幌)社長吉田子之藏△東和商事北海道配給所(札幌)所長荒木俊夫△パラマウント映畫北海道配給所(札幌)所長石川慎二△コロムビア映畫北海道支社(札幌)支社長田村則顯△ワナー映畫北海道配給所(札幌)主任伊能幸作△ユニヴァーサル映畫北海道營業所(札幌)内山新之介、小池完△久保商店映畫部(札幌)主任久保一江△R K映畫北海道配給所(小樽)原寛治

七市主要映畫館及劇場一覽

天野房次郎▲美滿壽館六四二名、經營者本藤實吉  
 【小樽】若松館六三二名、經營者相江茂留▲富士館七四四名、經營者佐々木龜彦▲松竹座一四五四名、經營者佐野勝太郎▲日活館(株式會社)五九三名(内部改造)支配人横山正義▲日活演藝館四八六名(貸借契約)經營者田村正夫▲手宮館八二二名、經營者田村正夫▲大和館三八〇名、經營者樋口義次郎  
 【函館】函館日活館經營者大森喜八▲大門日活館經營者大藤留五郎▲寶來館經營者田中市太郎▲帝國館經營者菅原源太郎▲松竹座經營者古川晴彦▲中央座經營者出町鐵外▲公衆映畫劇場經營者及川哲夫▲富士館經營者中野渡きい▲銀映座經營者中村清右衛門  
 【旭川】美滿壽館六五〇名、經營者增田八郎▲神田館六〇〇名、經營者本間誠一▲大勝館八五〇名、經營者崎松清太郎▲國技館八〇〇名、經營者田中茂雄▲松竹座(松竹株式會社直營)一〇〇〇名、支配人相模▲富士館五〇〇名、經營者林龍二郎  
 【室蘭】日活館八一九名、經營者石動龍太郎▲錦座四九九名、經營者岩谷武夫▲大國館七七〇名、經營者澤田平八郎▲共榮館九〇〇名、日本製鋼所室蘭製作所▲大盛館四〇〇名、經營者岩谷武夫  
 【釧路】第三數島館六五七名、經營者淺川正一▲惠比壽館八〇七名、經營者畑江郁太郎▲第一オベラ館七四一名、經營者廣石進▲八千代座八六八名、經營者藤田リカ  
 【帯廣】榮樂座(株式會社)一〇〇〇名(貸借契約)經營者藤下儀右衛門▲キネマ館四九七名、經營者廣石民夫▲美滿壽館(株式會社)三三〇名(貸借契約)經營者堀端英一  
 内務省が、十二年度に於て推薦した映畫は「眞實一路」「陸軍士官學校」「五人の斥候兵」(以上日活)「敵國降伏」「風の子供」(以上松竹)「緊急を説く」「北支黎明」(以上東寶)「輝く日本」(フオックス)の八本で十三年に入つてからは日活の「瀧淵」一本のみである。  
 × 昭和十二年九月以降輸入禁止となつてゐたアメリカ映畫は、昭和十三年十月内務省の洋畫輸入緩和により新作品が數十本輸入される事となつた。  
 × 昭和十三年十一月月中旬松竹大船スター忍節子、大河三鈴の兩嬢が來道した。  
 × 十三年十月下旬福田園遊氏及び松竹大船スター川崎弘子嬢が來道各地を訪問した。  
 × 小樽市花園町映畫館松竹座は昭和十三年十一月四日午後十時五十分頃同業屋より出火全焼した。

旭高砂 酒造



旭市川 店造酒山檜小 元造釀



新設交響楽の華壇

金五の厚生

電九提衛三世五  
電五二五五五

# ラヂオ

## 大衆娯樂の雄

映畫とレコードとラヂオ、この三つは今日大衆娯樂の中心層をなしてゐるものであるが、その中で何が最も大衆と緊密に結びついてゐるかといふと、それはラヂオの演藝放送であるといはねばならない。三百五十萬以上の受信機臺数を有して、少くとも一日に一千萬以上の大衆をラヂオに結びつけてゐる放送娯樂を凌駕するものはまづあるまい。ところで、この数字的にいつて壓倒的優位を占めるラヂオ娯樂を通じて事變を境とする大衆娯樂の様相乃至動向を知ることには興味あることである。

ラヂオ

した「聴取者の嗜好と聴取状況」から判断すると次のやうである。

ラヂオの放送種目に對する大衆の關心の差が、事變前と事變後とでどれだけの変化を示してゐるか。

誰でも常識的に氣づくことは、事變發生以來國民の關心がその日／＼のニュースに集中されたことである。ニュースはどれだけ聴かれてゐるか。事變後の数字はラヂオ大衆のニュース聴取率を九二%と示してゐる。これが事變前は三七%であつた。殊に南京陥落當時、徐州會戰當時の数字は、ラヂオはその機能の効果を百%以上に發揮したといつてよい。

以上は事變前後のニュース聴取の變化であるが、ニュースと演藝放送と對比すると、事變前にはニュースは聴落しても娯樂放送は聴かうといふ傾向があつた。娯樂放送の下位に甘んじてゐたニュースは事變後になつてその地位を顛倒したのである。

こんどは娯樂放送の種目を事變の前後で比較して見よう。事變前の洋樂に對する嗜好が事變後には著しく少くなつて、浪花節や講談が嗜好の上位に擡頭して來た。事變前の娯樂放送に對する嗜好の順位は次のやうであつた。

1 落語、漫談、2 歌謡曲、3 洋樂、4 浪花節、講談、5 ラヂオドラマ、6 華曲、7 ニュース演藝、8 義太夫

事變後の大衆はラヂオ娯樂に何を一番要求してゐるだらうか、そして現實に何を最も多く聴いてゐるだらうか、答は次のやうである。

1 浪花節(八三%)、2 落語、人情噺(七九%)、3 講談、ラヂオドラマ、ニュース演藝(七八%)、4 歌謡曲(七五%)、これがAクラスの順位である。

Bクラス(五〇%以上)は、1 漫談(六八%)、2 ラヂオ風景、3 國民歌謡、4 舞臺劇、5 映畫劇、6 ラヂオ小説、7 軍歌等、8 詩吟、琵琶となつてゐる。

以上によつて大衆には演藝演劇が音楽よりも喜ばれてゐるものとわかる。洋樂への好みは大衆には少いとは推察出来るが、和樂に至つてはなほ更に少い。

和洋樂で二五%以上にあるDクラスのものは次のやうである。

1 民謡、尺八(四八%)、2 小唄、義太夫、3 長唄、4 和洋合奏、5 吹奏樂、6 新日本音楽、7 華、三曲で、管絃樂、器樂、獨唱、輕音樂の順でこれに續き、ジャズは室内樂とともに二五%以下のDクラスに落ちてゐる。

Dクラスは主として古い邦樂で、新内語曲、清元、常盤津、哥澤、能狂言、雅樂、古曲の順、哥澤以下は一〇%にも達してゐない。このクラスに少女歌劇やレディが入つてゐるのは一寸意外でもある。ついでスポーツに對する嗜好を見るとき次のやうである。

1 野球、2 相撲、3 陸上、4 柔剣道、5 拳闘、6 ボート、7 蹴球(ア式、ラ式)、8 テニス。殊に野球と相撲とに對する聴取熱は浪花節、講談と比べて遜色はない。

以上で大衆娯樂の趨勢は判然としたが、これも地方々々によつて差のあるのは娯樂にも地方色のあることを物語るものであらう。

Aクラスに對する地方々々の嗜好の順位は、1 東京、2 札幌、3 名古屋、4 熊本、5 大阪、6 仙臺、7 廣島で、Bクラスの順位は1 仙臺、2 札幌、3 東京、4 大阪、5 名古屋、6 廣島、7 熊本となつ

五九一







時間四十五分、函館六回五時間一分、旭川十回十時間二十六分、帯広一回四十九分であつて、その内容は左の如くである。

Table with columns for station names (札幌, 旭川, 帯広) and broadcast times.

ラヂオ塔は七箇所 札幌中央放送局管内のラヂオ塔は昭和十二年末現在左記七箇所である。

放送局一覽 北海道における各放送局の呼出符號、電力、周波數、鐵塔の高さ及び放送開始年月日は左の如くである。

Table listing broadcast stations (札幌中央放送局, 函館放送局, etc.) with their call signs and frequencies.

〇・五 九五〇 七〇 昭三、三、三 釧路放送局(JOPG)

放送局首脳部

(昭和十三年八月現在)

札幌中央放送局 局長船水喜幸、總務部長和甲田庄之助、會計係長福島庄一、契約係長吉泉清八、料金係長坂垣乙三郎、周知係長村井道三郎、放送部長落合守平、學務係長生方孝一、業務係長今野留次、技術部長岡田壽之、現業係長加藤基、試験係長河野七郎、放送所長森延光

放送新人募集

放送新人募集は昭和十三年七月二日より十日まで帯廣市、本別、池田、清水の各町及び廣尾村の一市四箇町村に於て施行、應募人員は帶廣六十、本別十五、池田二十、清水十七、廣尾四、

合計百十六名に達したが、審査の結果左記十五名合格した。

- List of names and locations of selected candidates: 帯廣市(追分節)博多節 佐々木市太郎(獨唱)佐藤誠(歌謡曲)佐藤タカ(尺八)浦山博(歌曲)小谷潤月(琵琶)駒井利春、西山銀水(詩吟)深澤二男

事變中聴取料免除

昭和十二年八月六日逕信省告示をもつて支那事變に應召した軍人や滿洲國及び中南支方面にある部隊あるひは艦船に屬する軍人軍屬を同一家族中に有し、軍事扶助法により扶助を受けるもの、または同法に該當せずとも市町村等の證明ある聴取料支拂困難なものは、それら施設者の請求があれば、今次事變中にかぎつて許可料及び聴取料を免除する旨發表があつた。

懸賞文藝に入選 大阪中央放送局新局舎落成を記念するための放送文藝の

懸賞文藝は昭和十一年十一月開始、十二年一月三十一日をもつて締切つた。結果は五月十二日夜AKから一般に告知したが、北海道からは函館市宮前町坂谷節子さんの國民歌謡作詞「母の歌」が甲二篇中の首席をもつて入選した。

BK慰問作文に入選

JOBKでは戦線の勇士へ贈る慰問作文を全國の學童(十五歳以下)から募集、内十二篇を選んで昭和十三年九月十八日夜同局から放送したが、本道からはたゞ一人藤立札幌高等女學校二年大谷惠美(恵美)さんの作品「皇軍將士の皆様へ」が朗讀され、遠く第一線將兵へ傳へられた。

郷土演藝プロ

郷土の音楽家、演藝家の電波による活躍はとりも直さず本道音楽界の鳥瞰圖でもある。今昭和十二年九月より十三年八月までの一箇年における主なる演藝プログラムの左の如くで、斯界の動きが明らかに表れてゐる。

昭和十二年

九月【四日】(札幌)後〇五(帯廣)江釣子 美世井、島田民子、池田幸子(旭)後〇八(ア

イヌ音楽 近文術士人【六日】(各局)後〇三【女子青年の夕】札幌より女子青年體験談 豊水分野野呂アイ【七日】後〇八(札幌)室内楽 小樽絃樂合奏團(函)琵琶 秋田信水(旭)獨唱 青木繁、ピアノ 青木健兒、數坂幸雄、熊田富子(帯)歌謡曲とマンドリン合奏 佐藤霜月、帶廣アレクソンドリン合奏【九日】後〇五(琵琶)内山燕水【一五日】後〇八(札幌)歌謡曲 林伊佐緒、ピアノ 萩田圭三(函)歌謡曲 中村正義、中村誠二(旭)琵琶 佐藤琴【一六日】後〇五(追分節)函 米山てる子、尺八 飯秋登(札幌)中山賢治、尺八 岩船宮八(旭)高橋榮次郎、尺八 紺野進菊【一八日】(札幌)後〇五(新日本音楽)尺八 唯是想山、三絃 唯是菊枝、唯是禮子【二一日】(札幌)後〇八(ラヂオ)風聲 報國の秋 作演出山本節男、北原タラ【二五日】(札幌)後〇五(マンドリン)札幌アレクソンドリンアンサンブル、指揮 丸島勝太郎【三〇日】(札幌)後〇五(琵琶)近藤旭雄

平塚萬里子、伴奏 林喬木(札幌)ラヂオ聯曲「修羅四題」 歌曲 吉田廣二 歌曲 菊岸高野、楠本初枝、西村園女 琵琶 山田錦巧 4長唄 岸屋六吉、岸屋六杉、荒谷徳子、岸屋六光、岸屋六花、黒橋たけ子(旭)合唱とハーモニカ 旭川混聲合唱團、佐藤朋吉、賀川治夫(帯)歌曲 帶廣波吉田早苗【二九日】(札幌)後〇五(三曲)吉田早苗、三絃 高橋操秀、佐藤郁子、尺八 高橋涉彦

鼓次郎、小鼓 半八、三吉、太鼓 福【二三】(旭)後〇五(追分節)川崎秀徳、尺八 鎌田運堂【二四日】(札幌)後〇五(歌曲)金子操、金子敏、新妻敏容【三〇日】後〇八(札幌)國民歌謡 並木武男、富士萬里子、伴奏 千葉日出城、山田久子(函)ラヂオドラマ「続後の月」作詞 演出 岡本十

野澤 野澤小竹、三味線 野澤小十 興【四日】(札幌)後〇三(映畫物語)熊谷暖風、關楓葉【一〇日】(札幌)後〇三(落語)柳亭芝雀【一一日】後〇八(札幌)西崎華鶴、高崎鶴聲外(旭)長唄 唄 照子、三味線 岸屋勝七、小柳惠美子、石田あや子(函)ハーモニカ合奏 函館マーキエリハーモニカオケストラ、指揮 前田篤徳(旭)俗曲と詩吟 石川松子、原田源一【二四日】(札幌)後〇五(新日本音楽) 唯秀子、唄 原敏子、助川雅子【一八日】(札幌)後〇三(掛合琵琶)内山燕水、福島曉水、山岸守水【二一日】後〇五(歌曲)上遠野光喜勢、岩間多喜井、松本スギイ 豊田光喜井(函)常野津 函館産菜町見番 藤枝連中(旭)長唄 旭川三和見番 藤枝連中(帯)伊藤さよ、尺八 大野典童【二八日】(札幌)後〇三(ギター)アッコイオン二重奏 ギター 上原綾人、アッコイオン 中島光男、後〇三(三三)第九回中等學校スキー競技大會 滑降競技 札幌郊外手稲山競技場より【三〇日】(札幌)後〇三(マンドリン)五重奏 札幌アレクソンドリンアンサンブル【三一日】後〇八(札幌)唯是 東信子、中西千代子、尺八 藤正波(旭)追分節 錦織みさ子、尺八 稻垣錦集







# 誇の北海道観光

近代的なホテル  
味覚のデパート



# 札幌グランドホテル

**御宿泊 (御食事別)**  
 洋室(40室)  
 浴室無.....¥ 3.50ヨリ  
 浴室付.....¥ 5.00ヨリ  
 和室(11室)  
 浴室無.....¥ 4.00ヨリ  
 浴室付.....¥ 8.00ヨリ  
 ○御二人様以上御同室の場合  
 合は御二人目より五割増  
 ○御心付は御勘定の一分割  
 守

**御食事**  
 和洋華定食  
 朝...1.00 晝...1.50 晩...2.00  
 喫茶とランチ .....地下食堂  
 おでんと壽司 / .....1階  
 グリルとバー .....1階  
 西料理 .....3階 日本間  
 北料理 .....3階 日本間  
 国際料理 .....3階 日本間  
 天ぷら・鍋物...6階  
 牛壽喜焼...7階 日本間



札幌市北1條西4丁目 電話 5001-5007番  
 振替口座小樽23627番

# 七市

## 札幌市



明治四十四年八月制定。結晶型を圖案化したる白雲の外観、中央に北斗星を抱いた「札」の字を現し大札幌を表徴す。

### 二位置及び地勢

北海道の中央に於ける石狩川支川の集水區域が石狩國であつて、札幌は石狩川の沖積層沃野幅二十軒、長百五十軒の大平原の西半部凹地帯中に位し、西南には手稻、藻岩の群峰を負ひ豊平川は市の南東を貫流してゐる。四圍は豊平、白石、札幌、琴似の各町村に擁せられ、豊平川の南には凹地帯中の高臺があつて遙かに西南に延長して山鼻岡山の階段地を爲し、幅は狭い

七市

が礫礫があつて往昔海底であつた事を偲ばせる。北東は大平野に連なり、北に直線十二軒で石狩灣に達する。

市街は井然たる區畫を存して、東西五軒七四八、南北八軒五五〇、周圍三二軒八二五で面積二十九方軒二七四を占めて居るが全市平均であつて坂がない。市の中央で東西に互る幅廣い道通地を大通と稱し、之と交叉して南北に通ずる疎水を創成川と云ふ。町名は大通を基準として街路の順を追ふて南北に各何條と稱へ、南は三十條、北は二十五條に至り、又創成川から東西に數へて各何丁目と呼ぶので、東は十五丁目、西は二十一丁目に及んでゐる。其の他豊平は一條より十條に一丁目より十三丁目、豊平河岸は一丁目より六丁目まで外に苗穂町、雁木町がある。道路は其の幅員概して廣く大通は百五米四五、停車場通三十六米三六、其の他は二十七米二七乃至十米九〇で、アカシヤ、イテフ、ナナカマド等の街路樹多く、楡の老樹、ポプラ等其の間に多數點在して居る。

停車場通のアカシヤ並木は明治十八年札幌縣時代に植ふ付けたものである。氣候温順平均攝氏七度四分で本道の中位に屬し春季開花の期は例年五月中旬で梅、櫻、桃、李、一時に研を競ふの盛觀を呈する。

### 二沿革

往時蝦夷地統治の中心地の選定を急ぐ事は屢々中央の有司間に論ぜられてゐたが、天明五年幕臣山口鐵五郎、文化四年近藤重藏、明治元年には箱館裁判所總督清水谷卿等相繼いで探檢の結果石狩平野を鎮府の適所として建言し、同二年開拓使を箱館に設置せられた時、東久世長官は施政重要事項中に「石狩に北海全道の本府を建設すべき經營に著手すべき事」と明らかにし判官島義勇は其の任に選ばれて箱館にて長官と別れて同年十月陸路錢函に著して假役所を設け鬱蒼たる原生密林中の札幌を選定し、騎馬にて通ひ、十一月十

五九九

一、十二兩日本府の地區繩張を行ひ積雪中苦心工營に當つたが、翌三年判官岩村通俊が交代した。開拓使假廳舎は四年四月落成し五月東久世長官は札幌に移つた。其の位置は今の北四條東一丁目に該當する。岩村判官は同月市街を測量して地割を行ひ、創成川を改修し今の碁盤目區劃を定めたのは島判官の設計に則るものと見做される。長官は同年六月一日令して札幌を以て政務總攬の地に統一し、衣冠を著して勅裁社(後の札幌神社)を著して勅裁社(後の札幌神社)に參詣され此の日を以て札幌が全道首府の紀元となつた。

札幌選定當時の住民は豊平川を挟んで和人が二戸渡船を守つて居り、樺土人も亦僅少であつたが、此の年商賈其の他の移住者を募つて來たので戸數漸く二百餘戸に及び、稍市街の情狀を爲した。爾來開拓使は盛に土木の工を起し、又自ら各種の工業を營み學校を設立する等銳意諸般の施設に努めたので、本道に於ける政治及び教育の中心地として發達し、翌五年十月札幌郵便局を開設、同七年九月札幌小樽間の電信竣工、同十二月小樽函



館間が竣功したので、札幌から長崎迄幹線が連絡した。同十三年三月札幌區役所開かれ、六月札幌新聞発行されたが二十六年で止み、十一月に手宮札幌間に木道敷初の鐵道が開通した。同十四年八月三十日 明治天皇本道に行幸海路小樽に御入遊、機關車義經の牽く開拓使列車で札幌に御著雪平前に御駐蹕遊ばされ、十五年二月開拓使廢されて札幌縣を設け十九年一月札幌縣を廢して北海道廳を置かれ、岩村通俊初代長官となつて開發の機運益々熱し商工業も亦益々勃興し、市街の膨脹、戸口の増殖年毎に著しく、二十四年十一月北海道電燈會社の開業を見る等自治の機能漸く具はるに至つたので、同三十二年北海道區制の施行を見、翌三十二年二月電話交換局置かれ、三十四年八月北海タイムス合資會社設立、三十八年八月小樽、函館間の鐵道と炭礦鐵道と連絡成り札幌、東京間は三十六時間で行し得ることとなつた(現在は二十四時間)四十二年には豊平町、白石、札幌、藻岩各村の一部を其の區域に編入した。四十四年八月 皇太子嘉仁親王殿下行啓あらせられ大正十一年市制施行、同年 皇太子裕仁親王殿下行啓あらせられた。同十二年都市計畫法の適用、十五年市街地建築物法適用せられ、昭和三年六月札幌放送局開設、同九年札幌村の一部を市に編入した。同十一年十月 今上陛下御統監の下に陸軍特別大演習あり、其の前夜地

方行幸あらせられた際、同市に大本營を設け行在所を置かれたのである。顧みれば開拓使設置以來年々を閱すること正に七十、今や札幌市は北海道は勿論、樺太をも統轄する主なる官衙及び銀行會社の本支店を網羅し、從來政治上の首府であり教育上の淵藪地であつたのに加へて、工業地、景勝地として本邦有数の地位を占むるに至つた。サツポロはアイヌ語サツポロベツ「甚だしく乾燥せる河」の義に起つてゐる。初代判官島義勇の碑は札幌市外圓山公園に、初代北海道廳長官岩村通俊の銅像は市内大通西一丁目にある。

二 教育

市内に於ける學齡兒童の數は三萬六千一百一十一人で、市立の尋常小學校十六、高等小學校三、計十九校、教員數は各校を通じ五百七十一人、在學兒童數は尋常科二萬七千八百九人、高等科

四千九百三十一人、計三萬二千七百四十人、其の一學級當り兒童數は尋常科六十三人七、高等科六十人を示し、學齡兒童の就學歩合は百分の九九・六二となつてゐる。又市立の青年學校は十一校で、其の内商工學校、實業女學校各一校があり、外に私立の青年學校が三校ある。尙市立に係る高等女學校一校あるが昭和十二年に校舎の一部を残して燒失したので、工費二十四萬二千餘圓を以て昭和十三年八月新設した。由來本市は道内教育の中心を以て目せられ、明治八年既に札幌農學校の設立を見、後分科大學となり綜合大學となり、漸次醫、工、理の各部を増設し、著々綜合大學の組織を整へ、豫科、農學實科、林學實科、土木専門部等を附設し、創立以來多數の卒業生を出して本道拓殖の進運に寄與する所甚だ多い。

其の他市内に獨立師範學校一校、中學

六〇〇

校は獨立二校、私立一校、高等女學校は獨立一校、私立二校及び之と同等の私立宗教的女學校一校、獨立工業學校一校、商業學校は私立二校を存する外各種學校十七校、官公衙の講習所、幼稚園等其の數多く、又本道唯一の神學校としてカトリックの札幌聖備神學校がある。圖書館は大學附屬、獨立を初め市教育會、各學校等にある。又市内青年團は男子聯合一團、女子一團、分團十四、團員二千七百三十七人、少年團は男子三、團員百九十九人あり、何れも相當の成績を擧げてゐる。市立體育所は、明治三十年六月設置したる日本體育會北海道支部を大正九年四月市立體育所に改めたもので、劍道、柔道、弓道等の演武場に充つるの外、各種體育の施設を攻究指導し、陸上競技聯盟、スキー聯盟、スケート聯盟等の私設體育團體との連絡を保つてゐる。

一 財政

昭和十三年歳入豫算 (昭和十三年七月現在)

市稅附加稅	3,543,360
市稅特別稅	2,323,185
其他收入	3,257,322
合計	9,123,867
昭和十三年歳出豫算	1,623,100
臨時部	3,633,296
合計	5,256,396
特別會計歳入豫算	3,467,471
特別會計歳出豫算	3,257,322

市有財産(昭和十二年十二月現在)

一般財産計 10,949,031.06  
特別會計財産計 9,847,547.47  
雜、寄附金 1,117,150.00  
總計 21,913,728.53  
市債借入元金 14,623,000.00  
市債元金償還額 8,663,300.00  
市債元金未償額 5,959,700.00  
(昭和十三年七月現在)

二 戸

(昭和十二年十月現在)

世帯數 人 口 一世帯當り  
男 101,111 3,111,111  
女 101,111 3,111,111  
計 202,222 6,222,222  
男100對女100.6

一 社會事業

市營の社會事業中其の主なるものは職業紹介所、公設市場、公益質屋、診療所、靜療院、療養所等である。職業紹介所は職業紹介法施行の前年即ち大正九年から開設し、同十三年には道内各職業紹介所の連絡紹介所に指定せられ、同十四年屋舎を新築し、昭和二年日備労働紹介部の増築を行ひ同時に賃金繰替拂をも開始し同九年更に同部を新

築した。現在業務を一般部と労働部とに分ち、一般部には庶務男子、女子、俸給及び少年の各部を置いてゐる。

二 職業紹介所成績(昭和十二年)

求人數	2,100	男	1,050	女	1,050
就職者	1,800	男	900	女	900
求職者	1,500	男	750	女	750
同右求職者教育程度		男		女	
大學卒以上	100	男	50	女	50
專門卒以上	200	男	100	女	100
中學卒以上	300	男	150	女	150
少年職業紹介成績		男		女	
求人	1,000	男	500	女	500
就職	800	男	400	女	400
求職者	700	男	350	女	350
同右求職者教育程度		男		女	
大學卒以上	50	男	25	女	25
專門卒以上	100	男	50	女	50
中學卒以上	150	男	75	女	75
少年職業紹介成績		男		女	
求人	1,000	男	500	女	500
就職	800	男	400	女	400
求職者	700	男	350	女	350
同右求職者教育程度		男		女	
大學卒以上	50	男	25	女	25
專門卒以上	100	男	50	女	50
中學卒以上	150	男	75	女	75

末に於て其の店舗數百三十三となり同年度中の總販賣高は六十六萬五千四百一十圓十錢で、一店舗一日平均賣上高は二十圓五十六錢を示してゐる。尙薄野市場は昭和十一年度に於て工費三萬五千餘圓を以て改築したものである。公益質屋は工費一萬圓を以て昭和四年十月竣功以來庶民の金融機關として大いに利用され、昭和十二年度の成績は次の通である。

貸付口數	2,000	金額	8,500,000
貸付口數	3,000	金額	12,000,000
貸付口數	4,000	金額	16,000,000
貸付口數	5,000	金額	20,000,000
貸付口數	6,000	金額	24,000,000
貸付口數	7,000	金額	28,000,000
貸付口數	8,000	金額	32,000,000
貸付口數	9,000	金額	36,000,000
貸付口數	10,000	金額	40,000,000

市立札幌病院附屬靜療院(精神病院)は札幌市外豊平町大字平岸村に工費二十萬圓を以て昭和九年十月設立、風光明媚と設備の充實と相俟つて患者を安靜療養せしめ、快癒率の高いことは全國稱である。昭和十二年年度の成績は、收容定員百四十一名、患者は前年より百九十九、入院二百九十六、退院二百四十九、在院死亡四十五、年末在院百二十、延入人員は入院四萬六千六百六十五、外來一千二百七十を示してゐる。札幌療養所は結核豫防法によつて市外琴似村に工費十二萬四千圓を以て昭和五年十月に設立したものである。收容定員は五十六(昭和十三年九月定員八十五に増築)昭和十二年度の患者取扱數は、無料入所者延人員一萬五千七百九十二、有料入所者延人員一千九百八十四、委託入所者延人員一千七百二十、計一萬九千四百九十六人。細民の救済に關しては夙に保導委員を置いて救護の徹底を期したが、昭和七年救護法の施行と同時に方面委員規程が制定さ



れたので従前の保導委員を廢し更に選任された方面委員が救護其の他の方面事務を取扱ひ良好の成績を擧げてゐる。尙市内には有志の組織した方面事業助成會があつて、法令の適用範圍外の貧困者、疾病者等の救済並に教化防貧施設を行つてゐる。

又私設團體としては恩賜財團濟生會診療所、北海道社會事業協會札幌病院、公教同働會、札幌無科宿泊所、愛隣宿泊所、札幌養老院、札幌青見園、札幌保育園、苗穂慈育園、醫保所及び少年の感化を主とする札幌恩賜學園、死因保護を目的とする北海道授産場、札幌大化院、貧兒の教育を併せ行ふ遠友夜學校、其の他盲聾學校あり、市は之等に相當補助金を交付し助成に努めてゐる。

二 市役所首脳部

(昭和十三年十月現在)

市長三澤寛一、助役伊藤廣吉、秘書課長村直忠、庶務課長平佐武美、厚生課長淺村貞輔、教育課長筒井銀平、經濟課長杉田安太郎、戸籍兵事課長信夫正三、土木課長菅良二、稅務課長鈴木秀直、會計課長遠藤喜四郎、水道課長井口定一、市立診療所長渡邊浩、市立函館山病院院長中澤午次郎、市立札幌養護所長小野純一、市立體育所長野久作、電氣局長渡邊通、市

立札幌病院院長林敏雄、市立札幌病院附屬診療所院長阿部政三

二 歴代區長、市長

▲ 區長

- 1 對島嘉三郎 明三、三、三、同三、三、六
- 2 加藤寛六郎 明三、六、同三、同三、六、四
- 3 青木 定謙 明三、二、同三、同三、二、九
- 4 阿部幸之八 大、三、八、二、同八、八、〇
- 5 佐藤 友熊 大、八、三、三、同三、三、六

▲ 市長事務管掌

- 前田 守治郎 大、二、三、一、同三、三、三
- 馬場 善也 大、二、三、一、同三、三、三

▲ 市長

- 1 高岡 直吉 大、三、三、三、同三、三、三
- 2 高岡 直吉 昭三、三、三、同三、三、三
- 3 橋本 正治 昭三、三、三、同三、三、三
- 4 三澤 寛一 昭三、三、三、同三、三、三

二 市會議員 (四〇名)

(十三年十月三日改選)

議長本間久三、副議長若狭由次郎、正木清、石川剛三、上口外吉、吉野勝次郎、藤島利雄、笹沼孝藏、井川伊平、澤田利吉、吉田豊吉、淺野一夫、村田不二三、南部多三郎、佐藤一雄、齋藤義太郎、佐野春吉、添田武源、村上六松、關根仙三、敬務、竹森竹次郎、菅原謙之助、佐瀬介治、米澤金次、村岡嘉一、高田富興、三浦才三、岡田莊一、佐藤一、村岡勝惠、山本清作、金野誠介、小谷義雄、谷口善作、齋藤俊次、小笠原福彌、柏野忠八、中山豊士、梅津藤吉(次點) 許士善太郎

函館市



二 沿革

函館といふ地名の縁起は、箱形の館といふ處から由来したものであつて箱館と稱へられてゐたが、明治二年國郡劃定の時から函館と改められたのである。箱館と呼ばれる以前は、アイヌ語でウシヨロケシ(灣の端の意)と呼ばれ、更に之が轉訛してウスケシとなり、舊記には之を宇須岸若しくは白岸と書かれてあつて、それが地名として可成り長期の生命を保つてゐたが、足利時代の中葉に津輕、南部に兵亂起り、津輕の安東氏敗戦して松前に渡り、幾何もなく亦享徳三年(紀元二千百十四年)安東氏の臣武田信廣、相原政胤、河野

政通等が幼主を奉じて遁れて蝦夷島に渡つたが、康正二年(紀元二千百十六年)安東氏は更に秋田に引揚げるに際し、臣下を各地に分封して後事に當らしめた。この時は既に河野政通が宇須岸に居つたので、茂別(現在の磯部茂別村)にあつた下國家政を輔けて現在の函館灣を繞る一地域の治安に當らしめた。そこで河野政通は宇須岸に定住することとなつたので此處に館を築造したが、その形が恰も箱の如しといふ處から、いつとはなしに箱館が地名として呼ばれるやうになつた。

北海道和人の定住した最も古い史實は現在の磯部津村から函館市へかけての津輕海峡に面する一地域であつて、既に鎌倉時代に奥州藤原泰衡の一族が幕府の攻めに遭ひ、海を渡つて蝦夷島に遷れたといふ松前(現在の福山町)に多くの史跡を残してはゐるが、和人としての集團的移住は前記の安東氏の一族武田、相原河野氏等の渡來が最も古い。

新都大函館の建設へと邁進しつつある。

二 戸口と廣表

昭和十二年末現在による戸口は、世帯數四萬一千二百九十八、人口は男十一萬五千二百二十一、女十萬三千二百四十五人、合計二十一萬八千四百六十六人にして、全人口を一世帯當りに見れば男二・七九人、女二・五〇人計五・二九人となつてゐる。同年末現在の人口を前年度に比較すると、男に於て二千八百四十五人、女に於て二千五百五十八人、即ち五千三百九十五人の増加となつて居り全道第一位である。

廣表は東西九千四二、南北六千七四七で總面積は一九・二三五平方町(函館山を含む)周圍二八・八町、市街地面積一五・四〇四平方町である。市街は函館山麓から平坦な地頭部を經て東に走り、宇賀浦、七重瀨間に扇狀形に擴げられ、その間八十五箇町に分れてゐる。

二 財政

昭和十三年度當初豫算は二百五十一萬三千圓にして、歳入歳

出其の他の狀況左の通である。

- ▲ 歳入の主なるもの 市稅一、三三二、七九九、使用料及び手数料三三六、〇九九、國庫下渡金一五〇、一八三、國庫補助金一〇八、一五三、財產賣却金二二九、二八九、雜收入一三三、六九八
- ▲ 歳出の主なるもの 役所費二二六、四九二、教育費七三二、九六五、衛生費二四三、〇五一、土木費六八、二二八、社會事業費四〇、一五一
- ▲ 特別會計 水道費七六九、七三八、復興事業費七二四、二八七、函館病院費三八二、一八七
- ▲ 市有財產 (土地) 一般基本財産六一九、〇九〇、五五五圓、特別基本財産二八、〇六五、六〇圓、公用財産六、七四五、八一七、七六三圓、合計七、四三三、九七三、九一八圓(建物) 一般基本財産五、七〇〇圓、公用財産五、〇八一、七八二、七七九圓、合計一〇、八八四、四八二、七七九圓(預金、有價證券及び運用金) 一般基本財産(銀行定期預金)二、三、二九六、四三圓、特別基本財産(銀行定期預金)七、〇九七、七〇圓、社會事業費(銀行定期預金)七、〇九七、七〇圓、社會事業費(銀行定期預金)二、八、八七六、八二圓、教育基本財産(銀行定期預金及び運用金)三五、四二八、二圓、木島社會事業費(銀行定期預金)一〇、五五一、八四圓、結核病患者救養費(銀行定期預金及び債券)三九、一〇〇圓、

て若狭より毎年三回宇須岸の港へ商船が來航し、龜を開陸の家の縁の柱に繋ぎ交易を以ていふから、函館の經濟的活動は既にこの當時から始つたものとみられる。徳川時代に入り八代吉宗の寛保元年(紀元二千四百一年)龜田番所(現在市内)を箱館に移し、船舶旅人出入の検査及び徵稅等を行ふに至り人口も次第に増加し、天明五年(紀元二千四百四十五年)の頃は戸數四百五十餘、人口二千五百餘を算するに至つた。寛政十一年(紀元二千四百五十九年)頃幕府は東蝦夷を直轄區域とし、各邊境に於ける直割の方法を改めてその產物は之を箱館に於て拂下けし事となつたので、貨物の集散俄に増加し船舶の來往繁く、箱館の經濟的活動は愈々本格的となつた。嘉永六年(紀元二千四百九十二年)幕府は下田と共に開港されることになり、翌安政元年幕府は箱館に奉行所を開き、更にその翌年より蝦夷地一圓を幕府の直轄地として、五種郭砲臺、辨天砲臺等を築造して外寇に備へたので蝦夷地政治の中心地となると共に漸く市井の形態を整へ來つた箱館は、安政六年(紀元二千五百十九年)貿易港として開港され、に至り商業地として發展を極むるに至つた。

明治元年には有名な五稜郭戰爭があつて市街地も兵火に罹り被害を蒙つたが翌二年平定と共に漸次復興し、三年には郵便電信の事務が開始され、同九年に

は 明治天皇奥羽地方御巡幸の御時に行幸を仰ぎ、上下齊しく、聖恩の厚きに感激した。同十三年に至つて函館區役所が置かれ區會の開設となり、三十二年北海道區制施行せらるゝ頃には戸數一萬四千餘、人口八萬二千餘に及び、更に大正十一年市制が布かれてより人口二十一萬を算する今日の函館市が築き上げられ、全國有數な都市として内外に認めらるゝに至つた。地勢と風位の關係上度々の大火に見舞はれたためこれに刺戟され、水利、消防の施設も全國屈指のものとなつた。昭和九年三月二十一日風速實に四十三米といふ稀有の大暴風中又もや災禍の襲ふところとなり、二萬六千餘の戸數と二千餘の人命を奪はれたが全國の同情と、政府の積極的助成と市民の精力的意氣とは「函館復興」の渾然たる一大計畫を以て大火の直後より再び焼けることなき更生函館の建設が營まれ



合計二七一、〇〇〇・一三圓【積立金】の部、函館病院特別資金(銀行定期預金)二四二、九〇一・三一圓、市役所廳舎建築積立金(銀行定期預金及び運用金)四二、九五七・七六圓、計二八五、八五九・〇七圓【公益質屋貸付資金の部】(貸付金銀行預金現金)五〇、〇七四・〇八圓、總計六三〇、二二九・七一圓

▲市債【一般會計】災害事業費一五五、〇〇〇圓、同四八、〇〇〇圓、市民館建設費九、三二五・七四圓、同二九、四八七・八七圓、同二七、二九・四八圓、結核療養所建築費一九、二二・九四圓、小學校及び精神病院建築費一三四、四〇〇圓、小學校建設費二二六、四〇〇圓、港灣修築費二九九、九〇〇圓、小學校建設費二二六、六〇〇圓、港灣修築費一〇五、九八一・二圓、同六八、七四三・八八圓、小學校増築費一、五四六・六五圓、災害豫防護岸工事費四八、九四五・九七圓、事業公債償還資金七二五、九七〇・四六圓、小學校建設費三五、〇二二・二圓、災害豫防護岸工事費二〇六、五〇〇圓、市事業整理公債七八三、五〇〇圓、貸入缺陷補填資金一、〇〇〇、〇〇〇圓、小學校舎修繕資金二七六、〇〇〇圓、同、一八八、〇〇〇圓、消防設備修繕費七三、〇〇〇圓、同、二一、七六三・六八圓、小學校増築費一一、四四四・四一圓、屠場事業資金七、五〇三・〇四圓、同五一、五四七・一三圓、同三

五四・四八圓、同二五八・七五圓、同六、一七八八圓、同三六二・三五圓、同、四二〇〇圓、同、八四五・四九圓、小學校舎改築費二五〇、〇〇〇圓(短期債)貸入缺陷補填資金三六〇、〇〇〇圓、同三四〇、〇〇〇圓、同二四一、三〇〇圓、小學校舎改築費二四六、〇〇〇圓【特別會計】水道費一上水道擴張工事費三七、九八二・五五圓、同一八、六一六・〇九圓、同一、三五五・六〇〇圓、上水道事業公債一〇六、一〇〇圓、糞便整理公債償還資金三二〇、六五三・五圓、貸入缺陷補填資金二三八、〇〇〇圓、配水管増設工事費二〇〇、〇〇〇圓、同二〇〇、〇〇〇圓(短期債)配水管増設工事費二〇〇、〇〇〇圓(公益質屋貸付事業公益質屋資金二九、一九一・二七圓(復興事業費)復興事業費資金二八五、〇〇〇圓、同九四・五〇〇圓、同二四九、〇〇〇圓、同二四八、〇〇〇圓、同二七、五〇〇圓(短期債)復興事業費資金二七二、三〇〇圓、同八五、七〇〇圓【總計】一一、二六五、一八九・九三圓

二 市役所首腦部二 (十三年六月現在)

市長齋藤與一郎、助役吉吉茂樹、収入役常作小一郎、産業課長津島長杉村大造、衛生課長井上金之助、兵務課長川南與一、總務課長持木金太郎、市會書記長齋藤喜一郎、稅務課長三浦國夫、社會課長齋藤喜一郎、教育課長田中三郎、視學工藤亮

造、學校衛生主事吉田三郎、土木課長齋藤市計課長木島正輔、水道課長吉谷一、函館市復興事務局局長瀧吉彦、同庶務課長持木金太郎、區區劃整理課長持木金太郎、同工事課長木島正輔、市立函館圖書館館長岡田健藏、市立函館病院院長山脇正次、市立函館療養所所長伊藤晃彦、市立柏木病院院長(兼)伊藤晃彦、市立康生病院院長伊藤純夫

二 歴代市長二

臨時代理 西岡實太 大、二、八、一、同二、三、三、二、小濱松次郎 大、三、三、一、同三、八、七、三、佐藤孝三郎 大、三、二、一、同三、二、三、三、木村英俊 昭、四、一、一、同四、八、七、五、坂本 森一 昭、四、三、七、一、同三、三、三、天、齋藤與一郎 昭、三、三、三、一

二 市會議員一 (四四名)

(十三年十月二十日改選)

議長登坂良作、副議長菊地清二、高瀬重之、大島寅吉、榎澤彌三、鎌田武造、富永裕五郎、杉崎那作、大坪孝一、西島儀助、小野將造、三上嘉六、入江精一、高村善太郎、山崎松次郎、高木直行、小川勇松、白木豊壽、寺尾正藏、森信、清水一郎、河合繁、高橋大、鳥井小次郎、田村芳信、花光春之助、渡邊源助、美波次郎、折居義一郎、長岡清三郎、木内幹、恩賀徳之助、成田健次郎、上出源次、厚谷厚、櫻井善吉、大黒三太郎、野崎竹治郎、出村喜作、齋藤忠、岡川春風、秋尾浩、但野清助、田代正治(次點)木島松藏



小樽市

明治三十四年十二月二十八日制定。外郭は六花(実を意味し)内部は小樽の頭文字「小」を圖案化せるもの。

二 沿革二

アイヌ語のオタルナイ(砂だらけの澤)これが小樽の語源であり前名である。中古のころアイヌ族が和人の壓迫にたへかねて奥羽から渡島半島を経て漸次奥地へ移動するにおよび、この地にも水草を返うて部落が形成された。今から百三十年前、即ち文化四年、幕吏近藤重藏が手宮港を西蝦夷第一の要港なりと幕府に建言したことに開發の端を發してゐる。このやうに小樽市の港灣としての素質は古くから認められてゐたが、松前藩の政策上、文化の曙光を仰ぎ得ず埋れてゐた。「忍路高島およびもないが、せめて歌樂磯谷ま

で」この有名な追分は松前藩の政策によつて女人の渡航を禁じたことにより後に残された女人の心情を唄つたものである。その後露人の北海侵略策に對抗すべく幕府は安政二年蝦夷地を直轄し警備をかため、移民を招來して大いに富源の開發に努力した。この開發政策は埋れてゐた小樽をして今日あるの素因をなしたものである。かくして明治二年オタルナイは小樽と改稱され今日への一步を踏み出した。

十三年には小樽、札幌間の鐵道が開通し手宮に橋樑が架設され、海陸の連絡漸次整ふとともに集散貨物は増加し、それに伴つて銀行、會社、倉庫その他の經濟諸機關も増設され、二十七年には取引所二十八年には商業會議所の設立をみるに至つた。三十年五月には防波堤の築造に着手し大正十年竣工、その間三十二年には區制がしかれて自治體となり、翌三十三年には開港場となつた。三十七年小樽、函館間の鐵道全通し、三十八年榎太がわが版圖となるにおよんで運輸交通の便著しく増大するとともに商港はますます擴張され、北門における一大商港として内外に注目せらるゝに至つた。大正十一

年八月には市制を施行、また大正三年著工した市營港灣の修築ならびに噴道省第一期工事は昭和七年海陸連絡設備の完成を見、港小樽の面目を一新するに至つた。

二 港 灣二

本市の生命線たる港灣は明治三十年政府が修築の工を起して以來漸くその輪廓を整へた。本港は平磯岬から茅柴岬に至る直線を以て港界とした天然の良港で、其の水面積二百七萬坪、防波堤内百三十萬坪、本邦有数の港灣である。

港灣施設は逐年充實して延長一里に互る南北兩防波堤、之に附設した燈臺を始め警備岸壁、高型橋樑、物揚場、水陸貯水場、貯炭場、上陸臨港鐵道、船舶給水石炭積込、倉庫地帯等海陸連絡の設備が整備されてゐる。噴道省が十年の歳月と約八百萬圓の巨費を投じて著工中の鐵道省理立地の諸設備は昭和十二年三月竣工を告げ、近代科學の粋を誇る諸機關は港小樽の輪廓を益々大ならしめてゐる。而して吞吐貨物は年一年と激増しつゝあるのでさらに修築の工を施し、拓殖計畫に依る突堤式橋形埠頭三基の築造を行ひつつあつて、今や名實共に具はる國際港小樽の完成に邁進してゐる。

二 財 政二

▲昭和十三年年度豫算 一般二、二四九・六二六圓、特別一、八八三・三〇八圓

▲基本財産 基本財産六〇五、五一・〇五圓、小學校基本財産一六、二五八・一七圓、窮民救済基本財産二、二九九・〇六圓、慈善事業基金八、〇二〇・〇五圓、火災豫備積立金三三、一六四・二圓、合計八六三、七三〇・三三圓

▲市債 數口 借入額 借入現在額

一般會計 三、六六五、〇〇〇圓、共、六、五二〇、〇〇〇圓

水道會計 九七、〇〇〇圓、共、一、〇〇〇、〇〇〇圓

港灣會計 三、〇〇〇圓、共、三、〇〇〇、〇〇〇圓

都計會計 五、〇〇〇圓、共、五、〇〇〇、〇〇〇圓

病院會計 三、〇〇〇圓、共、三、〇〇〇、〇〇〇圓

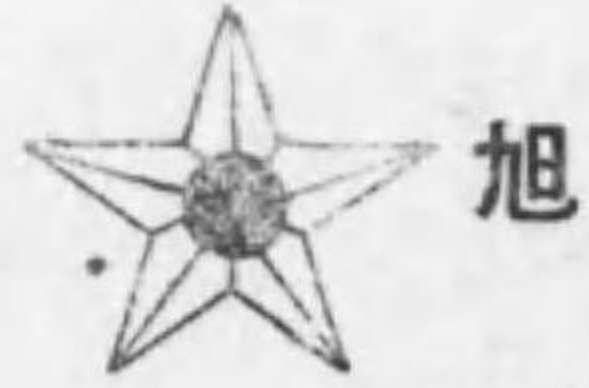
二 市役所首腦部二

市長河原直孝、助役福岡幸吉、収入役會計課長小林善、教育課長小野福平、産業課長田中憲發、稅務課長菅野力藏、兵務課長齋藤生員渡邊藤七、庶務課長佐藤兼人治、社會課長齋藤谷竹藏、經濟課長平尾吉之助、土木課長山岡信吾、警備課長成田幸一郎、水道課長松倉治夫、港灣事務所長山常治、視學陣内重雄、市醫官田秀、商工技師荒崎、港灣技師藤村秀夫

二 市會議員二 (四〇名)

(十三年十月五日改選)

議長新谷孝太郎、副議長吉田善太郎、林貞四郎、田中市太郎、飯田政義、野藤



旭川市

明治四十四年六月二十九日制定。北斗星で象どり中央に赤色日章を配し旭川を表徴す。アイヌ語のチユア「太陽」ベツ「川」を圖案化せるもの。

二 沿革二

旭川市は石狩國上川郡に在りて東經百四十二度二十二分、北緯四十三度四十七分に位し、東は永山村及び東旭川村に接し、西南は忠別川を隔て、神居村並に神樂村に隣し、北は東鷹栖村及び鷹栖村に界し面積一方里三九六四、周圍六里三十五町四十



一間にして廣袤東西一里三十六間南北一里二十九町三十一間である。

本市は其の語源に示さる、如くチュツプベツ(水源東方地の出づるところ)に散在せるアイヌに依つて開拓され和人の此處に足跡を印せるは寛政十年徳川幕府目付渡邊久藏、使番大河内善兵衛、勘定吟味役三橋藤右衛門等を蝦夷地に派した際部下三名に命じて天鹽川を溯らしめて石狩川の上流上川の地に入つたのを嚆矢とす次いで文化四年近藤重藏幕府の命を受け本道西海岸を巡歴し、天鹽川を溯つて上川に入り、踏査を終へて江戸に歸るや將軍家齊に蝦夷中央道路の開鑿を建言せり然もこれと前後して開宮林蔵の踏査あり文化八年にはアイヌ對交易場所たる石狩元場所請負人村山喜右衛門此地に來りてアイヌの獵獲物と交易せり。更に安政四年石狩在勤足輕松田市太郎上川に至り石狩川を溯つて旭岳を踏破、或は松浦武四郎の上川踏渉に依つて上川開拓の黎明が告げられた。斯くて明治五年開拓使の命を受けた高畑利宜上川土人の戸口並に教育其の他の生活状態を調査した。此の報告書に非常な興味を感じた英國公使パークスは自ら探査を政府に申請、明治六年夏軍醫ホルドと共に上川の探査をなさんとしたが、パークスは廣谷からの急電に接してホルドのみ來道、アイヌを雇入れて獨木舟にて屏雲峽に向つたが、途中

獨木舟は急流中の巖石に衝突し一同河中に落ちやうやく岸に泳ぎついたと云ふ。兎も角和人の足跡少き上川に珍客を迎へた事は本道開拓史に一異彩を放つ出来事たるを失はぬ。

當時上川は郡名ありしのみにして石狩郡役所の管轄に屬し、明治十五年札幌縣の直轄となり越えて十九年北海道廳置かるゝや上川假道を開鑿し前年八月近文山に登れる司法大輔岩村通俊屯田兵本部長永山武四郎の開拓記念碑を建つ。明治二十年岩村長官は再び上川忠別太に至り道路開鑿、農事試驗場等を設置し上川開拓の業やうやく其の緒につく。明治二十一年永山武四郎第二次長官となるや上川開拓の急務を説き同年七月上川測候所を忠別太に置く。此の年陸軍大臣桂太郎、侍從片岡利和、藤波言忠、徳川義禮、參謀本部次長小澤武雄等上川を視察、第七師團設置の議具體化する。翌二十二年上川市街(神居、旭川)區劃され川上操六中將の視察、市來

知、空知太、忠別間の電話竣功し、永山長官は上川離宮豫定地設定の議を内閣に具申し、同十二月上川郡に他日一都府を設け離宮を置かるべき旨仰出さる。而して明治二十三年上川郡に神居、旭川、永山の三箇村を置く。即ち旭川の名稱此處に始り和人の移住續々と相踵ぎ、二十五年市街區劃設定に際しては三千人の出願者が永山戸長役場に殺到し吏員は其の應接に狂奔したと云ふ。蓋し上川の地風に豊饒本道の中央に位し近く第七師團の設置を見ん状態なりしをもつて人心ことごとく上川に注がれし爲なり。

明治二十五年一月札幌警察署旭川分署設置さる。恰も此の年七月旭川字牛朱別に屯田兵三百九十六戸移住す。明治二十六年上川農會を設け、更に六月旭川戸長役場を置き旭川、神居、神居、鷹栖の四村を統轄す。明治三十一年第七師團の位置近文に決定し、三十四年札幌より師團司令部移轉ありて旭川は翌二十五年町制を施行、爾來旭日昇天の勢をもつて發展大正三年には區制を布き、大正十一年本

道に市制施行さる、に當り先達函館、小樽、札幌と共に市制を實施今日に至つた。

二 産業

上川百萬石の盆地に形成せる旭川市は其の郊外何れも水田或は蔬菜類を作付け農を主業となす者少しとせず、一方中小工業の發展は農村都市より工業都市へと進展、今や正に農工商の綜合都市建設へ邁進しつつある。今各業數を示せば左の如し。

事業名	場數	生産價額
菓子パン水飴工場	二二	一、三〇、九〇〇
農具機械製造	三	一〇、九〇〇
銃械鑄物業	八	一、四〇〇
土木建築用機械製造	二	一、四〇〇
食品加工機械製造	二	三、九〇〇
製糖業	二	三、八〇〇
製粉業	二	三、〇〇〇
包袋用箱桶製造	二	一、三〇〇
建築用具製造	三	一、三〇〇
木製品製造	六	三〇、二〇〇
裁縫業	三	三、三〇〇
和酒醸造業	三	六、七〇〇
味噌醸造業	三	七、七〇〇
清涼飲料水製造	三	四、〇〇〇
製粉業	六	一、七〇〇
自動車製造	一	一〇、〇〇〇
畜産製造	二	三、〇〇〇

札幌の創建と共に生れ  
札幌の發展と共に歩める

皆様の

テパート



井 今 井







# 皇軍勇士へ慰問品も

三越 慰問品問答場 階

▲産業組合 旭川信用組合三、八〇一口、五二五、五二〇圓△旭川購買組合一、二一六口、六、五〇〇圓△旭川信用購買組合三三一口、二〇、五七二圓

▲商工組合 旭川家具商組合、旭川燃料小賣組合、旭川業種高小賣組合、旭川スキー工業組合、旭川製糖業組合、旭川家具工業組合、旭川製菓業組合、北海道ベニヤ工業組合、北海道薄皮製木工業組合、旭川鑄造工業組合、旭川機械工業組合、旭川農産品工業組合、旭川農事實行組合、旭川酒造組合

## 二 市役所首脳部

(十三年十月現在)  
市長井上英、助役足立富、収入役(會計課長)藤田省三、秘書課長小柴龍象、庶務課長田中鶴雄、學務課長(視學)三井孝次郎、社會課長坂本貴治郎、保健課長小柴龍象、産業課長谷川喜市、稅務課長荒川源、土木課長(技師)大坊政源、市立病院院長藤谷壽

## 二 歴代町、區、市長

- ▲町長  
1 本田 親美 明三、七、五〇同美、三、五  
2 奥田 千春 明三、一、三〇同三、一、六  
3 齋藤 米藏 明三、五、三〇同三、三、三  
4 奥田 千春 明三、三、六〇同三、三、三
- ▲區長  
1 市來源一郎 大三、七、三〇同九、七、三  
2 市來源一郎 大九、八、三〇同二、五、一

▲市長  
1 岩田 恒 大三、六、三〇昭三、〇、五  
2 奥田 千春 昭三、六、三〇同八、六、九  
3 渡邊 勘一 昭三、八、一〇同二、七、四  
4 井上 英 昭三、九、二一

二 市 會 議 員 (二、三、六名)  
(十三年十月五日改選)

議長前田善治、副議長黒田岩吉  
佐藤門治、鈴木重高、山本磯吉、日高政治、高瀬恰、東海林吉三郎、谷口甚角、木下源吾、今關泰尚、中島幸次郎、金坂作之助、渡四郎、近藤清一、柳下政五郎、赤岡清晴、小寺正治、西田幸次郎、芳賀竹次郎、花輪武平、中保恭一、神谷文助、前野與三吉、藤田敦、大我口永松、清水三俊、末武政一、東石松、阿部昌吉、巻口朝次、瀨古退助、塚田富次、谷川庄之助、岡野卯之助、反橋信一(次點)前田重春

## 室 蘭 市



昭和十二年一月一日制定。六ツのロ(ムロ)は工業都市の表徴齒車を描き、中に「蘭」の花を配したものである。

## 二 沿革

市名室蘭の原名はモルランナイ、繪鞆會所の附近を流れる小

川の名で、静かなる川を下るの意である。市内各所に先住民の遺跡あり、この地に発見される土器石器は本道奥地のそれよりも優れ、その先住民の文化程度の進歩を物語つてゐる。

市の沿革は遠く天正十七年豊臣民權および徳山城主武田慶廣命ぜられて蝦夷松前を統轄した時に初る。松前氏の統治に歸してからは室蘭市地域の大部分はモロラン、ペケレオタ、シユブキンクツジ、オハシナイを合はして繪鞆場所と稱へ藩士の直領とし、運上屋を今の繪鞆におき、またその小部分であるチバイベツはオサルベツ、ウスとともに有珠場所に屬し、藩士は給地で運上屋をムムカにおいてた。その後幕府が蝦夷地を直轄するやうになつて寛政十一年蝦夷奉行これを管し、運上屋を會所と改め、繪鞆會所は現在の元室蘭に移され、有珠場所會所は文政四年またまた松前氏の領地となり、安政二年再び幕府の直轄に歸し、恵山岬より幌別までの警衛を南郡藩に命じ、同六年南郡藩の統治に歸した。たゞモロランのみは箱館奉行が管轄してゐた。

かくて明治元年箱館裁判所、箱館府相ついでこれを管し、翌二年今の室蘭市の地域は室蘭郡に編入され、石川源太(舊仙臺

藩の一族)の支配下におかれ、四年開拓使の所管に屬した。大正七年二月一日従来の室蘭町、輪西町、元室蘭町、千舞籠村即ち室蘭郡の全地域を一行政區劃となし、同十一年八月一日市政を實施した。

## 二 戸口と廣袤

室蘭市の人口は維新前は殆ど算するに足らず、明治三年千舞籠、元室蘭に農民の移住を初とし、同五年室蘭渡海場の決定により移住者を招來、爾後戸口年と共に増加、同二十年、二十二年の二回に互り屯田兵の移住あり、同二十五年室蘭線の開通、同二十六年室蘭、函館、青森間の定期航路の開始、同二十七年特別輸出港の指定等によりますます戸口の増加を來したが、急激な増加を見るに至つたのは同四十年日本製鋼所並に輪西製鐵所の創設による結果で、昭和十二年十月一日現在調査による人口は一萬三千九百十六世帯、七



萬三千十五人である。
今や日本製鐵の一大増産計畫に基づく...

一港 灣

室蘭港は市全體が包む灣内にあり、港の入口は西北に向つて開き内浦灣(噴火灣)に面する。
其の幅約一里、東西一里二十六町五間、南北一里十町四十間港内面積三百六十一萬二千餘坪の廣大なもので横濱、小樽、函館等の二倍に當り、文字通天然の良港である。

港口は大正七年から昭和三年まで繼續事業で國費五百萬圓を投じ南防波堤千八百三十尺、北防波堤三千二百尺を築き、港内三十六萬坪の浚渫を初め第一期事業の築港を完成、引續き工費五百萬圓の第二期拓殖計畫による工事に着手した。一方港内では鐵道省の東洋一を誇る石炭積込設備や製鋼所、製鐵所、北日本炭礦汽船

等の岸壁、栗林商船の埠頭建設等一時に約十隻の汽船が横付となつて荷役作業が出来る。

燈臺は地球岬燈臺と大黒島燈臺とがある。地球岬燈臺は室蘭の代名詞となつてゐる。太平洋に面し突出した斷崖上に一等燈臺がある。石油蒸發自然燈三十萬燭光、光達二十五哩半の遠きに及び霧笛警報装置がある。大黒島燈臺は港口の大黒島と稱する小島にあり、光達十九哩。

二産 業

室蘭市産業の主なるものは製鋼、製鐵二大會社の重工業とこれに伴ふ鐵工業、鑄物工業、水産加工其の他の生産工業に天然の良港と石炭の集散に伴ふ海陸連絡地としての物資の集散多く膨脹、日高地方への商權も漸次擴張されつゝあり、殊に近年軍需インフレの影響を受け各産業の活況著しく、生産額も五千萬圓を超える盛況を見せてゐる。主なる會社工場等次の如くである。

日本製鋼所室蘭作業所、日本製鐵株式會社輪西製鐵所、株式會社栗林商會、栗林商船株式會社、室蘭埠頭株式會社、室蘭船渠株式會社、株式會社室蘭産物市場、室蘭給水株式會社、室蘭石炭荷役株式會社、室蘭自動車株式會社、室蘭水産工業株式會社、日本油脂工業室蘭工場、室蘭飲料株式會社、室蘭無糖株式會社、室蘭瓦斯株式會社、北海道飲料株式會社、室蘭貯庫株式會社

二財 政

昭和十三年度當初の豫算は一般會計、特別會計を合し約百六十九萬三千九百二十圓である。市収入の主なる財源である市税中の大衆税は戸數割を徴收せず家屋税による間接税の制度によつてゐるが、將來は税制改革を行ふべく市政當局の研究課題となつてゐる。豫算の概要を示せば、
一般會計一、〇二〇、三三三圓、水道會計五一〇、一九六圓、病院會計一四九、〇八三圓、公益質屋五、五七四圓、普通財産一〇圓、備置財産三八七圓、學校財産二、六六一圓、恩賜基金五四〇圓、慈善資金五九二圓、國民資金九〇一圓、病院

基金三、六五三圓
市税税率を見るに次の如くである(本税一圓に付)
所得税十六錢、營業收益税七十三錢九厘、家屋税(私法人營業用建物)十圓、同(個人)二圓五十錢

次に昭和十三年六月現在市債總額は百六十萬七千五百七十六圓で一戸當り百十四圓餘の負擔となるが、市有財産は總額三百五十一萬二千七百九十三圓、これが一戸當りは二百五十三圓餘となつてゐる。内譯は次の如くである。
▲市債 一般一、三三六、六四七圓、水道三三三、二〇〇圓、病院三三、九七四圓、公益質屋二三、七四四圓
▲市有財産 預金六八、六七〇圓、有價證券一、八三〇圓、土地(四六八町七四)二、二五二、二五四圓、建物(一八、三一六坪八五)一、一九〇、〇三九圓

二市役所首腦部

市長十居通次、助役横田一二、收入役松川清吉、財務課長岡村金太郎、庶務課長天龍宮之助、學務課長中川助五郎、土木課長池邊松、水道課長長初島高江、水道課長技師大平一

二歴代町、區、市長二

- ▲町長
1 秋葉全勇 明治、〇一〇同、〇九
2 岩波常景 明治、〇一〇同、〇〇
3 山上鎮八郎 大元、八一〇同、〇四
4 中村俊清 大元、六〇同、七一
▲區長
1 中村俊清 大元、五二同、二、七
▲市長
1 中村俊清 大元、三二同、〇二
2 福岡幸吉 昭和、五二同、〇九
3 福尾豊次 昭和、三二同、〇二
4 福岡幸吉 昭和、三二同、〇二
5 土居通次 昭和、三二同、〇一

二市會議員二(三六名)

(十三年十月四日改選)
議長田中義高、副議長徳中祐滿
議員 佐々木英雄、島義治、大野孝英、村田佐一郎、湯川竹三、里村伸二、結城竹治、加藤藤太郎、安藤正雄、關米助、表勇三、近藤光治、吉本謙吉、岡原教一、吉川市次、三門淺吉、鎌田將一、有馬良助、古道直治、富田作市、小林登三、高橋多々勝、山田守一郎、三枝守壽、宇賀金男、岡本幹輔、添田徳男、西林寅松、齋藤孫三郎、山中日露史、田邊虎三郎、大關助太郎、泰藤次郎、山口定吉(次點)櫻庭數男

釧路市



中央の輪はクシロ(釧)を意味し、星は北海道をかたどる。

二沿 革

寛永十二年松前藩では釧路川上流クツチャロの土人を當地に移し、漁場を開いて久壽里(クスリ)場所と稱し、こゝに開拓の端を發した。クスリはアイヌ語で「越ゆる道」をいひ、現稱釧路の語源となつた。當時は白砂の間に漁家點々たる一部落にすぎなかつたが、明治三年四代目佐野孫右衛門、奥州および函館地方より移民二百三十五戸を募集して入地せしめ、初めて市區の體裁をなすに至つた。明治十年ころ數年間にわたつて鹿狩が行はれ、行商人の店舗を構へる者など來住者やうやく多くなつたが明治十四年大火があり、現在の橋南一帯は殆ど灰燼に歸

した。同十八年春採炭山で採炭事業が開始されるに及んで逐年人口激増し、米町の遊廓もこのころより始つたと傳へられるが三十四年再び大火あり、荒涼たる燒野原と化した。間もなく釧路、函館間の鐵道が全通するに及んで町勢は一躍橋北方面に伸展し、諸官衙が續々設置された。しかるに大正二年橋北の樞要地帯は三たび灰燼に歸したが忽ち復興され、同十一年には市制の施行を見るに至つた。同時に第二期拓殖計畫による釧路港修築計畫の擴大實施及び釧路川治水工事の完成を初め市において施行の繫船岸壁竣成、上水道の完成その他鋼網線の全通、私設堆別および臨港鐵道の開通、釧路川護岸工事の竣成等により面目一新、大釧路の建設へ一路邁進してゐる。

更に釧路は今や「貿易の鋼路」を目標として東北海道に君臨するほどの存在であり、日豊しい發展地である。屈指すれば三井の太平洋、三菱の雄別、この二大

炭山をはじめ、所謂釧路炭田とも稱せられる地域には大小の炭礦十數餘に及び、何れも年と共に産出量の激増を示し、さながら石炭王國の觀を呈して居る。且之に加ふるに王子製紙釧路工場があり、極東煉乳釧路工場、北海道製糖、木材防腐、釧路水産、北海道信用購買販賣組合聯合會精造工場、昭和乾物等組織いで大規模の工業が企及されつゝ、あることは固より見逃されなかつたが、それよりも以上力強いのは、後方三千里に亘る無盡の資源を商團とする釧路は、港灣施設の完備と相俟つて世界に誇るべき大釧路へ飛躍せんとする輝かしい前途が約束されてゐることである。

二戸口と土地二

昭和十二年末現在世帯數は一萬六百四十一、人口は男三萬一千百十五人、女二萬七千四百四十四人、合計五萬八千五百五十九人にして一戸當り人口は男二・九三人、女二・五四人、平均五・四七人となつてゐる。次に同年末現在面積は四萬七千二百三十三・八平方軒、廣袤は東西二一・一軒、南北八・四軒である。土地を有租地、無租地に分つと左の如くである。







町村の紋章

石狩支廳管内



村島廣

昭和九年七月制定。朝日に水を和し君民一致を表徴し日は君とし水を民に擬へ國家平和と隆昌とを意味する。



當別村

昭和九年十月九日制定。當別の當を中心にして外廓にして圖案化せるものである。



白石町

昭和三年十一月制定。白石の「白」字を中央にして「石」六

町村の紋章

つを以てこれを圍み白石村を表徴したものである。



豊平町

昭和十一年十月制定。本道に於て特別大演習を行はせられ長くも聖駕巡幸あらせられし御盛儀を永遠に記念せんがため出來たものである。



江別町

大正十三年制定。本町の開拓は北門警備の屯田兵を配せられたるに創るので陸軍の星章を以てし、周圍の圓は江別の頭文字のエを以て月に象どる。

上川支廳管内



旭川村

昭和八年六月制定。開村當時旭川村と稱したので旭川の紋章としたものである。



愛別村

昭和九年十一月制定。村名愛別の語源矢川に旭日を配し昇天の勢で發展の意味を表徴したものである。



富良野町

紋章制定の年月日は不詳。富良野の「富」を圓にして圖案化したものである。



神居村

大正十四年四月制定。神居村は六字に區分せられ恰も神



山部村

居の意を寓するので克く團結力(六力)して一大理想郷を建設せんとすることを表徴する。



山形村

昭和十年十一月二十日制定。父祖開拓に努力せるを永久に記念せんがため中心に星形を以て表し本村主要産物たる米を表徴したものである。



比布村

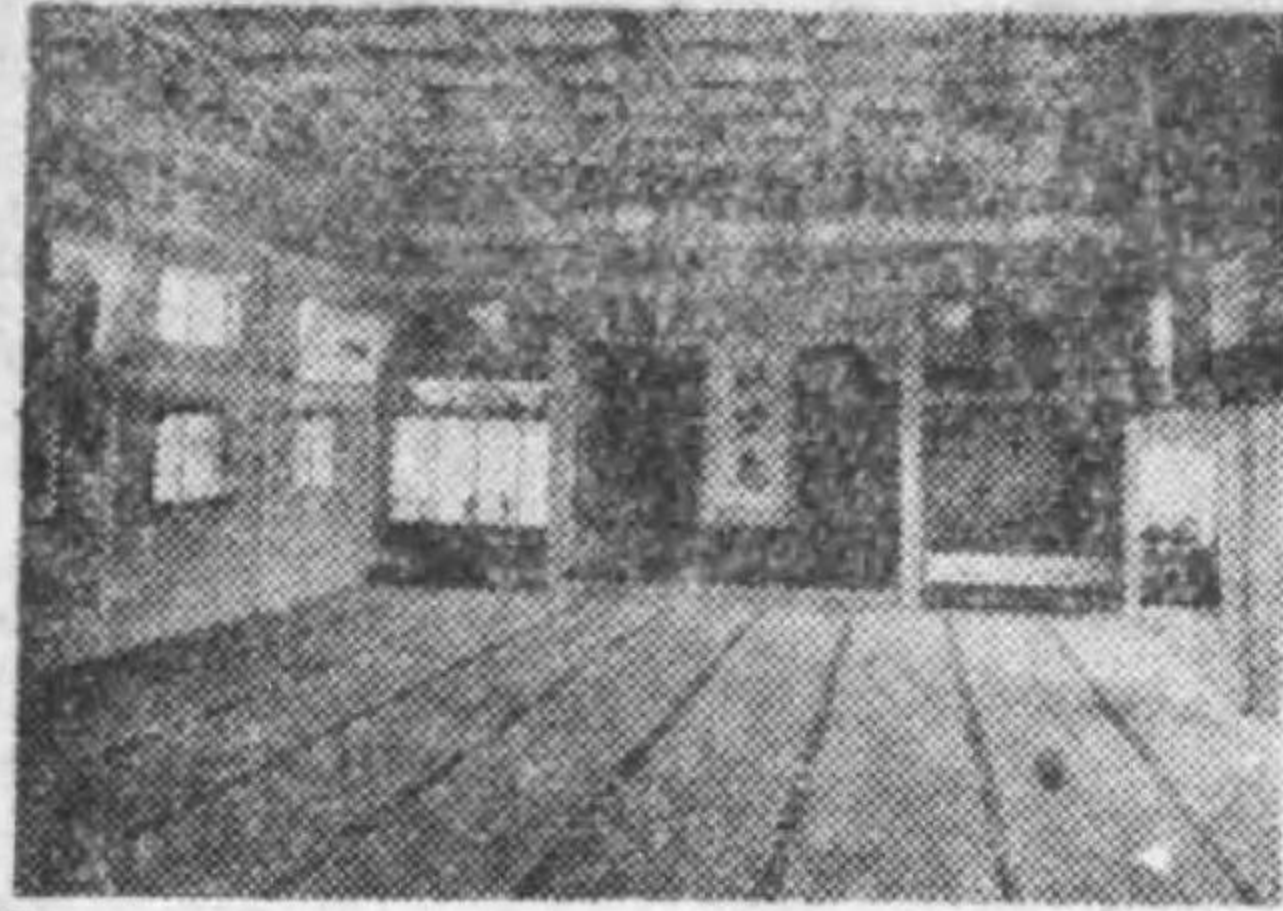
大正四年制定。稻は北海道一の産地「上川」を表徴し星は北海道を象り比布の比を表したものである。



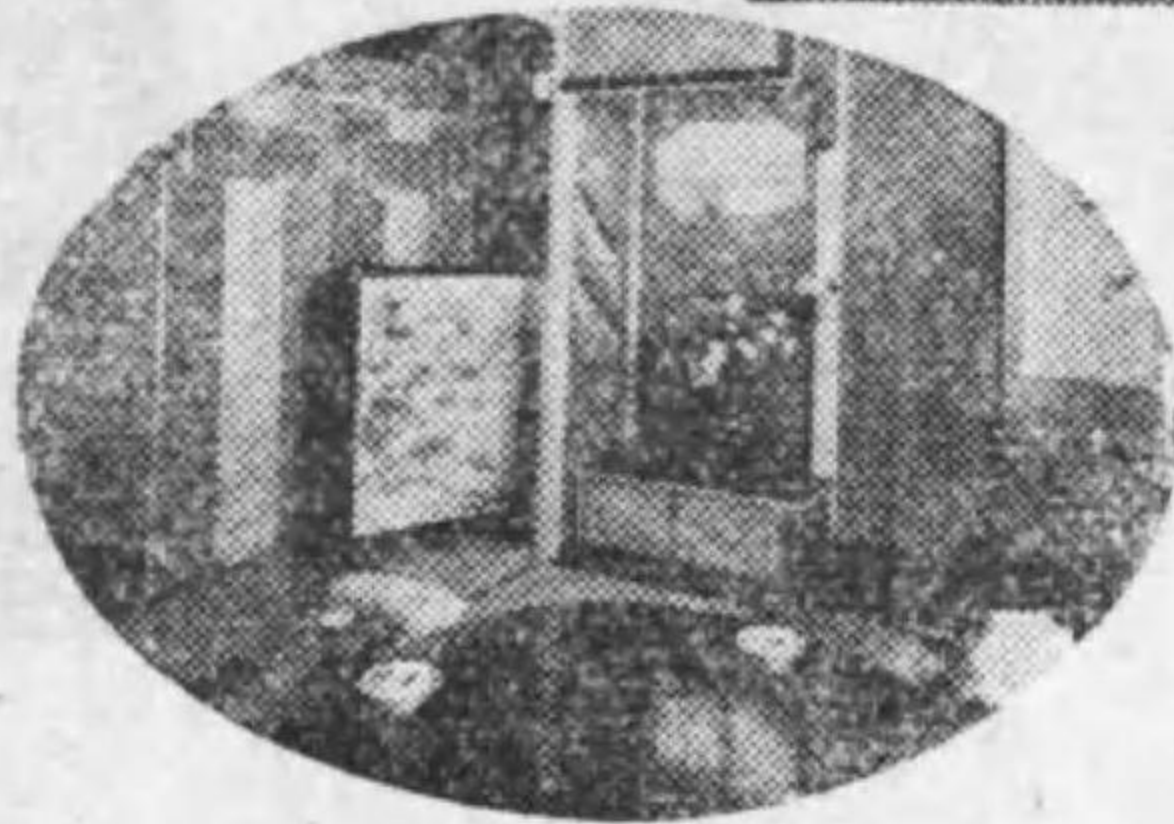
山部村

昭和九年三月制定。明治大帝の御製を拜し旭日を象どつて心氣の公明爽快と日の出の前途洋々たるをうつつして「山部」の冠字を表

六一五



御宴會場 大廣間



酒瀨小座敷

大小御宴會と御食事

(全店新裝成る)

割烹

辰巳

札幌名代會

四五四  
四〇九三



町村の紋章

現したものである。

後志支廳管内



町島高

昭和十年三月五日制定。輪廓は装飾星は北海道を表す。又



町内岩

昭和九年十月十五日制定。外廓を五本の輪にして五輪(イワ)それに入れて岩内としたものである。



村別茂喜

昭和十一年七月制定。本村の三團體即ち村、農家、産業組合の協調圓滿を表現せるものは北海道、「喜」は喜茂別の喜を取つたものである。



町市余

昭和十二年三月八日制定。星で北海道を表徴。余市圓形の余市



村川井赤

昭和五年八月五日制定。赤井川の村名をその儘に圖案化したものである。



町國美

大正十五年七月制定。櫻花の中に美國の「美」を入れ皇國武士道の宣揚に始まりて住民の精神涵養作興を期す。



村太狩

昭和九年八月制定。狩太の「太」を圖案化せるもので北海道道の表徴星に一點を附し北海道



村澤栗

明治四十二年四月制定。村をして星の如く永久に光輝あらしむべくこれを象どり中央に村名の題字を加へたものである。



町唄美

昭和八年制定。ピを中にバ五字を配合して美唄なる字義を表し併せて日星を象どる。



町張夕

昭和十二年八月五日制定。黒菱形及び周圍の三線は本町の主要産物石炭即ち黒ダイヤを表徴しその中央に夕張の「夕」を圖案化したものである。



村泊

昭和十二年二月二十五日制定。外側は「中」は「白」即ち泊を圖案化したもの、更に中は國旗を暗示。



村瀧取貝

昭和九年十一月二十二日制定。本村は行政區は四區であるから四區圓滿協調、村治進展を期する意味を表す。



村遠久

昭和九年十二月二十八日制定。輪廓は水産の形を圖案化した。久遠村は四箇部落より成れば四つの村を表し久遠の夕丸形を以て圖案化したものである。



村棚瀬東

昭和九年一月制定。米は本村の主要産物なるを以て村名の冠字「東」を稻にて抱擁し即ち農村の東瀬棚村を表徴。



村島小

大正十二年五月九日制定。大字五箇村一團となり一村を造り圓滿を意味する。星は五箇村を表しその中の日章は圓滿を表すものである。



村内岸尻

大正七年四月廿四日制定。尻岸内村は四字より形成し各字は何れも巴港を形造り總べて協力一致を以て圓滿裡に自治發展の域に進展する表徴である。



村澤大

大正十二年制定。大を三つ合はして輪となし大三輪を表し大澤を表徴するものである。



村岡吉

大正四年十二月六日制定。四箇の「ヨ」の字を以て輪廓とし「吉」を意味せしめ中央に岡の字を描きて吉岡を表徴す。



村島福

大正四年九月二十日制定。福島の「フ」の字を九つ輪にして福に通はせ中央に島を入れて圖案化したものである。



村内古木

大正六年十月三十日制定。龜甲と木古とを通ぜしめ内部



町川湯

大正十一年一月制定。星は北海道花は鈴蘭、湯は温泉を表徴するものである。



村澤龜錢

大正六年六月制定。村名の錢龜に因み龜甲に錢を配したものである。



村井戸

古來より使用せるものなるも大正六年十二月正式に制定する。



村尻白

大正四年四月二十三日制定。村名の頭文字を以月桂樹を以



村部札尾

昭和九年六月二十五日制定。本村は古來天産尾札部昆布を以て日本第一の名あり、加之魚介豐饒なれば紋章もこれに因んで抱昆布、重ね鱗としたもので中央に配する村名の尾の字の三角形硬化は天地人三位一體を表徴する。



村部鹿

昭和七年五月十日制定。片假名の力を四つ組合はせ四カ(鹿)と訓せしめ中央は温泉と昆布を表徴せしめたものである。



村原砂

大正六年十月二十四日制定。本村は海面灣形をなした二

町村の紋章

檜山支廳管内



町村の紋章

つの大字より成立し村社の定紋  
巴を取り二つ巴にしたものであ  
る。



町 森

昭和五年七  
月二十六日  
制定。森の  
字を圖案化  
したもの。



村 部落

大正六年七  
月三日制定  
部落の音を  
「オ」を十箇  
統へてそれ  
が硬化をな  
ししめ中央  
「日」を藏  
して萬物こ  
れが恵み受  
けてます。日  
を圍みて星  
形あり、北  
海道を意味  
す。



村 部萬長

大正二年四  
月一日制定  
星は北海道  
を象徴し六  
角は六合の  
意で東西南  
北上下の六  
方の稱、篆  
書は長萬部  
村の頭文字  
を示せ

るもの。

膽振支應管内



村 別幌

大正九年制  
定。村内に  
はリリーの  
咲き誇る所  
多いのでこ



村 真厚

昭和五年三  
月十九日制  
定。本村は  
開村以來米  
作を以て本  
業とし厚真  
米の由緒も  
茲より發  
せらる。



村 別穂

昭和四年四  
月制定。穂  
別のホを輪  
廓にし中に  
別を入れ村  
の中央に鶴  
川貫通し鬱  
蒼たる森林  
の中に耕地  
を位置する  
を表徴す。



町 達伊

昭和十二年  
八月制定。  
清流の邊武  
士に依り開  
拓せられ氣  
候風土適順  
永遠に榮ゆ  
るを表徴



村 正大



町 水清

は水の變形。



村 幌浦

昭和十二年  
二月二十一  
日制定。大  
正を圖案化  
したもの。  
昭和十二年  
五月八日制  
定。清水を  
圖案化した  
もの。外廓  
は水の變形。  
つけ本村は  
十勝國十勝  
郡なる故



村 樹大

昭和八年五  
月制定。大  
の字を以て  
輪廓とし木  
を中心にし  
圖案化した  
もの。



町 河浦

昭和三年制  
定。浦河の  
「ウラカワ」  
の四文字を  
圖案化した  
に纏めて圓  
満協調を表  
徴させたも  
のである。



村 泉幌

昭和九年九  
月二十五日  
制定。中央  
の旭光九線  
は九部落を  
示し花形は  
名花庶野の  
櫻に因みこ  
れを圍める  
昆布の輪廓  
は本村産業  
の粹を表現  
す。

根室支應管内



町 室根

大正四年十  
月制定。片  
假名の「ロ」  
字六つを圓  
形に置き  
「ムロ」を示  
し中央「ネ」  
字を以て聯  
繋をとり「ネ  
ムロ」とせる  
ものである。



村 取薬

昭和三年八  
月制定。薬  
取「シ」ペ  
ットの片假  
名「ロ」を  
圖案化した  
圓滿を表す  
圓にしてま  
とめたもの  
である。

網走支應管内



町 幌美

昭和十二年  
八月十六日  
制定。「ビ  
ホロ」の「ビ  
」と「ロ」で  
外輪とし中  
にホを入れ  
圖案化した  
町村の紋章

たもので、圓は圓滿平和を意味す。



町 薬邊留

昭和九年十  
一月制定。  
薄荷、稻、  
麥其の他農  
産物、鐵山、  
温泉等多角  
的な産業の  
特質と圓滿  
なる融和發  
達を表徴す。



村 別湧下

昭和十二年  
十月制定。  
全形を圓と  
なし圓滿充  
實發展を意  
味し中央の  
星は北海道  
を表現する  
ため星を北  
の字に圖案  
化したもの。



村 上の瀧

昭和九年五  
月制定。總  
體は北見瀧  
ノ上を表示  
す。外枠は  
「タキノ上」  
の四字を圓  
形にて表し  
内は山を三  
箇合はして  
北の文字に  
組合はせ北  
見を示す。

釧路國支應管内



村 茶標

昭和十一年  
十一月五日  
制定。北海  
道川上郡標  
茶村の中  
「北、川上、  
標」の四文  
字を配しこ  
れに本村主  
産物林産物  
中の柏の葉  
を配す。



村 糠白

昭和八年十  
一月制定。  
「白」の字  
を五つ崩し  
て使用して  
星形に並べ  
その中間に  
丸を入れて  
連繋せしめ  
五十年を意  
味したもので  
ある。



村 寄足

昭和九年十  
月制定。中  
央の星は北  
海道之意、  
内輪は「ア  
シ」の四箇  
即ち「アシ  
寄」となる。



村 取鳥

昭和九年六  
月制定。鳥  
取の鳥を丸  
に象どつた  
ものである。



町 幌羽

昭和十年七  
月制定。ハ、  
ロの片假名  
で外輪とし  
中央にホの  
字で六角六  
花を表示し  
て圖案化  
したるもの  
である。



村 別遠

昭和九年八  
月制定。旭  
日と遠別の  
別を以て圓  
形を形造り  
中央に遠別  
を菱形に配  
しポイント  
ト四箇は米  
字を象どる。







露西亞はかくして勢力の伸長に努めると共に露政四年(約二百年前)ラツクス...

幕府は慶應二年再び小出大和守、石川駿河守を露都に派遣し...

類、古生界等に類する古期岩石から成り、雨側は白堊系及び第三系...

東部山地帯 主として結晶片岩類、古生界の岩石で構成され、東北山脈は古生界の岩石と結晶片岩類から成り、東海岸には中生界白堊系岩石の露出を認め、西南部から北知床にかけては第三系が狭長に分布してゐる。

中部山地帯 主として第三系の岩石で構成され、概内低地には安山岩の他に堅硬な岩石なく厚層の泥炭、粘土及び砂礫等から成つて居る。鈴谷低地は主として粘土、砂礫から成り泥炭層は極く薄い。

西部山地帯 主として中生界白堊系に属し南北に連なり、その西側には第三系の岩石が露出をなし帯状に分布して石炭層、石油層を夾在し、而して此の帯地帯には東西共處々に火山岩が迸發して單調を破つて居る。

海流 樺太の沿岸には寒暖の二流があり、一年を通じ相消長

越えて明治七年外務卿副島種臣は樺太の買収を提唱したが、時の開拓使黒田清隆の樺太抛棄の建白が政府の容れる所となり、駐露公使榎本武揚が政府の命をうけ此の接衝に任じ、翌八年遂に千島樺太交換條約の締結となつた。

地誌

樺太は北緯五十度線を境界としてソ聯領と接してゐる。樺太の南門戸に當る大泊(北緯四十六度三十九分)は東京を距ること緯度にして十一度、船車の便に依れば約四十六時間であつて北方に偏在する關係上氣候は概ね寒冷であり、所謂亞寒帯と稱されてゐる。樺太の面積は三萬

六千九百六十六軒で、九州より稍々小さく臺灣より幾分大きい。樺太は地質及び地質により東部山地帯中央低地帯、西部山地帯の三つに區分出来る。西部山地帯の脊稜は西樺太山脈で概ね南北に延び平頂を有し、幾條の深谷を以て南北に連結して居り、本山脈は五十度以南、四十九度半附近に於て海拔千二百米餘の數香岳となり、四十八度以南に至つて漸次低下し、最狭部たる武蔵、久春内附近を最低部として南部再び野田寒岳、留多加山等の高峰を形勢して居る。東部山地帯は多來加湖頭より榮濱に至る間海中に没し南北に二分され、北部は東北山脈となり、西南は多來加湖の附近で縮え、東部は船越に於て没し再起して一連の山丘は北知床半島となつて南方に突出して居る。本地帯の南半は海拔千四百五米の鈴谷山脈脊稜となり、南は捕鯊高原、東部は富内、池邊等の湖水を湛へた窪地帯を以て一度び縮え、再び中知床半島となつて居る。中央低地帯は東部山脈の中絶するや概内川口附近より榮濱附近までの間は海面下に没し南北二帯に分た。北中央低地帯はツイミ、概内兩河の流域であり、その長約二百八十軒(五十度以南は約百二十軒、幅約二十軒乃至三十二軒とす)その大部分は所謂ツンドラ地帯と稱する低地帯で、厚層の泥炭上に苔蘚類密生し極小なる落葉松叢生するのみ。沼澤多き階段的平地であるが概内川及びその支流の流域は泥礫、機松、蝦夷松、落葉松叢生し或は白樺の純成林を見る。斯くの如く概内川の両側に展開するツンドラは家畜放牧に不適地帯ではあるが、此の地方に居住するオロツコ、ニクアン族に對しては馴鹿の放牧適地である。南中央低地帯は榮濱附近から鈴谷川河口附近に至る約八十八軒に亘る平野で、大地概ね豊饒農地に適し、隨所に農村が散在して居る。

主なる河川 概内川、知取川、内淵川、鈴谷川、留多加川、北名好川、惠須取川、泊居川、野田川、堆内川、主なる湖沼 白鳥湖、雄武湖、來知志湖、多來加湖、富内湖、遠瀧湖、知愛湖、池邊湖、主なる山岳 數香岳一、三三五米、幌登岳一、二五九米、惠須取山一、二三五米、釜伏山一、〇八九米、鈴谷岳一、〇四五米、振戸山一、〇三五米、新開山一、〇三四米、野田岳一、〇二九米、北宗谷岳一、〇九米

地質 樺太を構成する地質は岩石は主として結晶片岩類、古生界、中生界、白堊系、新生界の第三系及び第四系其他花崗岩、安山岩等であつて、その分布は中央低地帯の兩側で著しく相異し、東側は主に結晶片岩

方料餘にして、此のうち農牧適地面積は約二割七千二百餘方軒と言はれ、更に此のうち四千七百九十方軒を農耕適地、殘餘の二千五百方軒餘を放牧適地として利用し得らる。

移民概況 明治三十九年領有當時人口僅か一二、三六一人に過ぎざりしが、以來躍進的增加を來し昭和十二年末には三十三萬六千九百餘人に激増せり。本島の移民は逐年著増しつゝあるが今尙出稼労働者の數尠からず、之等は殆ど定住性なく本島未開地開拓には領有來農牧業による定住移民招來を以て根本方針となし今日に至つた。即ち政府は本島開發のため領有と共に露領時代の農業調査状態を検討して専門技術者に依頼して調査を遂げた結果、風土、氣候等農業に好適と認め、有畜農業に倚る自作農經營を建前とし諸種の法規をこの方針に則りて制定、又土地處分の規定を整備すると共に農業者への保護獎勵機關を設けて移民招來を圖る一方、農事經營改善向上のため諸試驗場、試作場等の施設を行ひ、昭和四年に至つて試驗場を擴大して樺太廳中央試驗所を設置し、内容の充實強化を圖つて本島開拓の原動力とした。加へて今後百萬人の收容力があると謂はれる七十二萬二千ヘクターの農牧適地に對しては道路、

排水、衛生其の他の施設完備を目指して土地利用價値の向上を期してゐる。明治三十八年樺太廳は殖民地の選定に著手して之が區劃を行ひ、土地貸付を開始すると共に土地處分の諸法規を施行するに至つた。

集團殖民地 昭和三年に至り樺太廳では移民の素質向上と官營施設の徹底に依る理想的農村建設の計畫を樹て、集團殖民地を各地方農耕適地帯に設定したが、昭和九年以降樺太拓殖十五年計畫の樹立と共に毎年の集團移民募集數(島外)を百五十戸とし、島内自由移民を三百戸と定むるに至つた。然るに昭和十二年七月支那事變の發生を見るや、我が大陸政策の影響に依り島外移民の募集は益々難色を加へた爲、島内移民をも隨時集團移民地に入地せしめる方法をとる事となつた。昭和十三年現在の集團殖民地は次の通。

殖民

邦領樺太の總面積は三萬六千



戸數・人口

昭和十二年末現在各市町村別戸數、人口、種族別、本籍地別、産業職業別人口動態は次の通りである。

Table with columns for '市町村別戸數、人口' (Municipalities by household count and population) and '種族別戸數' (Ethnicity by household count). Rows list municipalities like 市町村名, 戸數, 總數, 男, 女.

Table with columns for '種族別戸數' (Ethnicity by household count) and '種族別人口' (Ethnicity by population). Rows list ethnic groups like 土人, 朝鮮人, 日本人, 支那人, 韓人, 露人, 蒙人, 回人, 漢人, 英人, 米人, 露人, 蒙人, 回人, 漢人, 英人, 米人.

土人

樺太に在住する土人はアイヌをはじめニクブン、オロツコ、キーリン、サンダー、ヤクーツの六種族であるが、彼等の智能極めて低く、程度の幾分高いアイヌ族ですら社會の競争場裡では自立し得ない状態である。生業としては農業、漁業等があり、樺太廳では早くから彼等の指導と自治の方途を與へ、彼等の風習を傷つけざる範圍内で文明の惠澤に浴せしめんとしてゐる。オダス(敷香)の土人部落の如き之が代表的なものである。

Table with columns for '土人人口、戸數' (Native population and households) and '計' (Total). Rows list ethnic groups like アイヌ, ニクブン, キーリン, サンダー, ヤクーツ, 計.

本籍地別 (昭和十二年末内地人)

Table with columns for '本籍地別' (Place of origin) and '種族別人口' (Ethnicity by population). Rows list prefectures like 北海道, 東北, 関東, 中部, 近畿, 四国, 九州, 支那, 朝鮮, 南洋, 露國, 米國, 英領, 露領, 蒙領, 回領, 漢領, 英領, 米領.

間に轉住させ、自派も一部を富強に移轉せしめた。尙アイヌに對する戸籍法は昭和八年一月樺太廳行政令の特例を改正して實施された。ニクブン 北部樺太内川流域に殘存し先住民族たるオロツコ族間に雜居す。近親結婚を嫌ひ他民族と雜居する爲か漸次體格優秀となり、孜孜として生業に勤み土人中の優位を占めてゐる。オロツコ はトングース族の一派で北部樺太内川流域に居住し、馴鹿を飼育すると共に山野に鹿、貂を獲り、或は海に出でて海豹、鱒、鮭の漁業を爲し、年中山草を採つて天幕内に起臥して居る。一般に無智無味感情で年少にして煙草を好み酒に親しむものあり、従つて同族互に反目する様な状態を示して居る。キーリン 大陸居住中支那文明の感化をうけ、又樺太渡來が他民族に比較して遅き關係上習俗の程度他に比較して進んで居る。快活で動作敏捷、飄泊性を持ち種々とする。サンダー 十二年末の人口僅か十一人次第に減少の一路を辿つて居るが、往年山麓人と稱へ大陸と樺太間を貿易の爲往復した模様。ヤクーツ 純土人古族でヤクーツ方面から移住したものと云はれて居るが、現在僅か敷香管内で二名。風俗習慣 從來彼等は漁業、



狩獵、労働等に依つて生活したが、當局が半農半漁の方針で指導した爲漸次農耕の方法を體得し成績をあげてゐる。古來彼等の風習は隣保相扶、同病相憐むの情厚き美風あるが、一面には他に依頼する缺陷も尠くない。衣服は主にアツシを用ひ、裝飾は耳環をつける他年長婦人は唇に黥をなす。(アイヌ)

飲食物 は魚類が主で、副食物に百合根、フキ、キト、トマ等を食す。社會關係は往時は部落毎に酋長があつて部落民を統率したが、今日では此の制度がない。樺太廳では之に代るに總代制を設け往時の酋長を之に充てゝゐる。

經濟關係 物資の交易は往昔は専ら物々交換に依つた。貸借關係は何等法的觀念はないが、義務は必ず履行すべきものとしてをり、萬一違反者のある場合は違約者として同族間から嘲笑をうける。

娛樂祭禮

アイヌ族の娛樂は聲樂音樂、舞踏、遊戯等があり、聲樂はユーカラ(酒席で歌ふ男女の痴情)ハウケ(祭文の如きもの)ヤエガタカラ(都々逸の如きか)オイナ(昔噺)トイタ(伽噺)等、樂器はトソコリ(三味線に類似した五絃琴)ムツキナ(竹製の口笛の如きもの)の二種、他に太鼓がある。舞踏は盆踊の如き八人一組となり飛び廻る他に別になし。遊戯は綱曳角力、繩飛、棒技など、祝祭は漁期はじめの豊漁祈願祭熊祭等で、男女の情事は此の際に行はれる事多し。

氣象

邦領前樺太に於て稍秩序的な氣象觀測が行はれたのは千八百八十一年(明治十四年)以降であるが、明治三十八年我が領土に歸して以來臨時觀測所官制の公布に依り同年十月コルサコフに臨時觀測所を設置した。之が樺太觀測所の草創であつて當時は中央氣象臺の所屬にあつたが、明治四十四年樺太廳の開廳と同時に之が所管に歸した。昭和十三年九月現在の觀測所並に支所、簡易觀測所は次の如くである。

Table with 3 columns: 名 (Name), 所在地 (Location), 設置年 (Establishment Year). Lists various observation stations across the region like 樺太廳觀測所, 大泊, 明三, etc.

地方行政

の綜合的氣象觀測を行はんとする氣運に向ひつゝあり。又惠須取地方に對する氣象觀測の充實を計る爲十三年度に於て觀測支所を建設中である。尙前表以外に豊原には樺太廳鐵道觀測所、中央氣象臺豊原臨時地磁氣觀測所がある。

本島氣象の概況は日本海とオホツク海との中間に在る關係上寒暖二種の海流に洗はれ、内部は二條の山脈縱貫する他亞細亞大陸の影響を受け、氣象は各地方に依り夫々異なる状況にある。然し南西沿岸部は暖流に洗はれる爲比較的暖く、北東沿岸は寒流の影響を受け寒冷であり中部は山脈に圍まれる爲大陸的氣候を呈し寒暑の差が甚だしい。世界同緯度の土地と比較すると、氣温の低いのは近海に暖流少きを一因とするも、亞細亞大陸の影響を受ける事が主である。近海寒暖兩流の衝突する所には濃霧を生じ、冬季氣温の低下と共に畑む。山脈を境とし西海岸は概ね陰曇にして東海岸は曇明なり。

行政

樺太廳は明治四十年三月勅令第三十三號の公布に依

り同年四月一日に設置を見た。最初の内務大臣の指揮監督下に屬し、廳内を長官官房及び第一部、第二部に分ち一般行政事務を管掌したが、當時の事務分掌は官房に於て官吏の身分進退、文書の往復及び會計等、第二部に於て拓殖、土木、鑛業、森林、農業並に牧畜に關する事務を掌り、第一部は前記第二部の管掌せる事務を除いたものを取扱つた。

即ち長官官房を秘書、文書、會計の三課に分ち、第一部は警務、水産、交通、土木、林務、鑛務の四課としたが、拓殖の進展に伴ひ行政の實情に即する爲、明治四十二年第一部から警察、衛生に關する事務を分離して第三部を新設したのを始め數度に互る機構の改革を経て今日に至り、その所管も内務大臣から内閣總理大臣に、更に内務大臣に(大正二年)移り、大正六年再度總理大臣の指揮下に屬したが、昭和四年拓務省の新設と同時に拓務省の監督下に置かれるに至つた。

此の間樺太廳と同時に設置された支廳、醫院、郵便電信局の外鐵道事務所をはじめ警察署、

觀測所、中央試驗所、林務署の設置となり、或は拓殖事業の整備を期する爲臨時職員設置制を設けるなど幾多の變遷を経て今日に至つた。昭和十三年九月現在樺太廳の分課規程は次の如くである。

- ▽長官官房 秘書課、文書課、調査課
▽内務部 地方課、學務課、財務課、會計課、養蠶課、稅務課、度量衡所
▽殖産部 林務課、林業課、鑛務課、水産課、水産物検査所、殖民課、農務課
▽交通部 土木課、通信課、鐵道課
▽警察部 警務課、衛生課、保安課、高警課、防空課

始政記念日 樺太廳では八月二十三日を始政記念日と定め、毎年此の日に始政記念式を擧げ盛大なる祝賀會を催して居る。此の理由は明治三十八年七月我が軍樺太占領と共に大本營直屬の下に樺太民政署が組織されたが、同年八月民政長官は部下を引率して京城を發し同月二十三日アレキサンドロフスタに上陸、此の日直に民政の端緒を開いた事に依る。

明治三十八年七月七日我が軍太政略軍南部上陸隊が女麗に上陸、コルサコフを占領して後各地に假軍政區署を設けコルサコフを第一とし、夫々第二、第三第四軍政區署と稱したが之が樺太行政制度の最初で、同年八月二十八日民政署の設置と共に廢止された。新設の民政署は純文官を以て組織したが職員は總べて戎衣帶剣であり、民政長官の權限も又極めて輕易なる事項に制限され、重要な事柄は軍司令官の裁決を必要としてゐた。明治四十年三月樺太廳官制の公布に依り樺太廳が設置され、之に伴ひ各地に支廳、出張所が設けられたが、當時の支廳、出張所は主に警察事務を取扱ひ、後警察機關の獨立と共に純然たる行政機關と化した譯である。大正十一年から十三年に互り一時支廳、出張所が廢止された事があるが、十三年復活今日に及んだ。



現在の支廳は庶務、財務、産業の三課に分れ、各課に課長を置いて事務を處理せしめてゐるが、出張所は人員、事務分量の關係上課長を置かず各主任に命じて處理せしめてゐる。支廳長及び出張所長の権限は地方行政の複雑多岐に互ると共に漸次擴大に努めて居るが、近く官制の改正に依つて支廳長を事務官に改正せんとする機運にある。現在の支廳並に出張所及びその設置年月は次の通である。

樺太廳歴代長官は次の通。

歴代長官 樺太民政長官並に樺太廳歴代長官は次の通。  
任 命 轉 退 官 氏 名  
明六、七、三六 明四〇、三三三 熊谷喜一郎  
明四〇、三三三 明四一、四三三 楠瀬 幸彦  
明四一、四三三 明四一、六三三 床次竹二郎

樺太廳所屬官署職員數

(十三年四月調査)

Table with columns for year (e.g., 大正三、六、三, 大正三、三、五) and various official positions (e.g., 平岡定太郎, 岡田 文次, 永井金次郎, 昌谷 彰, 喜多 孝治, 岸本 正雄, 今村 武志, 棟居 俊一).

樺太廳高等官

職員四四、備人一三七  
警察署 警視二、警部八、警部補一七  
巡查五二七、臨時雇五  
醫院 警長三、醫官六、醫員一七、藥  
局員三、書記三、嘱託三、雇員一七、臨  
時雇員一、看護婦六五、備人三六  
中等學校 校長七、教諭(兼任)三三、  
同(兼任)一三三、書記一〇、嘱託三三、  
雇員八、臨時雇員二、備人三九  
小學校 校長(兼任待遇)七四、教員一、  
四四八、備人一六六  
郵便局 事務官一、技師一、書記技師  
三五、書記補五三、雇員三八九、臨時雇  
員三、備人二二四  
特定局 局長(兼任待遇)二、同八〇、  
通信手四六、事務員四七四、備人四四五  
總計 高等官一三五、高等官待遇七六  
判任官三、四一三、雇員(嘱託)二、五六一  
備人三、一〇六、計九、二九一  
市長一、町長一一、村長三九

所屬官署長

長官棟居俊一、内務部長武藤公平、交通  
部長伊藤正良、殖産部長中村憲祐、警察  
部長白井八洲雄  
(検査課)課長(兼)野口俊一、事務官牧野  
堅四(文書課)課長好口俊一  
内務部(調査課)課長 矢尾板幸三郎  
(地方課)課長北村得三(會計課)課長田中  
照太(財務課)課長三東忠之介、事務官片  
谷善三郎(稅務課)課長鈴木嘉之助、技師  
坂本順次郎(學務課)課長豊村増彦、視學  
官中澤信治、社會教育官中西弘成、技師  
福井忠俊(養蠶課)課長技師 石井佐賀恵  
(度量衡所)所長(兼)北村得三  
交通部(土木課)課長技師奈良部集松  
事務官井出瑞穂、技師境清吉、同奥平義  
行、同八卷重郎、同松野蘭治(通信課)課  
長事務官長野真水、技師杉本彌一、同青  
木平章(鐵道課)課長事務官島田毅一、技  
師鈴木保  
殖産部(林務課)課長事務官尾澤清太  
郎、技師市川三五郎、同新開恒太郎、(殖  
民課)課長事務官 杉野健男、技師磯井誠  
(農務課)課長技師佐藤司、技師東亮輔(續  
務課)課長技師野原一、技師川崎勝、同  
馬屋原敬吾(林業課)課長技師田畑司門治  
技師上野實慈、同内田平三郎、同松澤敏  
男、同坂井秀夫(水産課)課長技師井正  
雄、技師川越庸樹(水産物検査所)所長技  
師大野應勳  
警察部(警務課)課長警視 木原秀雄  
(保安課)課長警視阿部宗一(衛生課)課長  
警視黒石勝、技師中島忠、同谷合三代吉  
(高等警察課)課長警視新見泰三(防室課)  
課長兼木原秀雄(刑事課)課長警部須藤廉  
之助(警察官練習所)所長警部鹿又敬次郎  
樺太廳鐵道事務所 所長技師草野虎一  
技師渡邊六太郎、同藤田正美、同村上達  
夫  
樺太廳中央試驗所 所長技師奈良部都



- ★信用の歴史
- ★技術の粹
- ★在品の完備

眼鏡のデパート

水野眼鏡商會

札幌南二・停車場通 電話七三二番 振替小樽一三七五番



Camera

一條藥局 カメラ部

札幌著名専門店會員

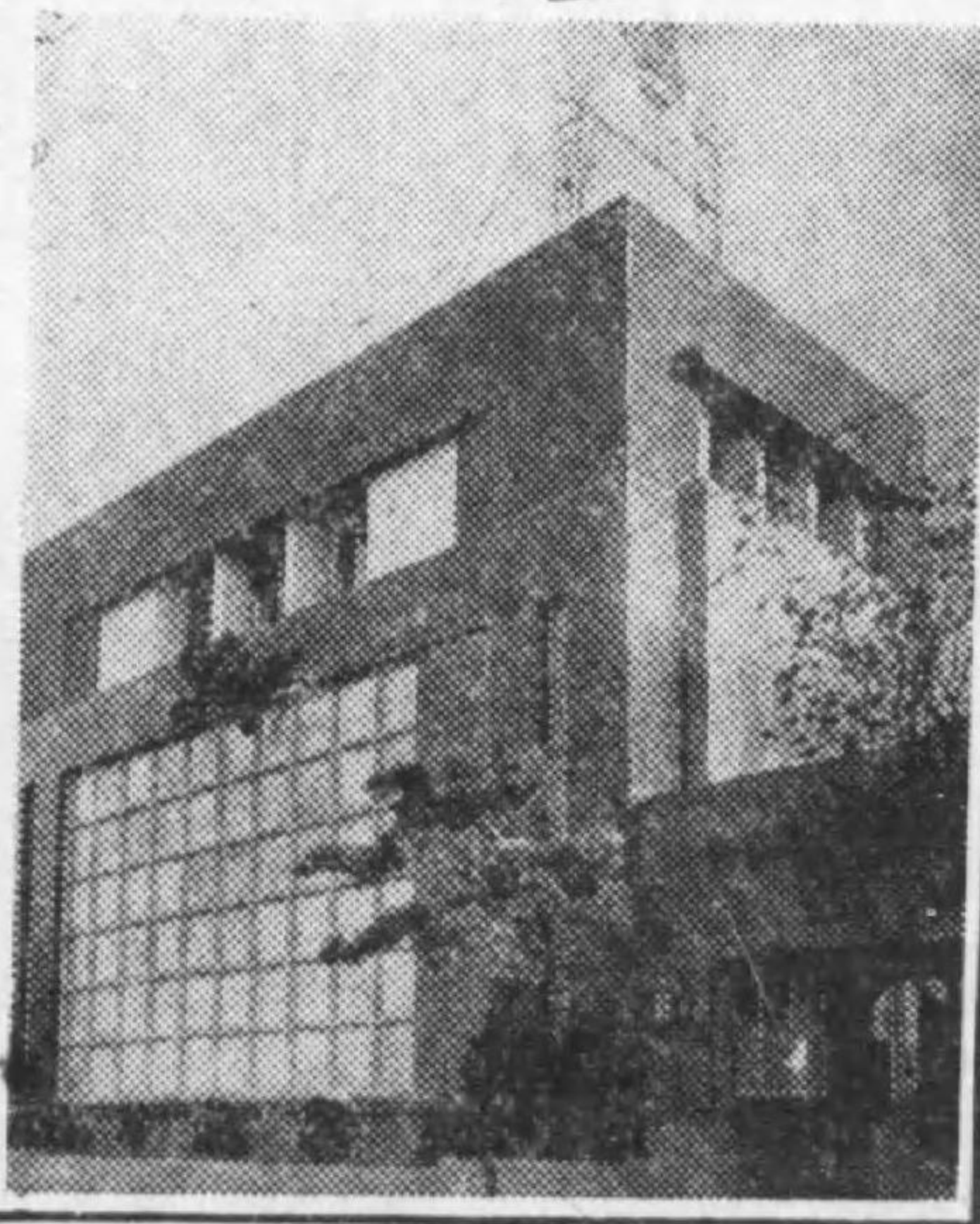
一條藥局

南一西四 電三五六番



# 東北・北海道

## 社交界の王座



日本料理  
支那料理  
西洋料理

札幌  
グランド太陽

電話 二一八八番  
二五八八番

義、技師(兼)村山佐太郎、同岩木忠、同川瀬道二、同高山保二、同菅原道太郎、同石井四郎、同外村徳三、同三島整、同木下仁松、同笹川友之助、同田村辰馬、同矢澤龜吉

▼支廳、出張所 豊榮支廳長藤木虎二郎、大泊支廳長堀安次郎、留多加出張所長加鳥島藏、本斗支廳長長田口稔、真岡支廳長河井智茂、泊居支廳長肥後龍夫、鶴城出張所長小野寺謙一、元泊支廳長大森三之助、敷香支廳長坂本只次

▼樺太廳林務署長 (豊原) 技師齋藤春二 (大泊) 技師三浦義幹 (留多加) 技師中山利郎 (本斗) 技師齋藤浩 (真岡) 技師平賀正巳 (泊居) 技師山岸亮 (豊原) 技師上村政五郎 (元泊) 技師庄司彌彦 (敷香) 技師佐々木文彌 (野頭出張所) 所長藤田萬次郎

▼樺太廳觀測所に各支所長 所長技師重富剛策 (落合支所) 所長技師 加藤英一 (真岡支所) 所長技師山田幸兵衛 (敷香支所) 所長技師中村政太郎 (本斗支所) 所長技師波多野浩 (安別支所) 所長技師村上智夫

▼警察署長 (豊原) 警視栗山松一 (大泊) 警視伊藤英吉 (落合) 警部守屋節夫 (元泊) 警部補安達儀平 (知取) 警部 長谷川四良 (敷香) 警部鈴木長太郎 (留多加) 警部補阿部庄松 (本斗) 警部諸富登 (真岡) 警部増水勘助 (野田) 警部補森平國武 (泊居) 警部高木正一 (豊原) 警視齋藤形至

樺太  
樺太廳中等學校 (大泊中學校) 校長瓜

田友衛 (豊原中學校) 校長上田光義 (真岡中學校) 校長谷内謙 (豊原高等女學校) 校長福山惟吉 (大泊高等女學校) 校長横山賢市 (真岡高等女學校) 校長青木益太郎 (泊居高等女學校) 校長原田康三 (樺太廳拓殖學校) 校長川瀬道二

### 市町村

樺太領有後各地に移住者集団し部落を形成するや、部落民會或は町民會等の團體を組織、總代或は評議員等を選出して部落の公共事務を處理したのが樺太自治の萌芽であるが、明治四十二年廳令を以て部落に部落總代を置き、越えて大正四年六月本島の郡町村編成に關する勅令の公布があり、全管内を十七郡、四町、五十八村に區劃したが、之は單なる地理的區劃に止つた。更に大正十年樺太の地方制度に關する法律が公布され自治の基礎確立し、翌十一年には樺太町村制の施行となり十二年に

は全管内に施行されたが、人口の増加、公共施設の完備と共に漸く市制施行の要望起り、昭和十二年三月法律第一號を以て樺太特別市制が公布され、引き続き附帶法令、廳令の施行を経て同年七月一日豊原市が樺太最初の市として誕生、本島自治體系は茲に内地先進地方の同域に到達するに至つた。管下市町村を列記すると次の通である。

▼市 豊原市  
▼一級町村 落合町、大泊町、留多加町、本斗町、真岡町、野田町、泊居町、恵須取町、塔路町、元泊村、知取町、敷香町  
▼二級町村 豊北村、榮濱村、白織村、千歳村、深海村、長濱村、遠瀬村、富内村、三郷村、能登呂村、内幌村、好仁村、廣地村、關泊村、清水村、小能登呂村、名寄村、久春内村、三濱村、鶴城村、帆寄村、泊岸村、内路村、名好村、知床村  
▼附則第二項の町村 川上村、海馬村、散江村  
(附則第二項の町村とは、自治の發達遅れ人口の微少、町村長は樺太廳の官選たる他町村會議員に代る評議員制度を以て之に當つた所謂舊制度の町村)

### 市町村理事者並に市町村會議員 (十二年十二月末)

◇豊原市 市長高橋彌太郎、助役金子利信、收入役池田喜喜知 (市會議員) 議長四日堂造、副議長杉本孝作、木村政勝、駒村健三、山口淳雄、入江岩吉、須賀清次郎、工藤久五郎、中山清基、佐々木三之助、出口乙吉、黒畑龜太郎、筒井智衛、高橋彌太郎、關捨六、等々力、佐々木慶一郎、太田鎮雄、尾崎與作、氏家政治、作間三男、林春助、田中省三、一柳直一、井坂林平、市川與一郎、水戸部日出吉、加藤清一郎、柳本徳次郎、八卷重郎

◇豊北村 村長大場節太郎、收入役常見庄司 (村會議員) 中井戸芳太郎、吉岡信雄、和田逸郎、金高孫一、安田善次郎、廣瀬國康、藤林交基、川畑勳造、小原等町、田房藏、寺井憲雄、高橋源左衛門

◇川上村 村長明石壽夫、助役千葉多賀治、收入役小林稔 (評議員) 加藤要一郎、北田初藏、北島守衛門、川中頼治、山口百重郎、高橋照太郎、加藤榮藏、本山昂、島崎謙、石山榮吉、川上新之助、今井徳一郎

◇落合町 町長水島興、助役四十堂直次郎、收入役堀原久四郎 (町會議員) 石井幸衛、山口吉藏、岩井康、山口重夫、林長吉、今金四郎、花上孝三、有海松市、河原鐵次、佐野常正、樺原萬次郎、佐藤



與右衛門、鹿野良輔、菊池嘉龜、田村...

榮濱村 村長池野寅次郎、收入役藤...

白縫村 村長和田藤太郎、收入役佐...

大泊町 町長吉川平八、助役高橋安...

千歲村 村長石井德一郎、收入役青...

野田町 町長小野豐實、助役平木時...

清水村 村長舟生秀吉、收入役高橋...

泊居町 町長小原正義、助役大谷武...

久春内村 村長坂本左右吉、收入役...

俊一、本多松次郎、小林勝太郎、富岡彦...

深海村 村長矢口長藏、收入役宇田...

長濱村 村長秋山誠三、收入役松田...

遠淵村 村長會澤武夫、收入役田下...

知床村 村長池田精七郎、收入役齋...

富内村 村長花谷淺次、收入役缺員...

川上良示【村會議員】保知清吉、新妻富...

三濱村 村長深村德、收入役三鹿慶...

鶴城村 村長坂本國治郎、收入役山...

惠須取町 町長稻垣敏夫、助役落合...

名好村 村長菊池憲、收入役與村節...

留多加町 町長戸塚金治郎、助役橋...

三郷村 村長後藤雄之助、收入役佐...

能登呂村 村長菅原省三、收入役本...

本斗町 町長古川重吉、收入役若原...

内幌村 村長種部長藏、收入役菅原...

元泊村 村長成松久次郎、助役土谷...

帆寄村 村長鈴木虎次郎、收入役根...

知取町 町長三宅貞太郎、助役尾張...

敷香町 町長藤田甚三、助役川端操...

藏、常包恒太、菅井理三郎、後藤弘治、...

海馬村 村長島岡共吾【評議員】議...

眞岡町 村長藤田忍、助役小濱嘉七...

廣地村 村長長嶺崇、收入役志村泰...

蘭泊村 村長志藤興、收入役鎌田治...

内路村 村長佐藤寅三、收入役佐藤...

泊岸村 村長山岸清藏、收入役渡邊...

散江村 村長土谷佐一郎、收入役瀧...

塔路町 【町會議員】三上市太郎、森...



財政

樺太廳歲計

樺太廳特別會計歳計は樺太より生ずる収入及び一般會計の補充金を以て充てられ今日に至つて居るが、一般會計補充金は昭和十年度以降森林賣拂収入の増加に伴ふ樺太廳剩餘金の蓄積量増加と共に之を削減され、今日では毎年百萬圓を超える一般會計繰入金を支出して居る状態であり、實質的には一般會計からの補充金は中止と同様な状態にある。樺太廳歳計の變遷は民力の伸張、拓殖の進展に應じ著しい膨脹を來し、特に昭和九年樺太拓殖十五箇年計畫が樹立されて以來同年度に約六百萬圓(拓計費)昭和十三年度に於ては千百萬圓の拓計豫算計上を來し明治四十年度に於ける歳計百七十萬圓に比較して全く今昔の感が深い。昭和元年以降十年間の

歳入歳出の消長を記すと次の通である。
昭和十三年度歳入歳出
歳入 歳出
昭和十三年度歳入歳出
歳入 歳出
昭和十三年度歳入歳出
歳入 歳出

樺太廳十三年度豫算

歳入經常部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部

歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部
歳入臨時部

第二項 事業費
第八款 恩給負擔金
第九款 諸支出金
第十款 國債整理基金特別會計繰入金
第十一款 國債整理基金特別會計繰入金
第十二款 豫備金
第十三款 第二豫備金

第一項 燃料資源調査及開發助成費
第四款 臨時軍事費特別會計繰入金
第一項 臨時軍事費特別會計繰入金
第二項 北支事變特別稅收入繰入金
第五款 市町村財政援助費
第六款 市町村交付金
第七款 北支事變特別稅徵收費
第八款 國民精神總動員諸費

租稅並に稅收

支那事變及び長期戰體制の強化に伴ひ、昭和十二年七月以降樺太に施行された支那事變特別稅並に租稅臨時增收は、増徴所得稅、法人資本稅、新稅、利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅(新稅はいづれも十三年度より實施)の各稅種である。

第一項 香煙土木費
第二項 樺太廳々會新營費
第三項 師範學校新營費
第四項 新營及修繕費
第五項 補助費
第六項 樺太拓殖事業費
第七項 道路開墾費
第八項 鐵道建設費
第九項 鐵道改良費
第十項 港灣修築費
第十一项 船渠修築費
第十二項 河川改修費
第十三項 電信電話擴張及改良費

市街宅地稅
所得稅
營業收益稅
酒造稅
市街宅地稅
所得稅
營業收益稅
酒造稅
市街宅地稅
所得稅
營業收益稅
酒造稅

市町村財政

市町村には、基本財産の見るべきものなく、又稅外收入も極めて微少な爲自治體運営上大部分の市町村は稅收入に依つて居るが、人口の自然膨脹、必要な社會公共施設充實の必然的欲求から何れの市町村に於ても財政的窮乏に苦しんでゐる爲、樺太廳では昭和十二年度から市町村財政交付金制度を設け之を一一般、特別の二制度とし、特別交付金は特別な債務に苦しんでゐる大泊町他の數箇町村に交付した。市町村稅は大體内地市町村と同様で直接國稅に對する附加稅及び特別稅の二種類であり、特別稅は次の通である。
昭和十二年度に於ける各市町村稅收入、稅外收入並に一戸當負擔額は之を省略する。
市町村財政交付金 不安定且基礎薄弱な市町村財政の現状を匡救する目的を以て、樺太廳では昭和十二年度から新に市町村財政調整交付金制度を設け、總額三十萬圓を一般、特別の二交付金に分轄、同年度から直に交付した。配分額査定基準は各市町村の國有林野面積と流水稅を考慮した森林交付金並に財政力のみを標準とした交付金の二つに分類し適正なる交付額の算定に當つたが、十三年度には客觀狀勢の變化及び前年度交付方針の缺陷を訂正し、多少の相違を來すに至つた。十二年度並に十三年一般交付金額及び配分町村は次の通である。



Table with columns for '市町村名' (Municipality Name) and '十二年度' (12th Year) / '十三年度' (13th Year). Lists municipalities like 豊原市, 川上町, etc., with corresponding numerical values.

Table titled '市町村歳入' (Municipality Income) with sub-sections for '市町村歳入(昭和十三年)' and '市町村歳入(昭和十二年)'. Lists municipalities and their respective income figures.

Table titled '市町村税内課' (Municipality Tax Internal Levy) with sub-sections for '市町村税内課(附加税を除く)' and '市町村税内課(附加税を算入)'. Lists municipalities and their tax amounts.

Table titled '市町村税内課' (Municipality Tax Internal Levy) with sub-sections for '市町村税内課(附加税を除く)' and '市町村税内課(附加税を算入)'. Lists municipalities and their tax amounts.

煙草專賣

明治四十三年六月煙草專賣法施行と同時に豊原に函館專賣局出張所を設け、今日では豊原以外に大泊、真岡、泊居、惠須取、知取、敷香の六箇所の販賣所があり、昭和十二年度売上總額は二百六十八萬五千圓に達した。十二年度各販賣所別売上高次の通。

Table titled '販賣所' (Sales Office) with columns for '販賣所' and '売上高' (Sales Amount). Lists sales offices like 大泊, 真岡, etc., with their sales figures.

殖資金の供給は同行の定款に之を規程せぬ爲行はず、越えて明治四十四年同銀行法の改正に依つて樺太を營業區域に加へた。北海道拓殖銀行の他に樺太に本店を有する銀行は樺太銀行(本店大泊町、支店真岡町)があるのみ。尙北門貯蓄銀行が豊原に支店を設けてゐる。北海道拓殖銀行の支店營業所設置箇所は、豊原、大泊、真岡、本斗、野田、泊居、敷香、知取、敷香、網多加、惠須取

と殆ど全島の樞要地全部に互り本島金融とは不可缺の立場を築いてゐる。

に至つた。然も四種事業兼營組合は昭和八年末の十七に比し四十四となり、又組織に於ては保證責任組織の組合が全體の八六%七十二組合を占め、有限責任は九%八組合、無限責任は五%四組合である。昭和十一年末の八十四組合を構成組合員の状況に依り類別すると

銀行

樺太の金融機關は銀行、信用組合、無盡營業、質屋、個人金貸業の他漁業金融機關として樺太共同漁業會社がある。北海道拓殖銀行は樺太領有と同時に政府の命に依り大泊に派出所を設置したが、當時樺太に對する拓殖

殖資金の供給は同行の定款に之を規程せぬ爲行はず、越えて明治四十四年同銀行法の改正に依つて樺太を營業區域に加へた。北海道拓殖銀行の他に樺太に本店を有する銀行は樺太銀行(本店大泊町、支店真岡町)があるのみ。尙北門貯蓄銀行が豊原に支店を設けてゐる。北海道拓殖銀行の支店營業所設置箇所は、豊原、大泊、真岡、本斗、野田、泊居、敷香、知取、敷香、網多加、惠須取

殖資金の供給は同行の定款に之を規程せぬ爲行はず、越えて明治四十四年同銀行法の改正に依つて樺太を營業區域に加へた。北海道拓殖銀行の他に樺太に本店を有する銀行は樺太銀行(本店大泊町、支店真岡町)があるのみ。尙北門貯蓄銀行が豊原に支店を設けてゐる。北海道拓殖銀行の支店營業所設置箇所は、豊原、大泊、真岡、本斗、野田、泊居、敷香、知取、敷香、網多加、惠須取

殖資金の供給は同行の定款に之を規程せぬ爲行はず、越えて明治四十四年同銀行法の改正に依つて樺太を營業區域に加へた。北海道拓殖銀行の他に樺太に本店を有する銀行は樺太銀行(本店大泊町、支店真岡町)があるのみ。尙北門貯蓄銀行が豊原に支店を設けてゐる。北海道拓殖銀行の支店營業所設置箇所は、豊原、大泊、真岡、本斗、野田、泊居、敷香、知取、敷香、網多加、惠須取



市街 三三三 三三三 三三三  
特費 三三三 三三三 三三三  
計 三三三 三三三 三三三

▲運轉資金 昭和六年末二百九十六萬圓に達したが、昭和十一年末には五百七十六萬圓と言ふ高額に上り、その構成は貯金二百七十三萬餘圓(四七%)、繰込出資金百七十九萬餘圓(三一%)、借入金七十六萬餘圓(一三%)、積立金四十六萬餘圓(八%)となつて居る。一組合當運轉資金總額は九萬二千八百二十二圓、貯金は五萬六千四百二十二圓であつて、之を昭和十年全國統計に依る一組合當運轉資金十六萬一千圓、貯金十一萬四千圓に比較すると未だ遙かに及ばずと雖も、過渡期的本島の特種事情、即ち組合事業が組合員の經濟生活に徹底せぬ體左であると言へる。又職業別組合員の出資金狀況は總額二百七十四萬四千圓に對し、商工業者百二萬二千六百五十五圓(四七%)、公務員者百四十五萬六千六百圓(一八%)、農業者三十四萬三千圓(一六%)であつて、

▲借入金 七十六萬八千四百圓の内、聯合會からの借入金は七十四萬五千圓を占めて居る。  
▲剩餘金 は十四萬三千四百六十一圓で、一組合當千九百六十五圓となつて居る。

次に市街地組合の總運轉資金は全運轉資金の七割九分たる四百五十七萬三千五百八十六圓を占めるに反し、農村組合其他の總資金は僅かに百十八萬七千七百七十圓に過ぎず、市街地組合の四分の一に過ぎぬ事は樺太に於ける産業組合運動の過渡的特殊性を物語つてゐると言へる。

農村金融問題と産業組合の動向

昭和十三年になつてから農村金融問題が再検討の機運に置かれ、之に伴ひ産業組合の動向も自ら注目されて居る。農村發達の進歩として進まぬのは農村金融が充分で無いからであると言ふ意見の下に産業組合資金を之に貸出し長期に亙る低利資金の融資が考へられて居る。此の結果として現在地方課にある産業組合を殖産部に移し經濟更正課の新設を企てんとする計畫が、農務課内に産業組合を置かんとする計畫があるが、根本問題たる農村金融の對策、即ち産業組合資金の對象となるものに現在何が有るかと言ふ點に至つて指導當局側では尠からず困惑した農村の生産施設に對しては例年樺太廳から相當額の補助金、助成金が交付され、今後は農産加工場の施設等が取上げられて居るが、之も樺太廳から補助があり強

ひて産業組合から積極的に乗出す程のものでは無い。従つて農村が金融難に困つて居ると言ふのは金融の對象となる適種農業が充分で無く、然も之に道がつけられて居ない事に因る譯で、樺太信販協利聯合會(樺聯)並に樺太産産協利聯合會(樺産)並に樺太産産協利聯合會(樺産)の如何を云々するよりも先づ農民の全戸が産業組合に加入すべきであるとし、昭和十三年から樹立實行に移した。第二次産産協利三箇年計畫に於ては之を最大の目標として居るのは賢明な策である。十三年現在全農家一萬三千の内産産加入者は約四割である。

◆産業組合團體 樺太信販協利聯合會(樺太廳内) 樺太産産協利聯合會(樺太廳内) 樺太産産協利聯合會(樺太廳内) 樺太産産協利聯合會(樺太廳内)

無盡會社 無盡會社は昭和五年十一月勅令第二一〇號を以て無盡業法が施行され、一時四十有餘の業者を算へ競争猛烈を極めた業界も一支配管内一會社に統制されるに至つた。

無盡會社名 會社 所在 資本金 繰込金 株式會社 豊原市 三〇〇,〇〇〇 八六,〇〇〇 大泊無盡 大泊町 五〇,〇〇〇 五,〇〇〇 株式會社

樺太貯蓄無盡株式會社 留多加 五〇,〇〇〇 三,〇〇〇 本斗無盡株式會社 本斗町 五〇,〇〇〇 六,〇〇〇 樺太相互無盡株式會社 真岡町 五〇,〇〇〇 一五,〇〇〇 泊居無盡株式會社 泊居町 五〇,〇〇〇 三,〇〇〇 數香無盡株式會社 數香町 五〇,〇〇〇 三,〇〇〇 計 三〇七,〇〇〇 三三,〇〇〇

公益質屋 (十三年九月) 豊原、大泊、知取、數香、惠須取の各市町村經營五箇所。

私營質屋 (十一年末) 全島で總數八十七、各地の庶民金融機關として利用せらる。

商 業

人口の増加、拓殖の進展に伴ひ商業も漸時健全なる發達をとりげて來た。即ち豊原市は樺太の政治、文化、交通の中心地として、又大泊は樺太の關門物資の吞吐港として、更に真岡は西海岸經濟界の中樞地として何れも順調なる成育をとげ、最近では

敷香、惠須取の兩町、塔路、名好など地方に於ける特殊な産業の發達と併行して商業の振興を見てゐる。然し之は部分的局部的な表面の一斷層であつて、大部分の市街地は林業の勃興、水産業の發達につれて興隆した市街地であり、従つて林水産業の變遷と軌を同じうして興亡の岐路を歩む運命に置かれて居る。

王子製紙工場所在地にあつては工場従業員が絶對的な對象となり、漁業地にあつては漁業界の趨勢がその地方の經濟界に靦面に影響を與へる等、單一なる産業を對象として成育する商業界の脆弱性を如何なく暴露してゐる。樺太廳では斯かる商業界の實情に鑑み、此の根本原因及び實相の把握に當る爲、昭和十二年一月以降島内主要地の商工會議所、商工會に依頼して商業實態調査を實施した。次に商業實態調査の結論を記述すると

商業實態調査結論

商業調査業所數三千九百九十七戸之を組織別にすれば個人營業が九割六分に相當し、法人は其の残りとなつて居る。之を業態別に見ると小賣業者が全體の五五%に上り、これに卸小賣業、製造小賣業を加へると小賣業に従事するもの、數は實に全營業所の九割六分に當る。尙此の九割六分の小賣業所を調査區域内の世帯數に比すれば一營業所に對し九・七戸となり、概觀的に業者數の多き事が窺はれる。

又調査業所に投下された資本總額は二千九百六十二萬九千八百七十六圓で、運轉資金は千九百六十六萬四千六百四十三圓(六四・七%)、固定資本は千四百六十六萬五千二百三十三圓(三五・三%)となり、一營業所當資本總額七千四百十三圓であつて、資本階級は二千圓以上五千圓迄のもの、全體の約八割を占め、殘餘の内五千圓以上一萬圓迄の者一割を入れ、は所謂小商業者の階級に屬するもの全體の九割で、あとの一割が中商業者と謂ふべく、大商業者と云ひ得るものは僅か五十萬圓以上のもの一軒である。

仕入販賣では仕入が四千六百九十九萬八千五百四十四圓で、販賣は五千七百八十二萬八千八百七十四圓、その差千六百六十三萬三千三十圓が買差益益金で、その中營業費の八百三十一萬九千九百十三圓を差引は純利益金は三百三十一萬八千四百十

七圓となつて、販賣額に對する利益率は五分七厘、一營業所當純利益金八百三十圓となつて居る。而して業態別一營業所當を見れば、卸賣業では、九七三圓、卸小賣業一、八九二圓、小賣業五四三圓、製造小賣業七九一圓となつて居るが、營業費中には家族従業員が含まれず、營業者はこの利益によつて生活するものであることを考慮すればその經營の困難さが窺はれる。而してこれを賣差益益率と云ふに對し、卸賣業に對し卸賣業は一割七分、卸小賣業は一割四分、小賣業は二割、製造小賣業は四割七分となつて居るが、小賣業及び製造小賣業が高率を示して居るが、他面營業費に於ては卸賣業及び小賣業共に一割七分、卸小賣業一割、製造小賣業三割三分で小賣業及び製造小賣業の營業費が多い。従つて小賣業及び製造小賣業では買差益益率の高率なるに不拘、純利益の少いことを物語つて居る。

仕入及び販賣の方法、仕入代金の決済、販賣代金の回収では、仕入は内地仕入が全體の六割三分で、仕入先は卸賣業のもの七割である。販賣方法は店頭賣が五割で、御用賣が二割となつて居る。仕入代金の決済は現金が五割四分、掛仕入が四割六分となり、販賣代金の回収は現金賣四割、掛賣五割九分であつて、仕入と販賣が相々反對を示し現金仕入で掛賣を爲す不合理を示して居る。

尙商品回轉平均が四・六回、運轉資本回轉平均は三回で、平均手持平均商品高は一〇、二八、七三二圓であつて、一營業所當一、五三四圓となつて居る。營業費の内訳としては賃銀及び給料が二九・九%、運賃が一・九%、點檢動力娯樂費の一〇・一%、租税及び公課の九・二%が主なるもので全體の六割を占めて居る。又従業員は一營業所當三・一人を算し、概ね二〇歳以上の男子である。

即ち仕入と販賣の積極的改善、合理的經營による營業費の減減を期するの要あることを物語るものである。金融では借入金をも有する營業所數二、〇〇〇、借入額六、八七〇、五八七圓にして資本總額に對し二割三分を示し、それを業態別にすれば小賣業は五六・七%、卸小賣業では四〇・二%、卸賣業では三〇・三%、製造小賣業の一七・一%を示し、借入先は間接が全體の五割、銀行が一割五分、個人が一割四分、信用組合が一割一分となつて居る。小賣業が資本の約五割六分を借入金に求め、その大部分が間接と個人よりのものである點より觀ても相當不利なる状態に置かれて居る。即ち全業態を通じて經營上不利と認めらる。兩借入先よりの借入金額四、四六〇、〇〇〇圓の有利なる借入機關への轉換、其の他經營の向上を圖る爲の積極的資金の借入困難等を考慮すれば、本島商業者の信用力脆弱にその一因を有するものと雖も、兎に角中小商業者の金融難が推察される。



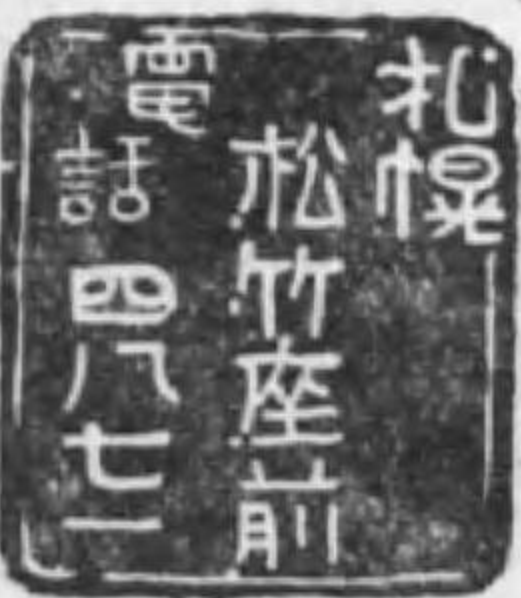
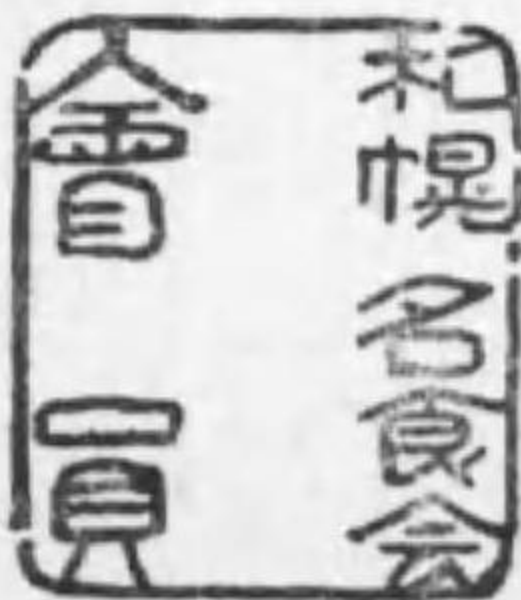


# 鮭

江戸揚げ

# 天

天ぷら



### 商工會議所 (参照三二二頁)

設立年月日  
 豊原商工會議所 大正二、三、二〇  
 大泊商工會議所 一一、九、一八  
 真岡商工會議所 一一、二、二六  
 蕨商工會議所 昭和一三、八、  
 知取商工會議所 五、二、二〇  
 △商工會 落合、敷香、留多加、内帆野田、木斗、泊居  
 樽太廳では現在の處何等法的根據を持たず有名無實的存在にある商工會を合法化し、機能の促進をはかるため商工會規則を立案中であり、十三年末には公布の見込である。規則内容は北海道に準じてゐる。

### 商工會議所役員

(昭和十二年十月現在)  
 ◇大泊商工會議所 會頭大野順末 副會頭藤川良造(常議員) 梶栗太郎、谷村彌作、鹽田源治、大橋政、白岩忠二、田邊庄次郎、片川與三郎、堂前外吉、米倉友治(理事) 小原正義  
 ◇真岡商工會議所 會頭大橋徳太郎、副會頭島田久四郎(常議員) 川島哲太郎、西川泰吉、合田亮三、江端駒吉、木谷留次郎、茶木竹太郎、高森末吉(理

### 事) 平本時助

◇豊原商工會議所 會頭小林隆平 副會頭太田碩雄(常議員) 鈴木莊治、澤太治郎、生駒猛、前川安太郎、出口乙吉、小田島末藏、荒谷又與門、肥田常三郎、(理事) 内山四男也  
 ◇知取商工會議所 會頭吉川繁太郎、副會頭稻原秀行(常議員) 五十嵐哲四郎、藤塚永吉、細坪久一、柳原三藏、百目木智謙、三浦龜男、澤勘右衛門、秋山五郎(理事) 加藤喜三郎

### 會社分布

(十二年三月末)

會社數	資本金又 は出資額	積立金
總數	一、五〇三、七〇〇	八、三〇一、三三三
豊原	一、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
大泊	二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
留多加	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
本斗	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
真岡	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
泊居	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
鶴城	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
元泊	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
敷香	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇

註 △印は島外に本店を有するもの、尚銀行を含まず

### 營業別會社數

(十二年三月末)

總數	株式會社	公稱資本金
總數	一、五〇三	八、三〇一、三三三
株式會社	一、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
公稱資本金	一、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇

### 株式會社

▲株式會社 島外に本店を有するもの一五、島内に本店を有するもの三六三、この公稱資本金又は出資額は  
 島外 四〇三、七四〇、〇〇〇  
 島内 八七、〇二一、七五〇  
 島内 八〇、三〇一、二二二  
 島内 八七、四、七八八  
 尚各支店別株式會社數を見ると次の通り。(何れも十二年三月末)

### 株式會社地方別狀況

會社數	公稱資本金	拂込資本金	積立金
總數	一、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	八、三〇一、三三三
豊原	一、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
大泊	一〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
留多加	一〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
本斗	一〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
真岡	一〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
泊居	一〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
鶴城	一〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
元泊	一〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
敷香	一〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇



産業

Table with columns: 榎太, 合資會社, 社數, 出資額, 積立金. Rows include 總數, 大泊, 留多加, 本斗, 真岡, 泊居, 元泊, 歌香.

榎太の産業は豊かな天然資源を擁する反面、氣候風土に恵まれぬ結果水産業、林業、鑛業、バルブ産業等所謂掠奪産業の著しい發達を招來したが、農畜産業の開發遅々として進まず、領有三十餘年を閱する今日に於て尙跛行的産業たるの觀を呈してゐることは、過去に於ける爲政者の農業振興に對する關心の稀薄度が今日の缺陷を招いたものとして痛嘆される譯だ。昭和十一年度に於ける全島の生産總額は約一億二千萬圓であるが、此の内農畜生産生産總額は僅々一千萬圓内外に過ぎず、以てその微小なるを知るべきである。然しながら榎太の産業は北海道とも内地各府縣とも客觀性に於て根本的な相違を持ち、その開發利用は第三者の考へる程容易なものであり得ない。農業に於て

は特に此の感が深く、廣漠たる泥炭土壤地帯或は凍土地帯に日本人としては前人未踏たる亞寒帶農業克服の宿題を實現するに於て至難きは想像に難からぬ所であるが、亞寒帶産業克服の命題は延いては大陸進出に對する我が國民の産業經營の基礎的觀念ともなり得る所に大きな意義と將來性を感じさせてゐる。支那事變發生以來未曾有の難局を突破する爲、政府は生産力の擴充に向つて全力をあげ物心の資源を動員してゐる。旺盛なる軍需を全からしめん爲民間に於ける重要物資の使用は極限まで制限される事となる。榎太の産業も亦此の方向に軌を一にして進み、所謂燃料國策の遂行に向つてその有する豊富な石炭資源地を動員し、石油田の開發に當り、バルブ需給調整の爲増産計畫を實行せしめる他、戰爭の目的遂行に必要な資源地を最高度まで利用し供給に邁進してゐる。從

つて時局産業の必然的な發達を來す一方には、勞力の偏在から平和産業の萎縮も杞憂される爲、榎太廳では此の相剋摩擦を排する爲の方策に就き研究中と云はれ、時局對策委員會の如きも斯うした點を中心に審議する豫定であると云ふが、又昭和九年時の長官今村武志氏に依つて樹立された榎太拓殖十五箇年計畫も當然更改される運命に置かれるに至つた。榎太の産業を概観すると

一 産業試験

榎太廳中央試験所 榎太に於ける自然科學の殿堂として昭和四年獨立した榎太廳中央試験所の果しつゝある研究業績は貴重である。現在の組織は農業、畜産、林業、水産並に昭和十二年新設された化學工業の五部と庶務課に分れて居るが、此の内西海岸蘭泊に水産部が分離し、宇達泊に農事支所、惠須取に支所があり、夫々地方の氣候、環境、地質に應じた研究調査試験を實施してゐる。

石炭、甜菜並に局部的な水産物加工を除いては從來之に對する經濟厚生の方途は餘り顧みられぬ實情に置かれて居る。又他面勞力の拂底を如何にして緩和すべきかの問題を遙して動力の研究が行はれなければならぬ。即ち榎太に於ける動力用電氣は全國的な最高率を示して居る事であつて、此の點が各種産業の隆昌に如何に影響して居るかが判る。

生産總額

Table with columns: 昭和十一年, 昭和十年. Rows include 總額, 農産, 畜産, 水産, 林産, 工業.

榎太廳鋼鐵統制委員會

△委員長 (內務部長) 式藤公平 (殖産部長) △委員 (交通部長) 伊藤正良 (警察部長) 中村廣祐 (交通部長) 伊藤正良 (警察部長) 白井八州雄 (王子會社理事) 山内幾馬 (榎太製鐵常務) 久保田富三 (榎太製鐵理事) 渡部孝一 (榎太製鐵副會長) 遠藤實 (榎太日新製鐵社長) 太田領雄 (豐原市長) 高橋源太郎 (農商會頭) 小林隆平 (大商會頭) 大野順水 (農商會頭) 大橋徳太郎 (知商會頭) 秋山五郎 (榎太食品市場協會長) 安藤五右衛門 △幹事 (事務官) 北村得三、櫻村晴彦、野口俊一、矢尾坂半三郎、齋藤孝一 △書記 (屬) 菊地高志、齋藤孝平、高木實、伊藤勝彌、藤森國雄 (警務補) 大浦了作 (中央試驗所書記) 安田善次郎

△委員長 (內務部長) 式藤公平 △委員 (交通部長) 伊藤正良 (殖産部長) 中村廣祐 (警察部長) 白井八州男 (地方課長) 北村得三 (林務課長) 尾澤清太郎 (運輸課長) 長野真示 (調査課長) 矢尾坂半三郎 (保安課長) 河部宗一 (運輸課長) 可野信一 (土木課長) 奈良部無松 (水産課長) 村井正雄 (鐵道課長) 島田毅一 (南樺鐵道) 杉本孝作 (重運課長) 矢後次郎 (留多加自動車) 津内源治 (本斗自動車) 高田文太郎 (真岡自動車) 江崎助吉 (榎太中央自動車) 新妻富次郎 (惠須取自動車) 佐々木時造 (榎太自動車) 藤藤三代吉 (農協協同) 菅内功在 (門切) 井坂林平、佐藤誠、岡崎源助 (數香トラック) 山際誠 (大泊商會) 岡村梅造 (本斗町商會) 土門爲次郎 (惠須取商會) 松本善作 (數香商會) 園政吉 (榎太鑛業會) 渡部孝一 (製材業) 磯子田伊作、佐々木金次郎、菅野友利、村上鶴仙 (産田商會) 田産助 (畑木商會) 木谷常太郎 (數香製業) 鶴澤好郎 (五共商會) 藤藤文雄、能登勝正 (日石) 野澤新一郎 (大野商會) 大野順水 (ライジンクサン) 大橋徳太郎 (小倉) 三谷義治 △幹事 (事務官) 矢尾坂半三郎 (警務) 河部宗一 △書記 (屬) 菊地高志 (技手) 高橋柳助 (技手) 齋藤部 近田政義

榎太物價委員會 戰時經濟下に於ける物價の適正なる價格を維持する爲、榎太廳では物價委員會を組織し全島物價の公定に當らしむる事になつたが、委員會規程に依る専門委員及び各地方毎に物價調査員を任命し、地方の物價協定及び公定價格の査

定に遺憾なき手配を講ずる事になつてゐる。物價委員次の通。 △會長 (長官) △委員 (內務部長) 式藤公平 (殖産部長) 中村廣祐 (交通部長) 伊藤正良 (警察部長) 白井八州雄 (王子會社理事) 山内幾馬 (榎太製鐵常務) 久保田富三 (榎太製鐵理事) 渡部孝一 (榎太製鐵副會長) 遠藤實 (榎太日新製鐵社長) 太田領雄 (豐原市長) 高橋源太郎 (農商會頭) 小林隆平 (大商會頭) 大野順水 (農商會頭) 大橋徳太郎 (知商會頭) 秋山五郎 (榎太食品市場協會長) 安藤五右衛門 △幹事 (事務官) 北村得三、櫻村晴彦、野口俊一、矢尾坂半三郎、齋藤孝一 △書記 (屬) 菊地高志、齋藤孝平、高木實、伊藤勝彌、藤森國雄 (警務補) 大浦了作 (中央試驗所書記) 安田善次郎

榎太廳中央試験所 榎太に於ける自然科學の殿堂として昭和四年獨立した榎太廳中央試験所の果しつゝある研究業績は貴重である。現在の組織は農業、畜産、林業、水産並に昭和十二年新設された化學工業の五部と庶務課に分れて居るが、此の内西海岸蘭泊に水産部が分離し、宇達泊に農事支所、惠須取に支所があり、夫々地方の氣候、環境、地質に應じた研究調査試験を實施してゐる。

農業部は第一、第二、第三、第四の四科に分れ、第一科は種籾及び農作物の病關する研究部門で、第二科は農作物の病害、密蝨、有用野草及び雑草等に関する研究を行ひ、第三科は農業の化學的研究部門で土壤、肥料等を調査研究し、第四科は糧造に関する事項を調査して居る。畜産部は第一、第二、第三の三科に分れ、その事業の分掌は第一科が牛馬養殖改良飼養管理及び衛生、生産物處理、種牡牛馬の貸付、種付飼料作物の耕作及び經營を掌り、第二科は主として豚、鶏、羊、家兔、養蠶其の他の毛皮動物及び家禽の



畜産改良飼養及び衛生に關する事項は、生産物に關する事項等を擔當す。第三科は家畜、家禽の飼養及び畜産物の化學的研究及び加工利用畜産製品の改良等に關する事項。

林業部は第一科より三科に分れ、第一科は森林育成に關する研究、第二科は木材の物理的、機械的及び化學的性質を究明し、林木の利用加工法を講究する。他樹脂、針葉油又はタンニンの採取抽出、製炭、食用菌の培養等専ら森林副産物の利用法に對する研究試験を擔當し、第三科は森林施業法、林木成長材積査定等を受持つて居る。

水産部は四科に分れ、第一科は淡水水棲生物の形態、海洋漁場、湖沼等に關する調査、第二科は漁法、漁具、漁船の調査研究及び水産習生の養成、第三科は水産物の化學的研究、同加工利用、水産製品の改良並に水産に關する物料の分析鑑定に關する事項を、更に第四科は淡水水棲生物の増殖保護及び種卵の配布に關する事項。

化學工業部は化學工業の各種部門に互に資源の開拓とその利用厚生に對し具體的の研究目標を定め、試験に向つて著々準備を進めて居るから、近くその試験研究の片鱗が表れるものと期待される。

一農 業

樺太は我が國唯一の亞寒帯に

屬して居る關係上、凡ての産業が内地とは根本的に相違し、従つて樺太独自の立場から産業の創造に努力しなければならぬ環境に置かれて居る。殊に農業は全く前人未踏の境地を行くものであるだけ適作物の發見は難色を極めるのは當然であつて、三十年の農業史を持つ今日、農業戸數僅々一萬戸内外に過ぎない状況を見てもその困難の程が偲ばれる譯である。過去二十数年間に互つて樺太廳が農業移民として入地せしめた數は實に四萬戸に達してゐるが、之と比較すると僅か歩止り二割五分(實質的に一割五分内外)と云ふ貧弱さである。適作物として今日奨勵されてゐるのは含水炭素即ち砂糖、澱粉、纖維等の生産で、甜菜、亞麻、馬鈴薯、麥酒用大麥、麵粉用小麥、ライ麥等であつて、何れも有畜農業を基調とした輪作の奨勵が行はれてゐる。

Table with columns for '支應別主要農産物生産額 (十一年度)', '農家戸數 (十二年末)', and '市支應別 總戸數 農業戸數'. Lists various agricultural products and their values.

Table with columns for '主要農産物生産高 (十一年度)', '作物', and '作付面積 價 格'. Lists crops like wheat, rice, etc., and their production and prices.

Table titled '米移入數量 (昭和十二年)' showing monthly rice import quantities and amounts.

Table titled '二畜 産' showing monthly production of various livestock products like milk, wool, etc.

本島農業の基調が有畜農業と決定して以來樺太廳では乳牛の飼養と馬産の奨勵に乗出し、特に本島の地質上粗放經營の建前から産馬に對しては最近ではあ

るが昭和九年より十五年計畫三萬頭を目標に島外産馬の購入、優良馬の島内買上或は補助購入馬の斡旋などに努力してゐるが昭和十二年度以來島外馬匹商の手によつて移出されたもの實に千頭を越える状態であり、加ふるに養狐飼料として年々八百頭内外が屠殺される爲、芳しい成績をあげ得ない實情であるが、樺太の産馬が耐寒性に富み鞍馬としての性能に優れて居る事は、農林省はじめ陸軍省でも推稱して居る所であり、支那事變に於ては一躍産馬界の寵兒とすらなるに至つた。従つて農林省の馬産計畫に準じ樺太産馬十五箇年計畫も昭和十四年から改訂され、又種畜場の設置も計畫されるなど、時局の要望に乗つて馬産界に黎明期が訪れたのである。

Table titled '畜産物生産額 (昭和十一年)' showing production values for various livestock products.

Table titled '家畜飼養戸數及頭數 (昭和十一年末)' showing the number of households and headcount for various livestock.



一林産二

明治三十八年樺太が邦領に復歸してから専門の學者、技術者に依りて實地に林相の調査を行ふ他、過去の施設を調査研究して本島林政の方針を決定した。樺太の森林は總べて天然林であつて樹種約百二十二種と稱されて居るが此の内利用價値の高いのはトド、エゾ松、グイマツ、イチイ、シラカバ、ドロヤナギ、ハンノキ、タモ等、然もその分布は殆ど一定してゐる。蝦夷松は全島に分布し總蓄積量約六億(昭和十三年)と稱され全島森林蓄積量の八割を占めて居ると共に、森林面積は又全島の總面積の約八割に達し國有林野から生ずる森林収入は最近に於ける市況の好轉、木代金の昂騰に伴ひ二千萬圓を超える有様を示し、實に樺太歳入の五割に垂んとする膨大なものと化し本島財政の最重要なる財源となつた。

大學演習林 は大正三年四月小田寒川流域に東京帝大が二萬ヘクタールの地域を設定したのをはじめ北海道、九州、京都の各大學が夫々設定し現在の蓄積量は針葉樹千四百五十五萬九千七百立方米、闊葉樹七十七萬三千立方米と稱されてゐる。設定箇所及び設定年月日は次の通り。

Table with 4 columns: University, Location, Area (ha), and Date. Lists various universities and their designated forest areas in Hokkaido, including Tohoku University, Keio University, and others.

バルブ資材並に年利材

昭和十二年度に於ける王子、人絹資材並に各個人年期の島外移出材積は次の通りである。(單位石)

Table with 2 columns: Material Type and Quantity. Lists quantities for items like '島外移出材' and '王子製紙'.

造林面積

(昭和十二年度)

Table with 2 columns: Location and Area (ha). Lists造林面積 for various locations like 林務署, 新植, etc.

山火發生數並に焼失面積、消防出動人員

(昭和十二年度)

Table with 2 columns: Location and Statistics. Shows fire statistics for various locations like 林務署, 回數, etc.

尙昭和十三年に入つてから發生した山火は諸津、北小澤をはじめ、泊居管内智來、苦虫、北泊帆、名寄の山火など何年に於ける事の出來ぬ猛烈さを極めたものであつたが、此の原因は領有以來二度目と言はれる乾燥と好天續きに依るものであつて、原因は前年度同様汽車の煤煙が大部分を占めて居る。發生地別に記すと次の通り。

Table with 2 columns: Location and Statistics. Shows fire statistics for specific locations like 智來, 苦虫, etc.

人出稼漁夫の嚆矢と言はれてゐる。明治三十八年領有以來の漁業制度は主要魚族たる鯨、鮭、鱈の魚利を保護する爲建網制度を採用し、領有前の邦人漁業家の經營した漁場は當該漁業家に優先的な免許を行ひ、其の他は競争入札によつたが、明治四十四年各地に漁業組合を組織させ組合に鯨、鮭、鱈の建網漁業を許可し、越えて大正四年漁業組合地先内に於ける鯨刺網、鮭刺網、網を行ひ得る事になつた。鯨、鮭、鱈以外の漁業に就いては今日各支廳長の權限に屬する許可漁業と、長官の裁決に依る免許漁業とに分れてゐる。爾來水産行政の分野は地方行政中に於て最も難澁を極め、従つて漁業制度等も今日まで幾變遷を重ねたが昭和十二年實施された漁業法並に施行令の改正、廳令漁業取締規則の改正は、漸く本島水産業界に統制ある指導精神を吹込んだものと云へる。

Table with 2 columns: Location and Statistics. Shows statistics for various locations like 厚内, 大取, etc.

一水産二

樺太の漁業が何時頃か日本に經營されたかと言ふ事は明らかでないが、寶曆元年松前藩主が家臣加藤喜兵衛に命じて樺太の漁場を調査せしめ、翌二年藩自らクシユンコタン他二箇所で漁場を開いたが、その頃から漁場發見の爲來島する者續出し寛政七年伊藤林右衛門、柄原小右衛門が漁場請負人となつて遠淵に來り漁業を開始したのを邦

樺太廳では數年前から魚利の恒久的維持と漁業者の利益増進を計る兩立的立場から、蟹類事業の合同を惣體して西の統制權を握る樺太水産株式會社、東の統制權を握る樺太漁業株式會社を昭和十一年成立させた。全島の漁業組合に對する金融救済會社として新設した樺太共同漁業株式會社が、昭和九年以降の國內不漁に依つて受けた經濟的打撃(資本の固定三百三十萬圓)を救ふ爲、樺太漁業組合聯合會を組織せしめ、之に年々十萬餘圓の經濟補助を支出して居る。尙最近内地水産資本の樺太投資は日覺しく日本水産が大泊、真岡に出張所を設け(昭和十二年)日本油脂が同じく真岡に出張所を新設して樺太水産物の統制に觸手を延ばす等注目される推移を示して居るが事業の發生以來國家的にも樺太漁業界の持つ位置は極めて重要なものとなつた譯であり、遠からず全國的にも對外的にも躍進の來るべきを豫想される。

昭和十二年度の漁業狀況は鯨が僅か九萬石程度の漁獲に過ぎず、頗る悲觀的條件の内にスタートを切つたが、北海道の鯨因漁も影響する製品の高値は、漁獲高少い割に生産高の向上を來し、加ふるに鯨の好漁は前年度

水産物生産總額

Table with 2 columns: Location and Statistics. Shows water product production totals for various locations like 厚内, 大取, etc.









至味香牛戸神

# 味のちよん



7 海藻 昆布、銀杏草、サルメシ、海

8 油脂 魚油、肝油、海鯨油

9 雑貨 タラバ蟹、油蟹、花咲蟹、毛蟹、ズワイ蟹、鱈、鯉、北寄貝、帆立貝、白魚、雲母又は割の水煮及び鱈、鱈、鱈、海鰻、雲丹、鯉又は鱈の味付、鯉又は鱈の「トマト」漬、鯉又は鱈の油漬

10 寒天

### 支應出張所別検査数量

支應出張所	検査数量
大泊	三、五、八、一
留多加	一〇、五、五、九
本斗	三、三、三、三
真岡	四、三、〇、八
泊居	七、九、八、九
城	五、九、七、三

### 昭和十三年度春鯨漁獲

昭和十三年度春鯨は前年度の總漁獲九萬四千九百石に比較し五千二百八十八石の減少たる八萬九千六百十二石と言ふ領有以來の不漁に終り、然もこの漁獲は大半が西海岸真岡沿岸である爲魚利の均霑を缺き地方漁業經

樺太

済界に對からぬ打撃を及ぼした。各郡別定置漁獲高(括弧内は専用)を示すと次の通である。

支應出張所	全島行數	水産業行數
市支應	六、三、三、九	五、七、〇、三
支應市	七、六、四	三、〇
支應市	五、五、五	一、〇、九
支應市	八、三、八	四、五
支應市	三、七、八	一、六、六
支應市	四、八、六	一、〇、九
支應市	四、六、七	三、〇
支應市	八、八、〇	三、七
支應市	五、〇、八	八、六
支應市	三、〇、三	三、〇

### 水産業戸數 (十二年末)

支應出張所	全島行數	水産業行數
市支應	六、三、三、九	五、七、〇、三
支應市	七、六、四	三、〇
支應市	五、五、五	一、〇、九
支應市	八、三、八	四、五
支應市	三、七、八	一、六、六
支應市	四、八、六	一、〇、九
支應市	四、六、七	三、〇
支應市	八、八、〇	三、七
支應市	五、〇、八	八、六
支應市	三、〇、三	三、〇

### 一 鑛 業 二

樺太の鑛業は石炭を王座とし之に次いで石油、金、銀等硫化鐵鑛並に含礫鑛、クローム鐵鑛などが存在するが鑛床の開発は充分と言へず、樺太廳では昭和九年以來全島に亘る油田調査を東大の上床博士を主査とする調査隊に依頼し、三箇年繼續で之を完成した他、昭和十三年から五箇年計畫で石炭鑛床並に東海岸金鑛鑛床の調査に着手し、時局の要望に副つて地下資源の開発に努めて居る他、數年前から繼續して來た西海岸油田の試錐も日石に補助して今後も引き続き實施し、帝國の國策線に沿つて善處してゐるが、樺太の鑛物資源の開発を合理的ならしめる爲昭和十三年重要鑛物増産法を施行すると共に石油資源開發法も公布した。樺太に於ける特殊鑛務行政として封鎖炭田制度がある。之は南部、中部、北部の三つに分れ、各地の石炭鑛床を一

般に解放したるほか此の三地帯を特殊區域として設定、石炭資源の保護と將來の發達に備へて封鎖したものがあるが、南部封鎖炭田では内幌附近、中部では川上、北部では内川の三箇所が今日部分的に開封されてゐる。各鑛業別に概説すると次の通である。

▽石炭 時局産業物興の波に乗つて日豊しい發達をとげたのが石炭である。昭和九年度に於て新しく全島の出炭高百萬噸を突破したに過ぎなかつた本島炭鑛界が十年以降の躍進よりは更に速い勢であつて、僅々四年目の十三年度には昭和十年生産高の五倍を超える豫定である。炭田の主なるものは前記した南中北の三封鎖炭田以外に恵取、西陽丹、東海岸等が主要鑛床であるが、西海岸炭田は炭質比較的良好で厚さも又七百米をくだらぬとされてゐる。東海岸は白濁から固境まで及び特別、東田其の他中知床半島に連なつてゐるが炭質は西海岸に比較して幾分低下してゐる。

炭田名稱	水準上	水準下
炭田名稱	八六、〇〇〇	一、七、〇、〇〇〇
中央封鎖炭田	八六、〇〇〇	一、七、〇、〇〇〇











巧妙若しくは惨虐兇暴を極めて  
あるが、その類別を挙げると左  
の如くである。

犯罪發生並に檢舉件數

(括弧内は檢舉數)(十二年度)

公務執行妨害(一)犯人藏匿証憑滅失二  
(一)放火、失火一八五(一八〇)往來妨害  
(一)住居侵入一五一(一五五)秘密に關  
する罪八(八)文書偽造一三三(一三三)有  
價証券偽造一三三(一三三)印章偽造六六(六六)誣  
告六六(六六)強姦淫褻重婚三七(三七)普通賭博  
三四八(三四八)常習賭博一九(一九)禮拜  
所及び墳墓四(四)殺人罪六六(六六)殺人未遂  
一六(一六)傷害二八八(二八八)傷害致死  
八(八)單純暴行三三(三三)過失傷害二  
過失致死一一(一一)業務上過失傷害四四  
(四四)同過失致死三三(三三)逮捕及び監  
禁二(二)脅迫一五(一五)略取及び誘拐二  
(二)名譽に對する罪一一(一一)信用及び  
業務に對する罪九(九)竊盜一、九一五(一、  
七二〇)強盜二(二)強盜殺人三(三)強盜  
傷人二(二)詐欺一一、九二二(一一、九二二)背  
任三三(三三)恐喝一一(一一)横領三三(三三)二  
六(二六)業務上横領二九(二九)其他の  
横領二五(二五)贓物一七六(一七六)毀棄  
及び隱匿一七(一七)計五、九九九(五、七  
九二)特別法犯(罰金上)二、三〇〇(二、三〇〇)  
廳令違反(罰金上)五二五(五二五)警察犯  
處罰令内務省令七八九(七八九)廳令一

五二(五二)其他規則違反一、七五〇  
(一、七五〇)計三、四四六(三、四三九)合  
計九、四四五(九、三三〇)

各警察署別犯罪發生並に檢舉件數

發生	檢舉	人員
大泊	六	三五
留加	六	六
豐原	六	六
元泊	六	六
知元	六	六
本島	六	六
真野	六	六
野田	六	六
惠泊	六	六
計須	六	六
取居	六	六
須取	六	六

交通

樺太はその地形上道路は勢ひ  
海岸線を選ばねばならず、従つ  
て幹線道路は東、西兩海岸の縦  
貫線と之を連絡する横断線に依  
つて構成されてゐる他、主要市  
街を繋ぐ路線と農村殖民地落を

連絡する農耕殖民地道路に分れて  
ゐる。昭和十一年末の主要道路  
延長は約二十軒に達した。主要  
路線を挙げると次の通。

△東部縦貫路線(大泊國境線)

大泊を基點とし豊原、落合、豊原、白浦、  
元泊、内路を経て上敷香から半田澤國境  
に至る延長四三九軒。

△西部縦貫路線(西能登呂本斗安別線)

西海岸の南端西能登呂から發し葦  
苧、武意泊、本斗、真岡、泊居、久春内  
鶴城、惠須取、名好を経て安別に至る延  
長五一五軒。

△豊原眞岡線

豊原から軍川、中  
野、逢坂を経て眞岡に至る所謂眞岡線  
に連した横断線延長は七二軒四。

△眞經久春内線

樺太の中央版  
狭部を横断する最捷路眞經から久春内に  
至る延長二九八軒。

△大豊線(南部横断線)

留多加町  
大豊市街を起點とし西海岸道節に通ずる  
風光明媚な横断線、延長四八軒四、觀光  
道路として一般に利用される。

△内惠線(北部横断線)

東海岸内  
路から惠須取に通ずる北部唯一の横断線  
で百萬圓の巨費を投じ昭和十二年完成  
した延長一〇軒。

△其の他の主要線

豊原留多加  
本線は本島南部の國門本斗より眞岡  
を経て泊居より久春内に至る文字通り西海  
岸縦貫線である。大正七年本斗眞岡間を  
起工し、同九年十月四十七軒三分の營業  
を開始し、更に大正十一年十一月眞岡野  
田間四十七軒六分、昭和四年十二月眞岡  
海岸支線一軒八分、昭和五年六月野田追  
手間二十六軒三分、同年十一月追手泊居  
間十六軒及び本斗海岸支線一軒三分を何  
れも開業し、昭和十二年二月一日より  
更に泊居久春内間三十二軒九分を開業し  
て現在本線路の總延長は百七十軒一分に  
及んでゐる。

△南部横断線(自動車)

本線は西海岸本斗と東海岸線新場驛に  
接続する南緯横断線留多加驛とを結ぶ本  
島に於ける最南端部の横断線にして、  
沿線の培養と本島東西兩岸近距離横断の  
使命を有し、加へて沿線の風光は一般旅  
客に對する觀光路線としても大いに其の  
意義を有し、近時本線通過客漸く頻繁を  
加へるに到つた。本線は上記の使命を帯  
びて、昭和九年七月留多加上大豊間の道  
路竣工に伴ひ、該區間二十五軒の運輸營  
業を開始し、續いて昭和十年八月上大豊  
本斗間四十六軒五分の開業をなし一般旅  
客、荷物の取扱をなしてゐる。

△北部横断線(自動車)

本線は樺太東海岸線眞經の最北部樺太  
鐵道會社線内路と西海岸北部の新興都市

線、新場西能登呂線、大泊中知床線、大  
泊宮内線、敷香内路線、留多加國境線、大  
唐松岸線、豊原中知床線、敷香上敷香  
線、著工中のものに珍内惠須取線(十月  
頃竣工の豫定)豊原眞岡線あり。

樺太の鐵道(總説)

本島に於ける鐵道の濫觴は明  
治三十九年九月、時の樺太守備  
隊が軍需品輸送の目的に依り吶  
嗟の間に敷設した大泊豊原間の  
軍用輕便鐵道を以て嚆矢とす。  
軍政廢止後樺太廳に於て之を繼  
承し、爾來之に改善を加ふると  
共に漸次新線を計畫敷設し、且  
大正十二年五月鐵道省と連帶運  
輸の開始を見るに至りたるを以  
て運輸機關の面目を一新するに  
至つた。現在營業路線延長樺太  
廳鐵道三百七十五軒八分、其の  
他地方鐵道營業路線二百八十軒  
四分、總延長六百五十六軒二分  
にして、外に南北横断眞經自動車  
線百五十二軒餘を有し、尙新  
線計畫中のものは西海岸久春内  
惠須取間並に敷香氣屯間の二線  
あり、著々工事進捗中にして、

何れも近き將來に營業開始の豫  
定である。

國有鐵道及自動車營業

東海岸線 大泊港—榮濱間  
川上線 小泊—川上—炭山間  
豊原線 豊原—手井間  
西海岸線 久春内—本斗間  
南部横断線 留多加驛—本斗(自動車)  
北部横断線 上惠須取—内路間(自動車)  
△東海岸線  
本線は前述の通り明治三十九年九月我  
が陸軍鐵道大隊が僅々六十日間を以て急  
設したる捕溪町—豊原間の軍用輕便鐵道  
である。當初線路は屈曲の勾配多く十八  
封度軌條を用ひ軌間六十一釐、獨逸式双  
合機關車を以て運轉し、その積載量僅か  
二十五噸の無蓋貨車のみにして、専ら軍  
需品輸送を以て目的としたが、明治四十  
年四月軍政廢止と共に樺太廳に移管さ  
れ、同年八月一日より一般營業を開始す  
るに到つた。  
翌明治四十一年六月大泊捕溪町間を延  
長し、越えて明治四十三年十一月全線を  
軌間一米〇六七となし、茲に始めて普通  
鐵道としての形態を整へるに到つた。然  
して明治四十四年六月豊原榮濱間に延長  
工事を起し同年十二月竣工、茲に大泊榮  
濱間を結ぶ本島東海岸と東海岸を貫ぬく

延長九十五軒一分の現在の東海岸線を完  
成するに到つた。其の後昭和三年八月三  
十一日大泊榮濱間に伴ひ、海陸連絡の  
便を計る爲大泊港驛を新設し、同年十二  
月より大泊港大泊間一軒六分を開業し、越  
えて昭和五年十二月大泊驛を清水谷に新  
設し大泊驛跡に愛町客扱所を新設し  
現在に到る。  
△川上線  
東海岸小泊驛より分岐し、西北方川上  
炭山に到るものにして、本線は大正三年  
四月小泊川上間十二軒七分を運轉し、同  
十一年十月全線二十一軒九分の開通を見  
るに到つた。  
△豊原線  
首都豊原と西海岸の要地眞岡とを連絡  
する本島唯一の鐵道に依る東西兩岸の横  
断線である。中間に於ける大森林と留  
多加川流域の豊饒なる農耕地を擁し、拓  
殖上重要な使命を有し、又一面本線の  
建設は稀有の難工事として知られ、有名  
なるループ線も本線寶臺池之端間に設け  
られてゐる。  
本線は大正十年十月起工し同十四年十  
月豊原給谷間九軒九分を開通せしめ、續  
いて大正十五年十一月手井逢坂間四十一  
軒二分を開通し、昭和三年九月給谷逢坂  
間四十二軒七分を開業し、茲に豊原線と  
して八十三軒八分の東西兩岸横断線の全  
通を見るに到つた。

從業員 現在從業員は全線約  
一千七百名にして、庶務經理の  
事務に従事する外運輸、車輛、  
保線等の各系統に分屬し、是等  
従事員は一軒平均四人七分四厘  
に當り、内地其の他の鐵道に比  
し配當人員は過少なるも銳意能  
率増進を計り以て之を補ひつゝ  
あり。

運輸成績 拓殖の進展、人口



の増加及び線路の延長に伴ひ  
 之が利用は逐年増加の趨勢にあ  
 り、殊に大正十二年五月より鐵  
 道省の稚泊連絡開始を始め、大  
 正十三年北日本汽船會社との稚  
 斗連絡運輸、更に大正十五年四  
 月より北日本汽船會社及び近海  
 郵船株式會社との大泊―眞岡と  
 小樽青森間の航路を經由し樺太  
 廳鐵道と省線との連帶運輸を開  
 運輸取扱數量

昭和一一	旅客	貨物	取扱收入	省社連帶	同上支出	純收入
	一、八五、三二	一、五、〇六	五、四四、〇九	三、七四、五五	三、八五、〇〇	
昭和一一	米	木材	炭	石炭	砂	利
	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇
昭和一一	客車	貨車	收入	支出	合計	
	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	

地方鐵道の概要

樺太に於ける地方鐵道は何れ  
 も其の性質上幹線たるべき地位  
 にあり、本來國有として敷設す  
 べきものであつたが國家財政の

以て之を免許し、國有鐵道と相  
 俟つて斯業の普及發達を企圖す  
 る必要上存立するに到つたもの  
 である。現在に於ける地方鐵道  
 は樺太鐵道株式會社、南樺鐵道  
 株式會社、三菱石炭油工業株  
 式會社の三線を有し、其の延長  
 率は樺太鐵道株式會社線二百四  
 十七軒五分、南樺鐵道株式會社  
 線十八軒六分、三菱石炭油工  
 業株式會社線十六軒四分、總延  
 長軒二百八十二軒五分に達して  
 ゐる。然して各會社線共樺太廳  
 鐵道を經由して島内相互間の連  
 帶運輸をなし、尙樺太鐵道株式  
 會社及び南樺鐵道株式會社の二  
 社は樺太廳鐵道と共に廳鐵線大  
 泊港驛を經由して鐵道省線及び  
 内地北海道の地方鐵道、軌道並  
 との連帶運輸をなし、各取扱區  
 域に應じ一般旅客、手小荷物、  
 附隨小荷物、託送手廻品、閉塞  
 郵便物、貨物の取扱をなしてゐ  
 る。今昭和十三年度現在に於け

る本島地方鐵道の狀況を表示す  
 れば左の通である。

樺太鐵道株式會社

當會社線は  
 廳鐵線落合驛を起點とし途中白浦、眞  
 元泊、知取、泊岸及び内路の各主要驛を  
 經ひ遠く本島奥地に於て新興の樺太  
 廳に於ける樺太鐵道の延長二百四十五軒餘、本  
 郡に於ける屈指の地方鐵道である。而し  
 て業務機關として營業所は本郡を樺太  
 廳郡落合町に置き、而して取締役會長其  
 の他主なる重役の居住地が東京にある關  
 係より、業務連絡上出張所東京市麹町區  
 有樂町に設け、出張所事務分掌規程を定  
 めて本社との連絡に當つてゐる。現在取  
 締役會長は藤原銀次郎、事務取締役は足  
 立正剛氏を任命してゐる。

南樺鐵道株式會社

當會社線  
 は樺太廳鐵道東海岸線新場驛を起點とし  
 て西灣内に沿ひ西走し、鈴谷、中ノ川、  
 津東の諸川を横斷し豊勝地として殊に清  
 遊客に喜ばれる江ノ浦、濱路、濱路公園  
 の各取扱所を經て終點留多加驛に至る延長  
 十八軒六分の線である。當線は留多加驛  
 を中心として、廣袤一〇五方里に餘る留  
 多加驛交通の基幹として留多加川流域の  
 大農耕地の開發に資し且南樺方面及び西  
 海岸本斗方面並びに二股方面への交通要  
 路となり主として製紙原料たる木材の大  
 量輸送をその使命とし又鐵道省線を始め



湯の川ぢぢ薬

ウイタミンA剤  
家庭皮膚薬

製造元  
代理店

丸越薬品株式會社  
白崎合名會社

函館市

函館市西濱町一五

米、雜穀、海產物  
委託販賣業  
船 舶  
雜貨荒物販賣業

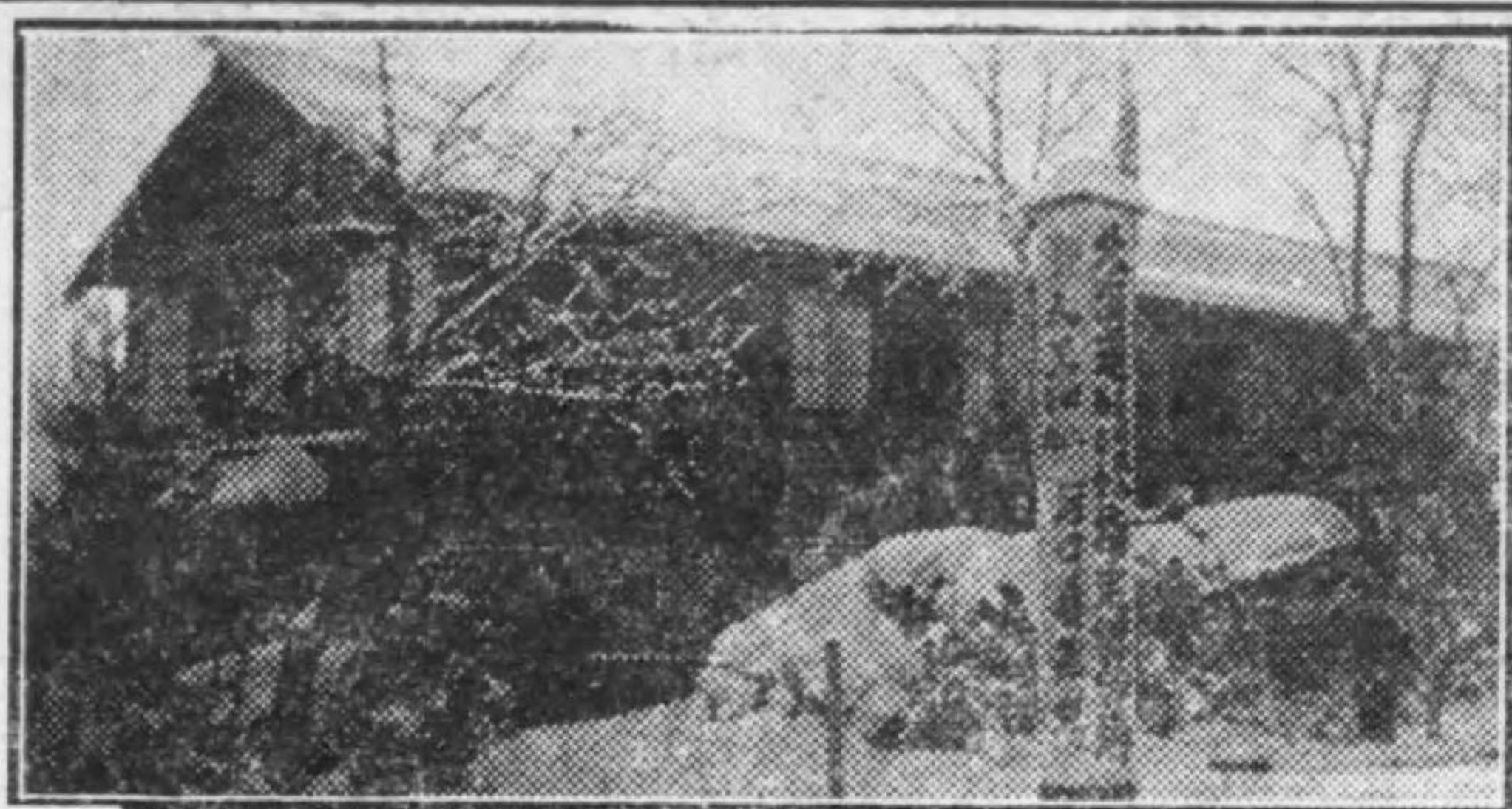


小川合名會社

電話一九五六四六四〇二四番



孵化育雛舎の全景



白色レグホン種禽の一群



強健多産實利白鶏色レグホ専用養場  
北海道養鶏組合聯合會指定孵化場

# 河川養鶏場

種中養  
卵雞  
初生雞  
生若雞  
雌具

上川郡永山村八丁目  
電話九二番  
振替小六九六六番

樺太廳鐵道は島内各社線に互り連帯運輸の取扱をなし一般旅客並びに貨物、手小荷物及び附随小荷物、附屬郵便物等の取扱をなしてゐる。此の外當社は鐵道の助成並びに代行として留多加大泊間三十九軒、留多加豊原(並川廻り)四十軒の兼合自動車營業を兼業し留多加より豊原、大泊二大都市に通ずる近郊旅客の利便を圖つてゐる。

### 列車運轉回数

區間 定期列車 計  
旅客 貨物 混合  
新場—留多加 1—1 往復  
留多加—豊原 (並川廻り)  
留多加—大泊  
留多加—古江  
留多加—落合  
留多加—大泊  
留多加—大泊  
留多加—大泊  
留多加—大泊  
留多加—大泊

斗内間十四軒六分を開業し、次いで同年十二月一日内幌炭山間一軒八分の開通をなして同日より全線十六軒四分に互り一般運輸營業を開始することとなつたが同社は開業の日より鐵道に於て運輸の委託を受け之を管理することとなつてゐる。

### 兼合自動車路線

運轉區間 軒數 經營者  
留多加、本斗 七・五 樺太廳鐵道  
留多加、豊原 二〇・〇 同  
留多加、豊原 (新場廻り) 五・五 南樺鐵道  
留多加、豊原 (並川廻り) 三・八 同  
留多加、大泊 二・二 同  
留多加、二股 四・四 留多加自動車  
留多加、古江 六・三 同  
留多加、落合 四・〇 留多加自動車  
留多加、大泊 四・〇 中央自動車  
留多加、大泊 四・八 村松輝太郎  
留多加、大泊 四・〇 東樺運輸  
留多加、大泊 四・五 小川正速  
留多加、豊原 四・九 同

## 通信

局所 樺太の通信事業は明治三十八年七月皇軍が樺太占領と同時に始められた。専ら軍事上の必要のみに利用されたものであつたが、移住民が増加し秩序回復するに及んで軍政より民政に移り、明治四十年四月樺太廳が置かれたにつれて樺太廳長官の管理に屬することとなつたのである。

眞岡、蘭泊 三・五 眞岡自動車  
久春内、眞岡 三・〇 樺太中央運輸  
泊居、珍内 六・〇 同  
珍内、名好 九・九 留多加自動車  
留多加、布禮 四・五 同  
留多加、知取 四・五 留多加運輸  
西多來加、佐知 三・〇 同  
内路、上敷香 二・〇 同  
敷香、四境 二・〇 同  
敷香、四境 二・〇 同  
本斗、白主 二・六 本斗自動車  
内幌、内幌炭山 二・六 同

此の外島内の主要部落に、電信電話取扱所が置かれてあつてその數十四箇所、近く五箇所が増設されることになつてゐる。

郵便 島内の交通機關が充分でない爲郵便物の遞送には随分苦心させられてゐる。殊に西海岸久春内以北に於ける遞送には夏季はまだそれほどでもないが冬季に至つては一層甚だしく、公衆の蒙る迷惑も尠くないものがあるやうだが、當局者が之が改善には非常な努力を拂つてゐる。

内地との遞送は樺泊及び樺斗連絡船を利用するので頗る煩瑣である。内地との郵便は近來航空郵便を利用する、ものが漸次増えつゝある。尙島内に於ける遠達郵便制度はまた實施されてゐないが、これは遠からず實現する事と思はれる。

樺太人の郵便利用の特徴として代金引換小包の利用が非常に多いことである。鐵道便を利用する範圍が内地のやうに廣くない關係かと思はれるが各局取扱の到着小包の半數以上は代金引換であることは注目に値する。

電信電話 電信電話の擴張改良を大正十一年度より實施して



みる。時に豫算の節約に阻まれ思ふにまかせぬことがあつたが、年々面目を改められ内地先進都市に劣らぬ施設さへ見ることが出来るやうになつた。

即ち昭和六年豊原郵便局の電話が自動式に変更され、内地通信の補助機関として同局に短波無線電信機が備へられた。又昭和三十二年には海底電線の増設が完成して島内主要局と北海道各都市は固より東京、大阪、福岡、福井、富山等の各地と通話出来るやうになり現在一日二百通話内外の通話を取扱つてゐる。

為替貯金 銀行其の他の金融機関が充分普及して居らぬ爲、郵便局を利用する爲替貯金は相當に多い。殊に北部の造材地に居る労働者は郷里へ送金するのに電信爲替を以てすることが目立つてゐる。

又近來造材業者や、炭礦会社が其の資金を、料金が安くてしかも取扱の簡便な爲替貯金を利用する向きが頗る多い。一會計が月に二十萬三十萬と云ふ資金をこの爲替貯金に依つて内地から送金を受けてゐるところ二三に止らない。

貯金は國策に沿ふて樺太でも大いに奨励してゐる爲本年は非常な勢で増加してゐる。殊に五月から月掛貯金が實施されたので一層拍車をかけられてゐる。樺太の八月末現在貯金は預入人員二十三萬五千餘人預金額千四百八十六萬圓となつてゐる。

保険と年金 樺太に於ける簡易保険と郵便年金の取扱は、内地より約十年遅れて實施された。しかしその普及は誠に迅速で本年八月末に於ける加入契約件数は十三萬五千五百六十六件、保険金二千六百五十七萬二千三百五十六圓、加入率千人當り四百四件となり、全國の一人當り加入率三百七十七件に比し遙かに優つてゐる。

加入者の福祉施設としては、豊原及び大泊に健康相談所を設置して加入者の健康上の上き相談相手となつてゐるが、更に本年度に於て西海岸真岡にも一箇所設置の豫定である。又地方の不便な所に居る加入者の爲に昭和七年以來毎年巡回相談を實施してゐる。警察機關の乏しい地方に於ては殊によき企として充分利用されてゐる。

保險積立金の貸付も年々増加され専ら公共事業に投資されてゐる。  
ラヂオの普及 ラヂオは比較的高級な聴取機でなければ聴取

困難であつたが初めその普及は遅々たるものであつたが、仙臺に放送局が出来、札幌の放送局が完成するに及んで聴取が容易になつて來た爲漸次聴取者が増加し、殊に昨年支那事變が勃發してからは急激に殖えて最近では七千三百を數ふるに至つた。

日本放送協會に於ける樺太放送局設置案も著々進行してゐるとのことであるから豊原に放送局の開設せらるゝのも近き將來と思はれる。豊原に放送開始の時は更に聴取者の數を増すことは論を俟たないところである。

各局取扱數 十二年度

普通局	六、三三六	吉野	一、四二一
大泊	三、〇〇〇	豊原	一、九〇〇
真岡	一、五〇〇	特定期	一、〇〇〇
支應管内別局數	十二年度	電信電話	取扱所數
大泊	一六	支應	一五
豊原	一六	支應	一三
真岡	一三	支應	一三
特定期	一三	支應	一三
支應管内別局數	十二年度	電信電話	取扱所數
大泊	一六	支應	一五
豊原	一六	支應	一三
真岡	一三	支應	一三
特定期	一三	支應	一三

爲替貯金口數 十二年度(提出拂渡數)

普通局	提出	拂渡
大泊	八、八〇〇	二、九〇〇
真岡	三、〇〇〇	一、〇〇〇
豊原	一、〇〇〇	一、〇〇〇
特定期	一、〇〇〇	一、〇〇〇
支應管内別局數	十二年度(受拂)	
普通局	預入	拂出
大泊	四、〇〇〇	一、〇〇〇
豊原	一、〇〇〇	一、〇〇〇
真岡	一、〇〇〇	一、〇〇〇
特定期	一、〇〇〇	一、〇〇〇

三神一座にして、豊原市の東郊に鎮座し明治四十三年起工、翌四十四年八月鎮座せり、大祭日は樺太始政記念日の八月二十三日。

縣社豊原神社 祭神は天照皇大神、豐受大神、明治天皇、照憲皇太后の三座四神にして豊原市宇北豊原に鎮座、明治四十一年の創立、昭和三年十一月五日縣社に列格せらる、例祭日は六月十六日。

縣社亞庭神社 祭神は大國主命、事代主命、市杵島姫命、御食津神、譽田別命にして大泊町神樂ヶ丘に鎮座しあり、大正三年創建、昭和五年七月五日縣社に列格せらる、例祭日は八月十日。

縣社眞岡神社 祭神は天照皇大神、豐受姫大神の二神にして眞岡町の高臺に鎮座、明治四十三年の創建、昭和九年五月縣社に列格、例祭日は七月十日。

和六年より同九年に至る滿洲事變の本島關係戦歿者の英靈を祀る。官幣大社樺太神社に隣接し昭和十年九月創建、例祭日は八月二十五日。

表忠碑 日露戦役當時本島攻略の際戦歿せる故陸軍歩兵少佐西久保豊一郎以下軍人軍屬五十一名の英靈を祀り、全滅したる七月十二日を卜し毎年招魂祭を舉行、大泊中央高臺にあり。

樺太戦跡記念碑 本島攻略の戦跡を記念するため官民有志の發企により樺太戦跡保存會を組織し一萬數千圓を投じ最も激戦地たりし豊原市軍川に高さ二十四尺の記念碑を建設せり。

宗教 領有後各宗派布教師來島して布教に努めた結果、神道は各地に五〇の布教所を開設し佛敎は眞宗、日蓮、曹洞、眞言淨土各宗の寺院七五、布教所一二〇箇所に及び基督教は日本聖公會、メソヂスト、天主教會

普通局 其岡 一〇、八八五  
豊原 三、三三〇 泊居 五、五五五  
大泊 一、一五五 特定期 七、五五五

郵便局長 (並に無線局)  
(昭和十三年七月一日現在)  
普通局  
(豊原)通信事務官伊田章一(大泊)通信書記高山忠太郎(真岡)同山形豊吉(泊居)同香藤安太郎(大泊)無線電信局同藤田耕夫(豊原)無線局同阿部富吉

特定郵便局  
(大泊)橋本三雄(豊原)細入達太郎(久春内)安江秀一(白浦)三浦昌三郎(敦香)大和榮三(留多加)鈴木桂次郎(名好)堀口芳松(海馬島)西谷武雄(野田)谷川時藏(富内)葛西猛千代(長濱)村松輝太郎(鶴城)太田精一(木下)曾根勘太郎(蘭泊)橋本忠雄(元泊)渡部助治(大谷)小松四郎(留久志)曾田健吉(真岡北濱)伊藤榮治(散江)平林三男(南名好)石田常勝(豊原)柳澤廣市(豊原)取局は十月一日から普通局に昇格の豫定(遠海)市毛子之介(名寄)矢田部崇(小泊)中島市治(善谷)善谷忍(廣地)伊與田爲資(小能登呂)淺川喜八

神社・宗教  
官幣大社樺太神社 祭神は大國主命、大己貴命、少彥名神の三神



日本基督教會、救世軍、ホーリネス等一二箇所の教會あり。神社、寺院數(十三年九月)公認神社一二〇社、他に樺太招魂社。寺院八四、佛道布教所一二六、神道布教所五六、基督教々會一二。

主要神社官司社司

- 官幣大社樺太神社(豊原市) 宮司六段 從六 吉野 真人 禰宜六段 從六 政所 喜澄
縣社豊原神社 作 雄三郎
縣社亞庭神社(大泊町) 山田 信義
縣社眞岡神社(眞岡町) 湖山 寛

教育

學校教育

樺太に小學校の設置されたのは明治三十九年豊原、大泊、眞岡の三箇所に設けたのを嚆矢とし、引續き各地に私立簡易教育所を補助金を以て設けしめたが、明治四十一年勅令を以て樺太に於ける小學校に關する件を公布し、體制を整へ暫時法制方面の整備と共に教育の改善に當り今日に推移した。又高等普通教育機關設置を要望せらるゝに及び樺太廳では明治四十五年大泊に中學校を設け越えて大正五年豊原に高等女學校を設置し現在中學校は豊原、大泊、眞岡、泊居學校は豊原、大泊、眞岡、泊居の四校を數へたが、更に實業教育の徹底を圖る爲各地に補習學校を設けて拓殖の第一線に立つ農業戰士を養成する目的のもと昭和九年七月小沼の中央試験所構内に樺太廳拓殖學校を新設し、二部制として小學校卒業者中學校卒業生を收容した。又大正五年教育行政上監督機關の充實をはかる爲專任視學を樺太廳に置き各支廳には專任或は兼任視學を配置して監督統一の嚴密

を期してゐる。

社會教育

人文の進化と共に學校教育と併行して民衆教育の必要が切實に要求されるに至つたので、樺太廳では昭和五年十月社會教育會を設置し、専ら社會教育の指導監督に當つて來たが、之以前に於ける社會教育施設としては極めて微々たるものに過ぎず、大正十一年豊原に樺太廳博物

主なる社會教育團體

- 樺太教育會 事業1講演會、研究會2夏季大學の開催3各科研究調査會4圖書館及び夜間中學校の開設5機關雜誌の刊行
恩賜財團樺太教化事業獎勵會 事業 篤行者、社會教育功勞者並に團體の表彰及び補助

師範教育

男子教員の養成機關は大正七年四月大泊中學校に小學校教員講習所を附設したが大正十一年内地師範學校の二部制に倣ひ本科正教員を養成し毎年四十名宛卒業せしめたが昭和十二年度から從來の一箇年制を廢し二箇年の修業年限とし、同時に豊原にも豊原高女に小學校教員養成所を附設(二箇年修了)した。然し樺太の特殊事情を教育の分野に顯現するにはかゝる微温的對策のみを以てしては實際的效果を期待出來ぬ爲昭和十三年年度豫算

に樺太廳師範學校新築に要する營繕費並に準備開校に必要な職員經費を要求し之が承認され、昭和十四年四月一日から開校の準備を著々進めてゐる。校舍建築は十三年から二箇年繼續とし募集生徒は八十名の豫定である、校舍は豊原市招魂社通に設けられた。

小學校、學級、教員調

(昭和十三年八月)

Table with columns for school names (支廳名), number of schools (學校數), number of classes (學級數), and number of teachers (教員數). Lists schools like 豊原, 大泊, 眞岡, etc.

斃香土人教育所在籍兒童數

Table showing the number of children in school for deceased indigenous people in various districts like 豊原, 大泊, 眞岡, etc.

公立實科高等女學校

(斃香實科高等女學校) 學校長事務取扱芹澤外記(豊原取實科高等女學校) 學校長事務取扱佐賀太郎

小學校長

昭和十三年七月一日現在、〇印委任待遇

公立實業學校、補習學校並實科高等女學校

- 私立樺太教育會附屬豊原夜間中學校(豊原市) 藤川實次女學校(豊原市) 大泊女子職業學校(大泊町) 大泊實科女學校(大泊町) 知取和洋裁縫女學校(知取町) 豊原盲啞學院(豊原市) 樺太鑛業會附屬鑛業技術員養成所(豊原市)
公立實業學校、補習學校並實科高等女學校 (本斗水産學校) 學校長六等七級八島與信 (豊原商工補習學校) 學校長心得山崎正孝 (豊原商工補習學校) 學校長心得佐々木要藏 (大泊商工補習學校) 學校長心得伊藤孝 (多加加農補習學校) 學校長事務取扱工藤治郎 (眞岡商工補習學校) 學校長心得北田好夫 (泊居商工補習學校) 學校長心得清水敏一 (知取商工補習學校) 學校長心得山本兵三 (斃香商工補習學校) 學校長心得谷菊松 (豊原取實科高等女學校) 學校長心得伊吹健治

大泊支廳管内

- 【尋常小學校】 大泊校。佐藤清三郎、橋本。菅田信弘、大野。天野榮雄、船見。宮坂敏幸、古牧。石川秀次郎、一ノ瀬。佐藤。日塚。黒石良平、鳥居。津佐。木原。渡邊。澤。山口。三郎、岩。松。渡邊。久吉、胡。澤。別。校。中山。國。平、赤。岩。米。野。元、札。塔。校。島。作。禮、乳。根。校。島。直。人。南。道。古。丹。校。高。橋。山。中、藤。原。校。佐。藤。秀。八、喜。美。内。校。三。田。村。貞。利、下。喜。美。内。校。松。本。亮。治、岸。原。校。半。澤。喜。晴、江。ノ。浦。校。島。田。精。一。濱。路。校。中。島。清。一、平。野。校。清。水。榮、小。原。校。成。田。喜。代。治、小。原。校。高。橋。一。郎、上。小。原。校。千。田。清。治、大。豊。第。二。校。高。田。正。則、豊。第。一。校。池。原。勇。次。郎、豊。第。二。校。佐。藤。直。衛、伏。木。校。福。士。米。太。郎、利。良。校。鈴。木。晴。男、幌。内。保。校。水。野。重。俊、池。月。校。西。川。實。三、蓋。取。校。北。澤。三。三、古。江。校。津。川。善。三、大。吹。校。三。浦。茂。太、北。孫。校。校。久。保。保。彦、盛。地。校。武。藤。光。壽
【尋常高等小學校】 多。蘭。内。校。野。坂。長。次。郎、長。濱。校。進。藤。三。三、彌。高。校。橋。田。良。一、深。海。校。根。津。友。一、禮。文。校。高。橋。幸。高、遠。瀧。校。菊。地。其。次。男、千。原。校。大。村。茂、上。喜。美。内。校。山。口。五。郎、泥。川。校。安。原。泰、富。内。校。堀。一。良、雄。吹。校。池。田。正。志、多加。校。工。藤。治。郎、中。甲。校。内。海。誠。藏、奥。野。校。高。橋。十、荒。栗。校。田。崎。武、美。田。校。黒。田。重。時、河。西。校。谷。口。眞。一、兩。重。校。白。川。英。吉、内。磯。校。高。島。信。逸、知。志。谷。校。宇。野。巖



【高等小學校】 大泊校。齋藤了雄

【本斗支廳管内】
【尋常小學校】 内院第二校。因田與三郎
知根平校小池正夫、遠藤校佐賀平藏、遠
節澤校門脇良一、島澤校田村善照、吐
鹽保津校星川繁造、奥内院校増田信一、
南名好津校元田正三、木藤校福澤三郎、
呂馬内校小山内徹郎、宗仁校田中重治、
藁野校箱崎義江、第二海馬島校櫻庭康三
【尋常高等小學校】 釜牛校。田澤正一、
内院第一校。清水碧、本斗校。根來毅、
氣主校。服部明義、上内院校。江利山豊
吉、福内校西山秀市、阿幸校小島盛勝、
好仁校田口好友、十和田校細井源治、南
白土校土井源治、海馬島第一校吉池眞澄
【真岡支廳管内】
【尋常小學校】 真岡第四校。佐藤虎五郎
富内岸小學校。武井健吉、多田泊校。佐藤
省九郎、真岡第三校。藤野幸藏、天城校
渡邊貞、清次校立座英雄、富澤校住吉信
雄、江校信夫源吉、奥白帆校飯沼武、羽母
第二校中島富雄、小能登呂第三津川
十太、仁多須校長勇八、南豊校佐々木繁
郎、北澤校河村悦爾、久良志校佐々木繁
廣、小御校小島久治
【尋常高等小學校】 瀧泊校。清田周司、
逢坂校。内藤武雄、小能登呂第一校。齋
藤清、苦壽校。山本竹次郎、真岡第二校
星谷正貞、廣地校。小野寺忠四郎、野田
校。柳久保義榮、本古丹校。和田勇全、

二設校。横澤文太、真岡第一校石井敬次
大磯泊校櫻庭源次郎、瑞穂校渡邊賢三郎
羽母第一校大町正、小能登呂第二校布
施伊治、登富津校藤原豊勝、鶴巻校松山
淡

【泊居支廳管内】

【尋常小學校】 惠須取第一。大武留男、
中追手校木村周三、元山校善理榮次郎、
中ノ澤校荒井清、奥津校結川英四郎、東
條校上野正元、南津校氏家運造、平澤校
池田景造、寶津第二校杉原春吉、寶津第
三校津田完二、牛毛校尾崎武治、智來校
飯岡英三、下大川校安岡仁裕、梶原校石
井經雄、田邊校長内三、内胡校佐野重
一、來知志校崎新三郎、惠須取第二校佐
藤八重野、天内第一校佐藤孝次、糸香校
有馬秀廣、千禧校峰村長治、武道校新田
貞義、西澤丹校奥村三夫、諸津校河野清
次、北小澤校富田壯哉、北堂校吉田優、
布都校森本金壽、白津校雲田信一、神多
校中澤三郎、上布都校金田寛、胡桃津校
中島徳壽
【尋常高等小學校】 幸濱校。大槻基家、
幌千校。牧野琢磨、珍内校。奥田元次郎
泊居校。長澤昇一、塔路校。高橋宗一、
鶴巻校。田中宗吉、大登校。中山吉平、
久春内校。守田源造、名寄校。新井有太
郎、大平校。河田實、追手校河川秀、杜
門校田中文正、寶津第一校石川八郎、留
久志校新開丈夫、小田州校嶋名銀太郎、
上幌千校瀧口吉秋、上須須取校佐々木記

松、天内第二校高橋辨吉、名好校富岡哲
三、安別校又井朋介
【高等小學校】 惠須取校。佐竹賢太郎
【元泊支廳管内】
【尋常小學校】 知取第一校。高橋嘉男理
知取第三校。木村清一、櫻保第二校井口
源作、櫻保第三校菅原弘治、知取第二校
小野寺儀平、大磯取校尾崎芳之助、上遠
古丹校尾崎貞夫、東郷文校青木眞一、白
石津校齋藤和男、近嶋校小前正
【尋常高等小學校】 元泊校。福田忠正、
馬津第二校。宮坂茂樹、櫻保第一校谷
藤吉、知取津校清野文二、東郷丹校大田
次郎、馬津第一校小林芳治
【高等小學校】 知取校。長尾政雄
【敷香支廳管内】
【尋常小學校】 敷香第三。石井鏡、敷香
第二校。田中武次、中敷香第一校國谷健
助、中敷香第二校小川義夫、大木校中斐
宗八、保惠校長谷八郎、駒間校佐々木爲
治、多來加校大川照吉、上内路校神代家
治、初間校平野國三、中氣屯校宮吉連、粒
古屯校桑本小治郎、千禧校芥田幸一、粒
輕校佐藤藤一、小泊校竹内弘次
【尋常高等小學校】 内路。山田新五郎、
上敷香校。中坪啓次、敷香第一校。芹澤
外記、新開校。佐々木七郎、氣屯校大杉
義實、内川校田田繁雄、泊岸校牧野節成
能登校服部清次郎、西野頃校工藤健次郎
淺瀬校對馬源之助

私立大泊幼稚園(大泊町)私立豊原幼稚園
(豊原市)私立惠須取青藍幼稚園(惠須取
町)
就學兒童調
(十三年四月一日現在)

Table with columns for gender (男, 女), age group (高等, 常), and school names. Includes a section for '學校兒童疾病調' (School Children Disease Survey) with columns for disease types like 結核性疾患, 肺病, etc.

體育

スポーツ界の回顧

體育協會の誕生

多年待望して居た樺太體育協
會が武藤内務部長、白井學務課
長(現警察部長)等の熱意によ
り遅ればせながらも出来上つた
事は本年度の本島體育界で忘れ
てならぬ事の一つである。之で
今まで教育會等が片手間にやつ
てゐた機會も漸く軌道に乗出し
各種行事に本格的な力強さを持
つて来たことは喜ばしい事であ
る。

陸上競技

記録的には極めて低調な本島
陸上競技も青年團を中心として
相當厚い競技者層を持ち、奮勃
たる力を藏して居る。昨秋(十

スキー

久しく沈滞を續けた本島スキ
ー界は昨シーズンには全く驚異と
言ふより他にない目覺しい大活
躍を遂げた。札幌の全日本では
桑原、佐藤(忠)伊藤、蛭子、佐
藤(留)遠藤、小笠原等は技術的

にも精神的にも完全に全日本デ
スタンス界を風靡し、久留島又
果敢なサツツに物を言はせて強
豪群が北海勢を排し、少年組
飛躍の覇權を握つた。勢に乗じ
た明治神宮大會は繼走、長距離
飛躍、複合に全く壓倒的な得點
を重ね四十五點を以て遂に全國
制覇の偉業を樹立した。之等の
結果から見ると滑降、廻轉が著
しく遅れてゐる様に思はれるが
それは當らない。

即ち三月十一日から三日間に亘り豊原
市で舉行された第二回札幌對抗戦に於て
全日本の第一級小島、可兒、中川等を向ふ
に對し、豊原中學の新進波岡は完全に之
を押へて優勝した事は此の邊の事情を物
語るもので今シーズンは此の方面に於て
も刮目すべきものがあらう。只一つ心殘
りなのは全日本選手權に於ける耐久競技
で前半物凄いスピードに乗つて居た桑原
が沈滞して居る我が耐久界に、エポック
を劃するものとして期待して居たのである
が遂に成らなかつた。然し斯うした葛藤
的な戦法で初からゲンクススピードに乗
れる選手が出ない限り何時迄も國際的な
線から遙かに置かれて行く事は拒み得な
いのであつて、此の敗戦が来るべきシ

ズンによき華を開き實を結ぶであらう事
を期待してゐた時遂に戦地に彼を送らね
ばならなくなつた事は誠に遺憾である。
然し今冬は佐藤忠、伊藤、蛭
子向井、遠藤、小笠原の距離陣
と佐藤(利)久留島、新しく迎へ
た若本、それに堀江の飛躍陣、
村井、金谷の複合、波岡、若本
の滑降廻轉などはスキー樺太の
陣營に些かの動搖も感じさせぬ
のみか旺盛な闘志は昨年以上に
全面的な活躍を期待し得られよ
う。(上石 巖)

樺太の體育團體は昨十二年新
設された樺太體育協會が中心と
なり、各支廳毎に支廳管内體育
協會の設立を慫慂し十三年度中
には全島に新設される事になつ
た他、総合的乃至野球、庭球、
スキーをはじめスケート、武道
の各種團體が續々結成を見てを
り、特に事變を契機として國民
體位の向上が國策的見地から強
調されて居る折柄、之が一環と



して體育獎勵運動が漸く本格的な體制を採るに至つた事は慶賀すべき事實である。昭和十三年度の體育界は全島體育大會をはじめ、全島庭球選手権大會、全島體操大會、豊原小沼間斷走、豊原眞岡間斷走など記録的には別して特筆すべき成績はあげ得られなかつたとしても、統後青少年の意氣を偲ばしむるに足る様な快心の各種競技が行はれた事は注目される。

十三年のシーズンを通じての記録的事實は八月中旬棒太野球聯盟の招聘に應じて來島、豊原で公開試合を行った東京職業野球セネターズ、イーグルスの兩球團を迎へた事に我が長距離界のホープ村社謙平(中央)氏を八月下旬の全島體育大會に迎へた事の二つであつた。

全島の體育團體

主要なる全島の體育團體を記すと大體次の通である。

棒太體育協會(棒太總務課内) 棒太スキー聯盟(同) 棒太野球聯盟(同) 棒太庭球聯盟(同) 豊原スケート倶楽部(棒太廳内) 大泊スケート倶楽部(大泊町) 武徳會棒太支部(豊原市) 豊原弓道研究會

體育團體數(支廳別)

種目	豊原	大泊	眞泊	元泊	香取	計
綜合	一	一	一	一	一	五
上野	一	一	一	一	一	五
庭球	一	一	一	一	一	五
スケー	一	一	一	一	一	五
武他	一	一	一	一	一	五
計	一	一	一	一	一	五

(註、豊原は眞泊市を含む)

社會事業

本島の人口増加と社會的事務の複雑化に社會事業も促進され最近に至つては豊原市、大泊町等には官民有志に依り無料宿泊所、託兒所、授産場、公益質屋職業紹介所を設置され、又町村方面委員等の團體も設けられ、棒太廳に於ても助成に努めつゝあり。法令による社會事業は軍事救護、罹災者救助、行旅死病人救護取扱、水難救難所、入營者職業保護等あり、團體としては財團法人棒太慈惠院、棒太共濟

會、棒太恩賜財團、大禮恩賜棒太慈惠財團及び棒太保護會、大泊社會院、大泊託兒所、他に財團法人棒太恩賜財團經營の職業紹介所、同大泊簡易宿泊所あり。

法令による社會事業

軍事救護 傷病兵又は遺家族若しくは下士兵卒の遺家族の救護で生活扶助、醫療、失業扶助助産、埋葬等である。

軍事救護法に依る扶助狀況(昭和十二年度)

生活扶助(居宅)	一、三、三、三、三、三
醫療(居宅)	一、三、三、三、三、三
助産(居宅)	一、三、三、三、三、三
生活扶助(居宅)	一、三、三、三、三、三
小計	一、三、三、三、三、三
勅令第二條の臨時生活扶助	一、三、三、三、三、三
埋葬(居宅)	一、三、三、三、三、三
計	一、三、三、三、三、三

備考 括弧は居宅にして又收容を受けたもの。  
罹災救助 勅令により多數災害を蒙りたる場合に救護されるもので、避難所費、食料、被服治療、小屋掛、就業、學用品に救助金を支給される。

罹災救助規定に依る救助狀況(昭和十二年度)

支廳名	豊原	大泊	眞泊	元泊	香取	計
救助回数	一	一	一	一	一	五
救助人員	一	一	一	一	一	五
救助費	一	一	一	一	一	五
支出額	一	一	一	一	一	五
計	一	一	一	一	一	五

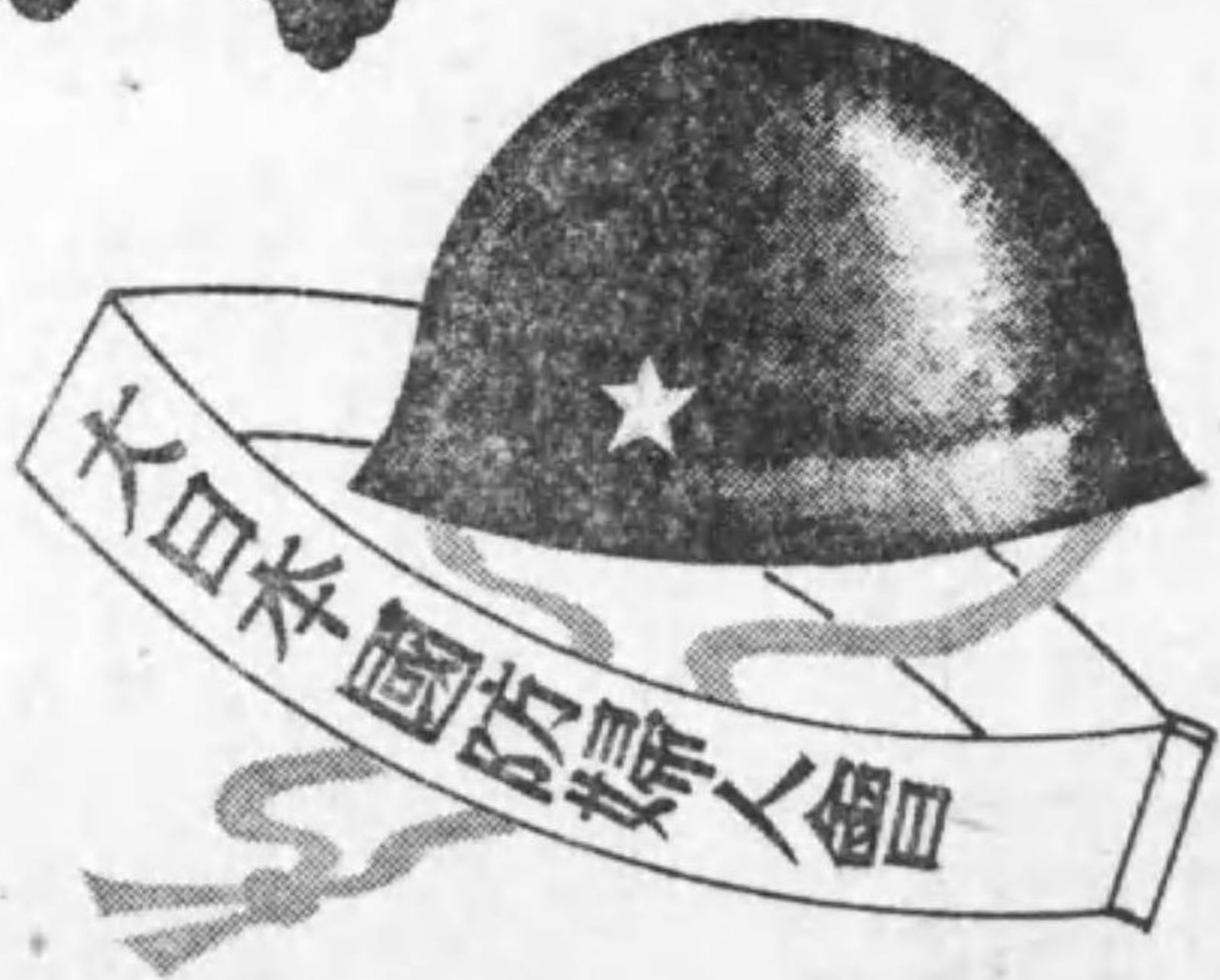
行旅死病人救護並に取扱 人口の増加と共に逐増し、之が費用多額に上り繰替支出をなす町村財政上多大の支障を來してゐる。

行旅病人、行旅死亡人 (過去五年比較)

行旅病人 救護 同病止 同康員 担額

昭和七 一三 一三 一三 一三 一三 一三

旭野 銘酒



旭川市大町三丁目  
冬鹽野谷酒造店







は職給法の施行をも見ず、公の勞務需給調整機關にしては豊原市に財團法人樺太恩賜財團が人事相談所の名目で經營するものが僅かに存在し、昭和七年以降此の衝に當つてゐるのみである。然しその取扱は昭和十二年度に於て求人四千、求職一千程度の取扱に過ぎず未だその大勢を支配するには至らない。何れ職給法も近々には施行される事であらうが、勞務の需給調整は樺太の勞働行政上の一大喫緊事である。

### 衛生

#### 醫療關係者數

(警察署別、昭和十二年末)

警察署	醫師	齒科醫師	藥劑師	看護婦
豊原	1	1	1	1
大泊	1	1	1	1
留加	1	1	1	1
本斗	1	1	1	1
野田	1	1	1	1
計	5	5	5	5

#### 齒科醫師分布狀況

(昭和十二年末現在)

警察署	有資格	假免	醫師一人	同一人
豊原	1	1	1	1
大泊	1	1	1	1
留加	1	1	1	1
本斗	1	1	1	1
野田	1	1	1	1
計	5	5	5	5

#### 醫師分布狀況

(昭和十二年末現在)

警察署	有資格	假免	醫師一人	同一人
豊原	1	1	1	1
大泊	1	1	1	1
留加	1	1	1	1
本斗	1	1	1	1
野田	1	1	1	1
計	5	5	5	5

#### 原因別死亡

(昭和十二年末現在)

原因	男	女
傳染病	1	1
其他	1	1
計	2	2

#### 結核死亡數

(昭和十一年度)

市町村	人口	死亡數
全島	100,000	100
市	50,000	50
町	30,000	30
村	20,000	20
計	100,000	100

#### 結核死亡數

樺太の結核死亡數は全國でも

原因	男	女
結核	1	1
其他	1	1
計	2	2

### 觀光案内

#### はしがき

急速の進歩を以て世界の大局に處し一等國として東亞の盟主にをさまつた我が帝國の地圖を試みに披いて見れば、四面海に圍まれた六大列島不可侵の姿の中に今や樺太は北門の要路にあつて其の頭部の如く朝鮮、臺灣は恰も足部の感がある。然るに呼ば、答へん一海峡を隔て、其の頭部の樺太に渡るには外國にでも行くかの如く、足部の朝鮮、臺灣に渡るには隣村にでも行くかのやうな氣持であるのは何故であらうか。それは氣候の關係もあつたであらうが一つには宣傳紹介の足りなかつたところに未だ見ぬ樺太をして極寒不毛の荒野たらしめた認識の不足から來た結果ではなからうか——最近の樺太——それは産業に、經濟に、交通に、凡ゆる點

に於て加速度的な飛躍を以て北方開拓に躍進の脈搏つ我が國唯一の寒帯植民地である。以下島の全貌を大略紹介して見やう。

#### 樺太の異色

白樺の林にそつと忍び寄る甘い晩春の夢が漂ふ黄昏の頃、傾きかけた白糸露人の丸太の家屋に碧眼紅毛の娘が佇む風情は一枚の繪の資材である、沿線とこころに之等の娘が狐舎を掃く姿に、牛乳を搾る姿に、發育し切つた肉體を包む洋裝の尙包み切れない曲線美を残してあの冷たい情熱的な眼、彫刻的な鼻、肉感的な唇が樺太を旅する人にとつて心なしか一つの魅惑となる——祖國に思を馳せる心！と皇恩に感謝する心と交々たる表情を以てその冷たい情熱が……

#### 避暑地として招き 健康地として呼ぶ

#### 安樂境！夏の樺太

蟹居の冬と、活動の夏と、一年を二つに區切る樺太では五月に入つて一せいに雪が融け初めると瞬く間に緑の世界が開け、野にも山にも川にも都會にも——生きとし生けるものが皆々生命の創造に躍動し活氣が激刺として充滿して來る。この活動の夏に對し、樺太では出來得る限り多くを樂しみ、能ふ限り多くを働かんが爲に天はその希望を充たし、その勇躍を受け容れて「午前二時に夜が明け、午後九時に日が暮れる」と云ふ冬季に二倍する晝間の時間を與へてくれる——偉なるかな自然の攝理のまことに合理微妙なる——眞に驚嘆に値するものがある。樺太は健康地としても大いに之を稱讚するを憚らない。避暑地として、健康地として夏の樺

#### 傳染病死亡者數

(昭和十二年)

病名	患者數	死亡數	死亡率
赤痢	1	1	100%
腸チフス	1	1	100%
赤痢	1	1	100%
腸チフス	1	1	100%
計	4	4	100%



太は強く呼びかけ朗かに招く!!

観光地とところぐ

鰐肭獣と

ロッペン鳥の大群棲

樺太の珍鳥、北知床半島の先端にある海豹島に夏の涼味を求めて、鰐肭獣とロッペン鳥の大群棲状況を観ることは蓋し見逃せない奇観の一つである。

海豹島は樺太東海岸北知床岬の南方十哩にある長さ三百五十間、幅五十間の一岩島であつて、周囲は砂濱であり米領アリビロフに露頭コンマンドルスキー群島と共に鰐肭獣の繁殖場として世界に有名な島である。

日本最北端の都、敷香を出帆

して海上の夢も圓らかに旭日輝く頃、碧海に一點、白い岩石の島が映畫のやうに浮び出して来る。間もなくランチで上陸すれば崖上に見渡す一面のロッペン鳥、崖下の海岸に地面が見えぬ程に群棲してゐる鰐肭獣、その数ロッペン鳥三十萬羽、鰐肭獣三萬頭、文字通の群棲は孤島を

覆うて壯觀と言はんか、奇觀と言はんか、全く喧噪と騒亂のジャズに驚嘆の眼を見張るであらう。ロッペン鳥も鰐肭獣も五月中旬から下旬にかけてこの島に群來し、鰐肭獣は六月中旬から七月下旬にかけて分焼するや間もなく七月上旬から八月上旬にかけて交尾期に入る。

極端なる一夫多妻主義にして一頭の雄が幸ゆる雌の一群は多きは七八十頭、少くも三四十頭に及び、ロッペン鳥は鰐肭獣の分焼後のエナや、生魚を喰べゴブシ大の卵を岩上に産むがこれが規律正しい一夫一妻主義であるのも面白い對照ではある。

國境の町敷香から日ソの國境を踏む

邦領最北端の町、敷香は樺太のローカルカラーを代表する所で、敷香を見ずして奥地樺太を語る勿れとされる觀光樺太には見逃せない名所の一つである。人口二萬九千餘、日ソの國境一帯の咽喉を扼し交通上要衝の地點にあり、ソビエト露西亞に

その源を發する國際河川として樺太アマゾンの名ある幌内川の河口を扼するので重要性を含む關係は茲に言ふ迄もない。

北端の桃源境オタスの杜は即ちこの敷香の郊外にあり幌内川を遡ると直ぐに展けて見える。木の皮で家屋を造り魚を獲り獸類を獵する外に業を知らぬ土人達は河畔に黙々として原始生活を営みつゝある奇習は夢の國に見る程な珍景である。此所に屯する土人はギリヤーク、オロツコ、キーン、サンダー、ヤクトの五種族で其の酋長をウイノコロフと稱し一人娘のワウワウは部落の花として土人達若者の間に血を過かしてゐる。この杜の酋長ウイノコロフ氏の家を訪へば通譯を介して應接室に招き入れ手製のウキスキーやパン菓子を出して歡待し持論の東亞經濟を語り話ししての談論風發に耳を傾けるのも一興であらう。

夕べ河邊に立つて唄ふ土人の挽歌を聞けば亡びゆく民族の哀愁をそよめるメロデーは物淋しい風情を帯びて忘れ得ぬ印象を刻み込まれるやうである。

コースを北へ伸ばせば日ソ國境の半田澤へゆく事が出来る。西へ安別迄の五十度線上を長く

一條の境界を劃定して密林鬱蒼たる中を割り林空一線を展開する國際區線一條の途上、要所所に石造りの國境標が建つてをりその標石の邦領に面する表には我が菊花の御紋章が刻み込まれ露領の面には双翼の鷲が刻み込まれてゐたが、今は鷲の紋章は削り取られて帝政没落の跡を止めて居るのも哀れである。標前に佇つて暫し往時の追想に耽けるのも領有の意義は油然として湧く。

樺太一を誇る水郷富内

半ば人工的に至れり盡くせりの遊園地帯の歡樂気分よりは近代人に取つて最大の慰安は大自らの景觀に心ゆくまで親しむことであらう。

狐の村小沼

首都豊原市を後にして北進すること十軒八分にして樺太觀光コースの一つに加へねばならぬ通稱狐の村小沼がある。即ち小

沼驛に降りて約一軒半、樺太中央試験所を訪ねる必要がある。

此所は樺太新興産業の動脈にしてその研究と指導を背負つて立つ機關である。廣大なる地積に一面の狐舎を擁し嚙々として戯れる養狐は總て都人の流行の寵兒となる襟巻の持主である。

樺太の氣候風土は養狐に最適にして今や特異的な重要産業の領域に進出し、全島的に隆盛を極めその業者は千數百名を數へ養狐は數萬頭に達してゐる。而もその優良なる點に於て北海道、内地のものを通かに凌ぎ近年は國內消費よりも英京ロンドン、北米紐約等外國市場に向けて發展するの機会を掴み、年々生産頭数は飛躍的倍率で増加を示してゐる。

沿線とところぐ

◇東海岸線

大泊は本島の關門であり人口二萬四千、樺太東海岸縱貫線の起點、海陸運輸交通の要衝の地にして客貨の出入輻輳を極め王子製紙工場の黒煙と共に四時休むことなく常に新天地の活氣と躍動氣

分が横溢してゐる。

△大泊港棧橋―海上千米突出した豪華な棧橋には三千噸級の船舶が數隻同時に繋留され、大泊港驛はこの棧橋上に巍然として聳え船車連絡上の施設は種内港出帆當時の不安を一瞬にして解消せしめる。

△神樂ヶ岡―市街の中央に位し、濠洲を脚下に俯する展望は上陸第一歩の樺太威として是非お薦めしたい。園内には故東伏見宮依仁親王殿下の武功記念碑、露軍砲臺の跡等がある。

△表忠碑―市街の北端中央高地には日露戦役に於ける西久保少佐以下戦死將卒五十一名の英靈を祀り、表忠碑の上には露艦ノーウキツク號の速射砲を裝置して居る。

△女麗―大泊より南方十二軒の地點にあり、日露戦役當時我が軍が始めて上陸した地點として人口に膾炙され樺太領有の歴史的印象の深い地である。

豊原市

領有前をウラジミロフカと稱し、夜毎露國の役人が強烈なるウオツカをあふり女を相手に狂躁亂舞の日を送つたと云ふ華やかな過去を秘めた街である。現在人口三萬五千を算する樺太の首都

として政治、經濟、文化の中心をなし、市區井然たるところ恰も隣道札幌を彷彿せしめるものがある。

△樺太神社―本島唯一の官幣大社で驛より二軒、旭ヶ丘の中腹、幽邃閑雅な地にあり、大國魂命、大日貴命、少彥名神の三柱を祀る。

△豊原公園―樺太神社山麓に續く西方一帯鈴谷の連峰を背に玉川の清流に沿ふ景勝の地で、市内遊覽の途次休憩の場所として好適である。

△樺太博物館―樺太に關する歴史、文化、産業に各種學術の資料を陳列し毎年五月より十月に至る間開館してゐる。

△富内湖―豊原より五十軒、我が國五湖の一つに數へられこれを圍繞する大小二十九の湖水を擁し本島唯一の水郷であり、其の著名なものに恩洞湖、里也湖、蓮花湖等がある。

◇西海岸線

本島に於ける西海岸の關門である、人口一萬二千餘、樺太唯一の不凍港として知られ眞岡と並び代表的な漁港でもある。北日本汽

船會社稚斗航路の連絡地、本島の水産物は概ね此所より島外に移出される。

△内幌炭山―本斗より南方十六軒三蓋石炭油化工業會社の礦道線が敷かれ内幌炭檢査と一般客貨の取扱をなしてゐる。同社經營の石炭油化事業である内幌低溫乾留工場あり、國策事業として重きをなしてゐる。

△多蘭泊―本斗より北方二十五軒の地點、アイヌの集團部落として知られる外多蘭泊川には樺太廳の經營になる鮭の孵化場あり、毎年晩秋の鮭獲十萬とも知れぬ鮭が湖上するを以て名高い。

△海馬島―此の島は其の昔アイヌ語で「トドモシリ」と呼ばれ海馬が多數棲息してゐたのでその名がある。本斗より三十五哩の地點にあり樺太に於ける風景の島として知られる。海濱は悉く岩石層より成り立たる所奇岩、奇石突出し風光頗る良く又船舶の天惠的避難場所として航海者に喜ばれてゐる。

眞岡

西海岸主要の都市である。人口約二萬、商港として古くから知られ一衣帯水、沿海州と相對する海港の街であり、築港には四季船舶の出入著しく、水産と商業を



以て街は活氣横溢し、市内の南端には王子製紙工場あり宏壯なる大工場とその周圍に著積された製紙原料の丸太は偉觀の一つである。

△悲戀塚物語—真岡南濱町高臺の一角に日本海に面して一見奇異な墓碑が建つてゐる。今より五十年前ロシヤ船長ネー氏と長崎娘お光との悲戀物語が古ぼけた碑の奥底に秘められてゐる。

△樂磨水産試験所—真岡より北方十三軒、驛より約一軒にある水産博士の指導と研究の殿堂にして、北洋漁業の輪郭を知る爲一度は訪れる必要がある。

泊居

製紙原料の原木を市街に積み重ねた異觀は一名丸太の町として知られる。人口一萬二千、王子製紙工場、大榮炭山等あり、工業都市として明け暮れ黒煙とエンヂンのリズムミカルな響に躍進の一途を辿つてゐる。

△水郷珍内—久春内より北方五十軒、來知志川を通航して仙境コタンアイヌ部落に達し湖畔に佇めは周圍七里の湖は澎湃として紺碧の色に千古の神祕を湛へ凄愴の感がある。遙かに伏釜、瀧城、

伊豆、古丹の秀峰を眺望し得て眞に雄大な景観である。

△鶴城港—久春内より北方百六十軒西海岸北部の良港である。附近半島の高臺に安政以來越前大野藩士が北方整備の傍漁業經營の爲居住した史蹟がある。

△惠須取—久春内より北方百三十五軒西海岸北部の要地にして近時石炭景氣の波に乗つて一躍全國に知られた工業都市である。人口二萬七千、附近には大平、塔路、惠須取の三大炭鑛を有し、市況活潑、躍進の氣分が横溢してゐる。

樺太の地名解

豊原

アイヌ語地名ヲロコトイカ。ヲロは内部、コツは谷又は荒蕪地・窪地、イは場所、即ち奥の荒蕪地又は奥の窪地といふ意で、往時はこの附近一帯は全く畜みられない原野であつた。露名ウラジミロツカ。

大泊 アイヌ語地名ポロアントマリ、ポロは大きい、アンは在る、トマリは港以上の意譯。露名ゴルサコフ。

落合 原名シナアンチヤ。シは偉大、ナは流れ、アンは在る、チヤは川岸、即ち大川岸。地形的に内淵川沿岸にあるところからの命名。露名ガルキノウラスコエ。

知取 原名シリウトール。パチエラー

博士によれば、シリは地又は平地に對する山、ウトルは空虛、中間、即ち山の間の意。

新問 原名ニイツイ。ニは木、イは在る、ツイは切る、若しツイがトイであれば土地。即ち發音によつて「木を伐る」ともなり「木のある場所」ともなる。

數香 原名シスカ或はシクカ。シシ又はシキは目、カは上又は前。目の前又は目の前の村といふことになる。露名チフメネフ或はテルペーエフスキ。

海豹島 原名アトイヤモシリ。海中の丘のやうな島といふ意。寛永年間、和蘭の探検家メルテンの命名はロツペ島。露名はチエレニ島。ロツペは海豹、チエレニは腫瘍。この島に棲むのは腫瘍獸であるから面白い誤名である。

野頃 原名ノツコロ。ノツは頸といふのから太い脚の意、コロは所有する。野頃灣の出島でその場所その物を説明してゐる。

散江 原名チリワサン。チリワは腕をくり抜くに用ひる彎曲したマキリ、サンは下る又は砂場。こゝは小さな入江が彎曲したマキリのやうに入り込んでゐる。

散頃 原名チライコロナイ。チライはイトウ魚、コロは所有する、得る。即ちイトウ魚を獲る川で、更にイトウ魚の孵化する川の意。

遠内 原名エンナイ。エン又はウエン

は悪い。即ち悪い川の意。

安別 原名アモベシ正しくはアモベシエ。アモは休息、ベシエは橋。

名好 原名ナヤシ。蓬草の多い處の意。塔路 原名トウロ。トウは沼、ロはオロとなり居るの意。即ち沼のある處。

惠須取 原名エツウトルカ。エツは脚、ウトルは中間、間、通り。

鶴城 原名ウシヨロ。ウシヨロ又はオシヨロは灣、灣の意。ウシは灣、オロは沿うた處又は内。即ち灣内又は灣沿ひの地。

來知志 原名ライチシカ。ライは死、チシは悲しむ、泣く、カは丘。こゝに住むもの必ず疫を病みて死せりと傳ふ。

珍内 原名チンナイ。チンもトンもツンでツンナイは海峽、即ち海と湖を結ぶ運河の意。

久春内 原名クシュンナイ。クシは渡る、春は、越す、エン又はウンは在る、ナイは川。即ち渡る川、横切る場所のある川、越す川の意。

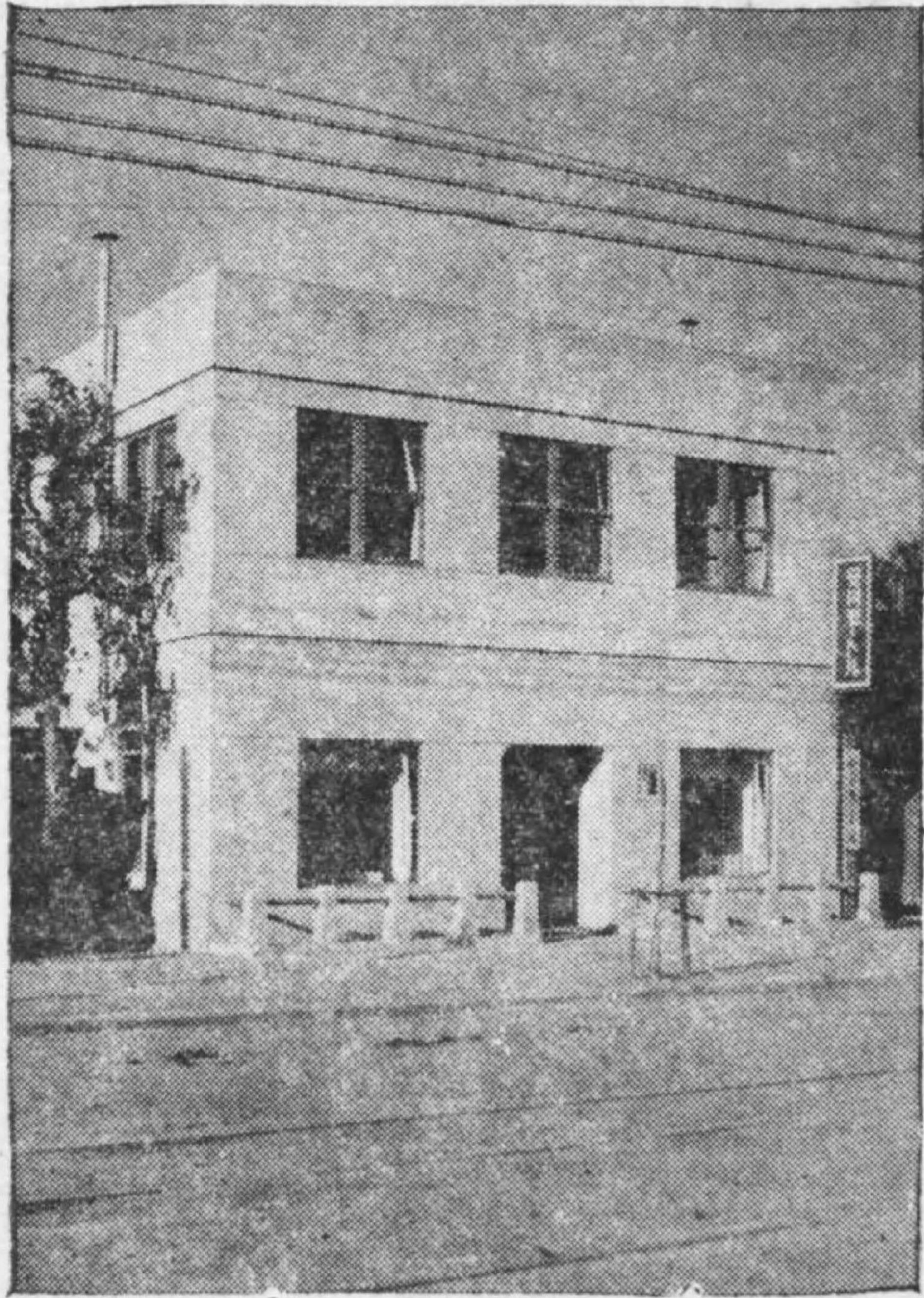
泊居 原名トマリポロ又はトマリオロトマリは港、ポロは大きい、オロは内部港を控へた廣い土地の意。

野田 原名ノツサム。ノツ又はノトは野又は脚、サムは側。脚の傍の地の意。

眞岡 原名マウカ。パチエラー博士は「マウカは靜かなる場所、マウは風、カは上」といつてゐる。



鑛山用電氣機械器具 製作 修理



株式會社 北都電機製作所 札幌市北三條東八丁目三五番地 電話四四八九番





北日本隨一

綜合印刷

札幌三田印刷所

電話 三八二四〇番

六七九

名菓旭橋

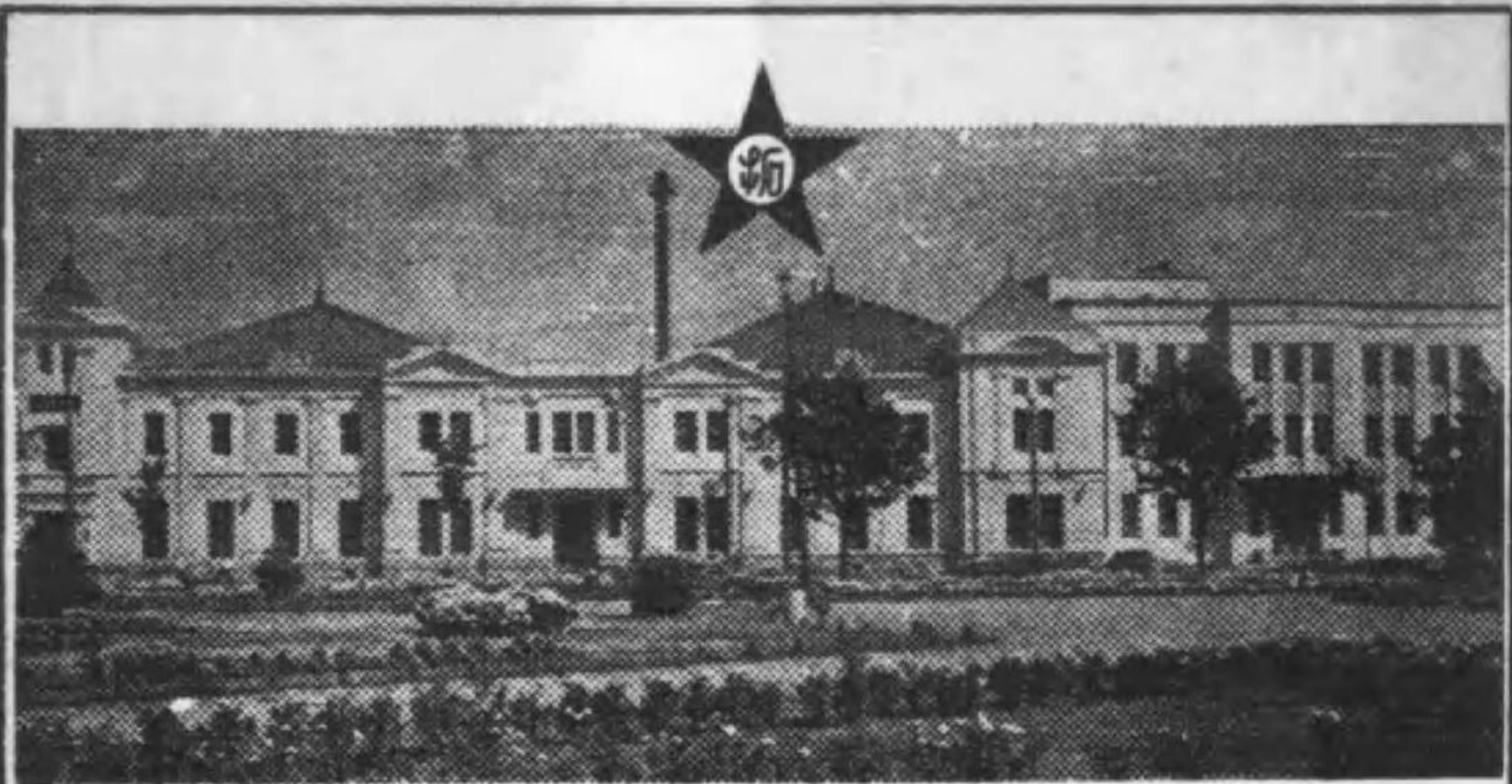
二色もふか

白雪



六七八





北海タイムス年鑑

不許複製

昭和十三年十一月二十二日印刷  
昭和十三年十一月二十五日發行

【定價壹圓】

北海タイムス社編

發行兼印刷人 戶倉忠次

印刷所 札幌市北三條西一丁目八番地 三田印刷所

發行所 札幌市大通西三丁目六番地 株式會社北海タイムス社

創立 明治三十三年  
資本金 貳千萬圓  
積立金 壹千六百貳拾萬圓

株式會社 北海道拓殖銀行

札幌市大通西三丁目 頭取 岡田信

電話二〇三〇番

支店出張所所在地

道内地 東京  
函館、同松風町、同萬代町、森、岩内、小樽、同花園町、伊達、室蘭、苫小牧、浦河、岩見澤、瀧川、奈井江、下芦別、深川、留萌、増毛、羽幌、旭川、士別、名寄、美深、中頓別、富良野、上富良野、帶廣、芽室、釧路、同北大通、根室、野付牛、留邊蘂、網走、斜里、遠輕、紋別、稚内、豊原、大泊、真岡、本斗、野田、泊居、惠須取、留多加、落合、知取、敷香



北海タイムス年鑑

不許複製

昭和十三年十一月二十二日印刷  
昭和十三年十一月二十五日發行

【定價壹圓】

北海タイムス社編

札幌市大通西三丁目六番地

發行兼印刷人 戸倉忠次

札幌市北三條西一丁目八番地

印刷所 三田印刷所

札幌市大通西三丁目六番地

發行所 株式會社北海タイムス社

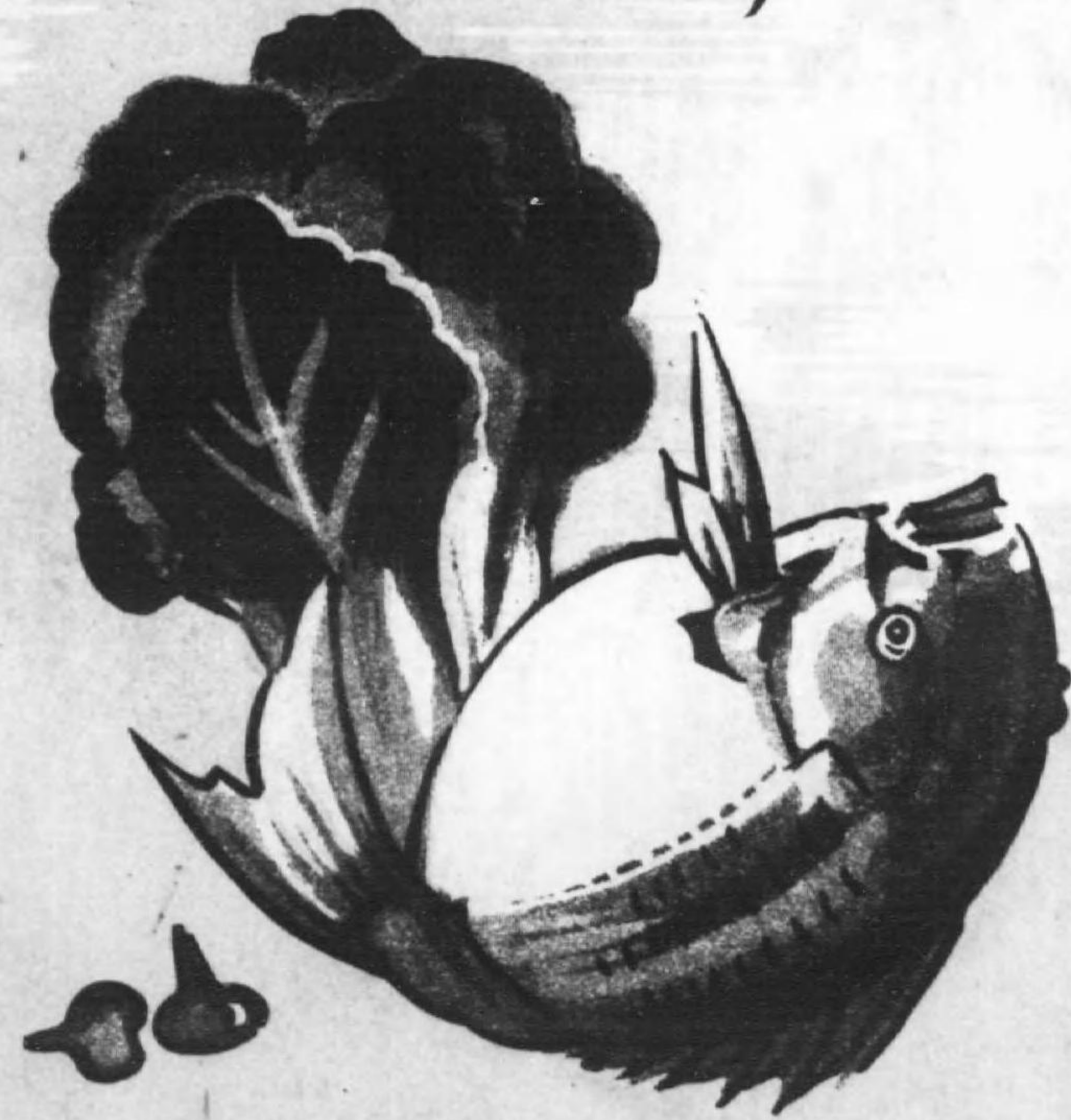




味噌  
油

菜  
魚の

交はり



旭川市 日本醸造株式会社  
電話二八一番



145  
768

資本金 五三、八〇〇、〇〇〇圓

經營 漁場 三〇〇箇所  
 罐詰 工場 四〇〇箇所  
 冷藏 庫場 五〇〇箇所  
 冷凍 船隻 一〇〇隻

日魯漁業株式會社

本社 東京市麴町區丸ノ内二ノ二  
 出張所 函館市真砂町六

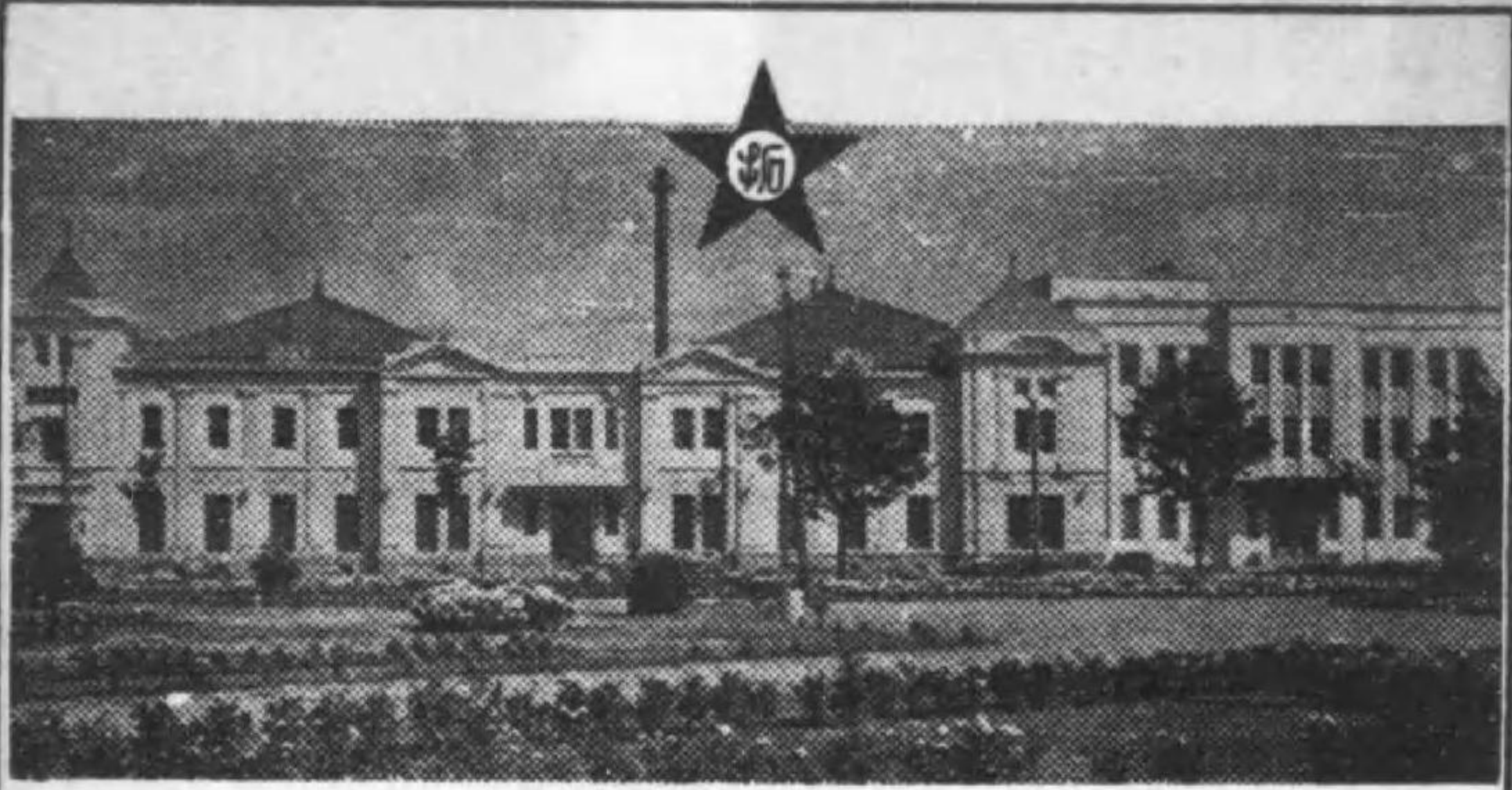


北海道炭礦汽船株式會社  
 北海道支店

夕張郡夕張町 萬字 空知郡栗澤村  
 平張 同 空知郡三笠山村  
 眞谷 同 空知郡歌志內村  
 登川 同 空知郡赤平村

小樽市色内町七丁目  
 室蘭市海岸町  
 函館市真砂町  
 札幌市北二條西三丁目帝國生命ビル内





創立 明治三十三年  
 資本金 貳千萬圓  
 積立金 壹千六百貳拾萬圓

株式會社 北海道拓殖銀行

札幌市大通西三丁目

頭取 岡田信

電話二〇三〇番

支店出張所所在地

東京 函館、同松風町、同萬代町、森、岩内、小樽、同花園町、伊達、室蘭、苦小牧、浦河、岩見澤、瀧川、奈井江、下芦別、深川、留萌、増毛、羽幌、旭川、士別、名寄、美深、中頓別、富良野、上富良野、帶廣、芽室、釧路、同北大通、根室、野付牛、留邊蘆、網走、斜里、遠輕、紋別、稚内、豊原、大泊、真岡、本斗、野田、泊居、惠須取、留多加、落合、知取、敷香



14.5  
768



終

